

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年7月27日

【計算期間】 第17特定期間
(自 2019年10月26日 至 2020年4月27日)

【ファンド名】 日本株225・米ドルコース
日本株225・ブラジルリアルコース
日本株225・豪ドルコース
日本株225・資源3通貨コース

以下、上記ファンドを総称して、「日本株225ファンド(通貨選択型)」、「各コース」または「当ファンド」ということがあり、それぞれを「各ファンド」ということがあります。

また、各ファンドを以下の略称でいうことがあります。

日本株225・米ドルコース：米ドルコース

日本株225・ブラジルリアルコース：ブラジルリアルコース

日本株225・豪ドルコース：豪ドルコース

日本株225・資源3通貨コース：資源3通貨コース

【発行者名】 三井住友D Sアセットマネジメント株式会社

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 猿田 隆

【本店の所在の場所】 東京都港区虎ノ門一丁目17番1号

【事務連絡者氏名】 植松 克彦

【連絡場所】 東京都港区虎ノ門一丁目17番1号

【電話番号】 03-6205-1649

【縦覧に供する場所】 該当ありません。

第一部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的

わが国の株式を実質的な主要投資対象とするとともに、為替取引を行うことで信託財産の成長を目指して運用を行います。

信託金の限度額

信託金の限度額は、各々につき5,000億円とします。委託会社は、受託会社と合意のうえ、限度額を変更することができます。

ファンドの基本的性格

当ファンドにおける一般社団法人投資信託協会による商品分類・属性区分は以下の通りです。

<商品分類表>

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型	国内	株式
	海外	債券 不動産投信
追加型	内外	その他資産 () 資産複合

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

商品分類表の各項目の定義について

追加型投信... 一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。

国内... 目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

株式... 目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

上記以外の各区分の定義の詳細については、一般社団法人投資信託協会のホームページ (<https://www.toushin.or.jp/>) をご参照ください。

<属性区分表>

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態
--------	------	--------	------

株式	年1回	グローバル	
一般			
大型株	年2回	日本	
中小型株			
	年4回	北米	ファミリーファンド
債券			
一般	年6回	欧州	
公債	(隔月)		
社債		アジア	
その他債券	年12回		
クレジット属性	(毎月)	オセアニア	
()			
	日々	中南米	
不動産投信			ファンド・オブ・ファンズ
	その他	アフリカ	
その他資産	()		
(投資信託証券		中近東	
(株式 一般))		(中東)	
資産複合		エマージング	
()			
資産配分固定型			
資産配分変更型			

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

属性区分表の各項目の定義について

その他資産(投資信託証券(株式 一般))

...目論見書又は投資信託約款において、投資信託証券を通じて実質的に株式(一般)に主として投資する旨の記載があるものをいいます。株式(一般)とは、属性区分において大型株、中小型株属性にあてはまらない全てのものをいいます。

年12回(毎月)...目論見書又は投資信託約款において、年12回(毎月)決算する旨の記載があるものをいいます。

日本...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

ファンド・オブ・ファンズ...一般社団法人投資信託協会が定める「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいいます。

上記以外の各区分の定義の詳細については、一般社団法人投資信託協会のホームページ(<https://www.toushin.or.jp/>)をご参照ください。

(2)【ファンドの沿革】

2011年10月31日 信託契約締結

2011年10月31日 当ファンドの設定・運用開始

2012年12月18日 「日本株225・南アフリカランドコース」の信託の終了

2019年4月1日 ファンドの委託会社としての業務を大和住銀投信投資顧問株式会社から三井住友D Sアセットマネジメント株式会社へ承継

(3)【ファンドの仕組み】

イ 当ファンドの関係法人とその役割

(イ) 委託会社 「三井住友D Sアセットマネジメント株式会社」

証券投資信託契約に基づき、信託財産の運用指図、投資信託説明書(目論見書)および運用報告書の作成等を行います。

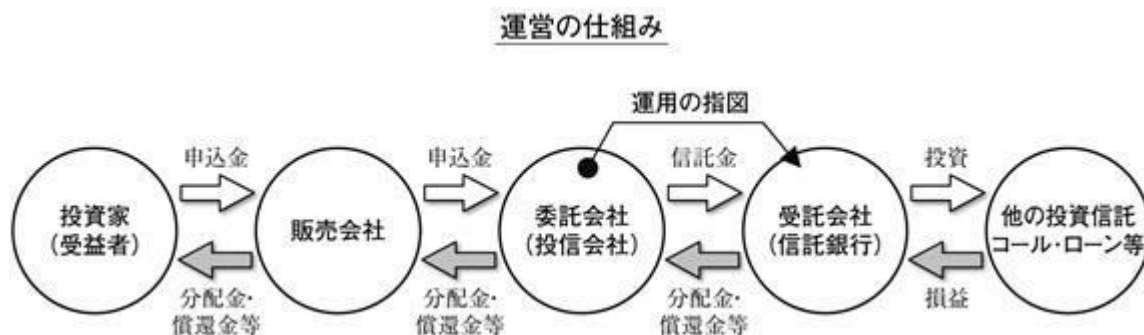
(ロ) 受託会社 「三井住友信託銀行株式会社」

証券投資信託契約に基づき、信託財産の保管・管理・計算等を行います。なお、信託事務の一部につき、株式会社日本カストディ銀行^{*}に委託することがあります。また、外国における資産の保管は、その業務を行うに十分な能力を有すると認められる外国の金融機関が行う場合があります。

^{*}株式会社日本カストディ銀行は、2020年7月27日に日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社、資産管理サービス信託銀行株式会社およびJTCホールディングス株式会社が合併して発足しました(以下同じ。)

(ハ) 販売会社

委託会社との間で締結される販売契約(名称の如何を問いません。)に基づき、当ファンドの募集・販売の取扱い、投資信託説明書(目論見書)の提供、受益者からの一部解約実行請求の受け付け、受益者への収益分配金、一部解約金および償還金の支払事務等を行います。



ロ 委託会社の概況

(イ) 資本金の額

20億円(2020年5月29日現在)

(ロ) 会社の沿革

1985年7月15日	三生投資顧問株式会社設立
1987年2月20日	証券投資顧問業の登録
1987年6月10日	投資一任契約にかかる業務の認可
1999年1月1日	三井生命保険相互会社の特別勘定運用部門と統合
1999年2月5日	三生投資顧問株式会社から三井生命グローバルアセットマネジメント株式会社へ商号変更
2000年1月27日	証券投資信託委託業の認可取得
2002年12月1日	住友ライフ・インベストメント株式会社、スミセイ グローバル投信株式会社、三井住友海上アセットマネジメント株式会社およびさくら投信投資顧問株式会社と合併し、三井住友アセットマネジメント株式会社に商号変更
2013年4月1日	トヨタアセットマネジメント株式会社と合併
2019年4月1日	大和住銀投信投資顧問株式会社と合併し、三井住友D Sアセットマネジメント株式会社に商号変更

(ハ) 大株主の状況

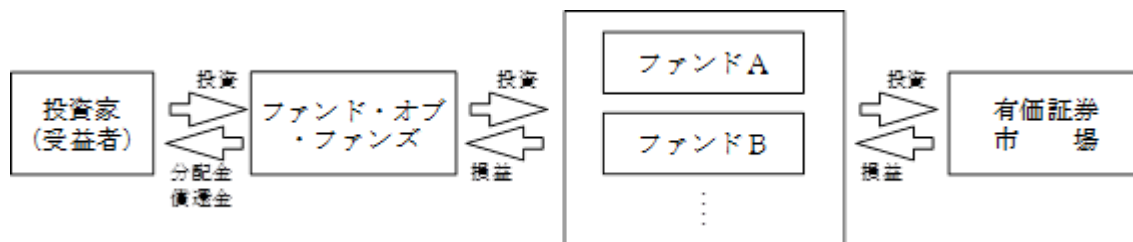
(2020年5月29日現在)

名称	住所	所有 株式数 (株)	比率 (%)
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	16,977,897	50.1
株式会社大和証券グループ本社	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号	7,946,406	23.5
三井住友海上火災保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台三丁目9番地	5,080,509	15.0
住友生命保険相互会社	大阪府大阪市中央区城見一丁目4番35号	3,528,000	10.4
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	337,248	1.0

八 ファンドの運用形態(ファンド・オブ・ファンズによる運用)

一般に、「ファンド・オブ・ファンズ」においては、株式や債券などの有価証券に直接投資するのではなく、複数の他の投資信託(ファンド)を組み入れることにより運用を行います(投資信託に投資する投資信託)。また、種々の特長を持った投資信託を購入することにより、効率的に資産配分を行います。

〔ファンド・オブ・ファンズによる運用〕



2 【投資方針】

(1) 【投資方針】

主にわが国の株式を主要投資対象とする()を主要投資対象とします。なお、親投資信託であるキャッシュ・マネジメント・マザーファンド受益証券へも投資を行います。

(注)上記の()は、以下の各々の場合において、次の通り読みかえるものとします。

米ドルコース	「Japan Stock 225 Fund USD Class」受益証券
ブラジルリアルコース	「Japan Stock 225 Fund BRL Class」受益証券
豪ドルコース	「Japan Stock 225 Fund AUD Class」受益証券
資源3通貨コース	「Japan Stock 225 Fund RCB Class」受益証券

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

ファンドの特色

1 主として日経平均株価（225種）の構成銘柄を実質的な投資対象とします。

- 当ファンドは、ケイマン籍の円建て外国投資信託証券「ジャパン・ストック225・ファンド」と国内籍の親投資信託「キャッシュ・マネジメント・マザーファンド」に投資するファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。
- 外国投資信託証券における株式への投資にあたっては、日経平均株価（225種）の値動きを概ね捉えることを目指します。
 - ※効率的な運用を行うために日経平均株価指数先物取引やETF等を活用する場合があります。
 - ※資金の流入や売買コスト・タイミングなどにより、日経平均株価（225種）の値動きから大きく乖離する場合があります。

2 為替取引を活用する4つの通貨コースによる4本のファンドから構成されています。

- 米ドルコース、ブラジルリアルコース、豪ドルコース、資源3通貨コースの4本のファンドから構成されています。
 - ※資源3通貨コースは資源国の通貨であるブラジルリアル、豪ドル、南アフリカランドの為替取引を概ね均等に行います。
- 投資を行う外国投資信託証券においては、わが国の株式に投資を行うとともに、円売り、各コースの取引対象通貨買いの為替取引を行います。これにより主に通貨間の金利差要因による「為替取引によるプレミアム（金利差相当分の収益）／コスト（金利差相当分の費用）*」、為替変動要因による「為替差益／差損」が生じます。
 - ※詳しくは、後掲「為替取引によるプレミアム／コストについて」をご参照ください。
- 各コース間でスイッチングが可能です。
 - ※販売会社によっては、スイッチングのお取扱いがない場合があります。
 - ※スイッチングのお取扱いについては、各販売会社までお問い合わせください。

3 毎月の決算時に分配を目指します。

- 決算日は毎月25日（休業日の場合は翌営業日）とします。
- 委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

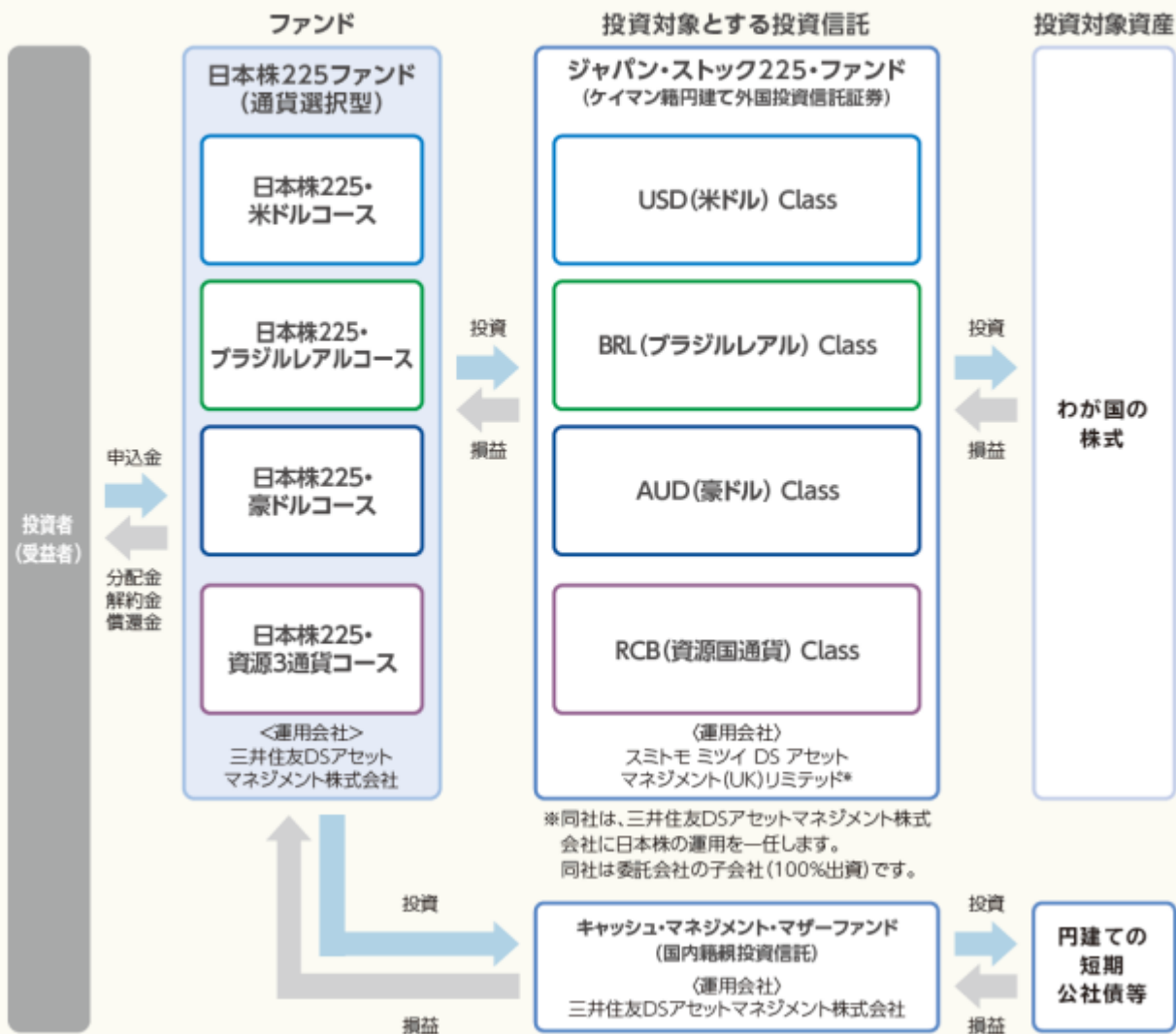


※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

ファンドのしくみ

■ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。



●「ジャパン・ストック225・ファンド」の組入比率を原則として高位に保ちます。したがって、ファンドの実質的な主要投資対象は、わが国の株式となります。

ジャパン・ストック225・ファンドの各クラスにおいて、組入れ資産の円建て資産に対して以下の為替取引を行います。

クラス	為替取引
USD(米ドル) Class	原則として保有する円建て資産に対し、円売り、米ドル買いを行います。
BRL(ブラジルリアル) Class	原則として保有する円建て資産に対し、円売り、ブラジルリアル買いを行います。
AUD(豪ドル) Class	原則として保有する円建て資産に対し、円売り、豪ドル買いを行います。
RCB(資源国通貨) Class	原則として保有する円建て資産に対し、円売り、資源国の通貨(ブラジル、オーストラリア、南アフリカの3カ国の通貨を均等)買い*を行います。

*保有する円建て資産の3分の1程度ずつ各通貨への実質的なエクスポージャーをとります。

(注1) 外国投資信託証券で行われる為替取引には、円と各取引対象通貨の為替変動リスクがあります。

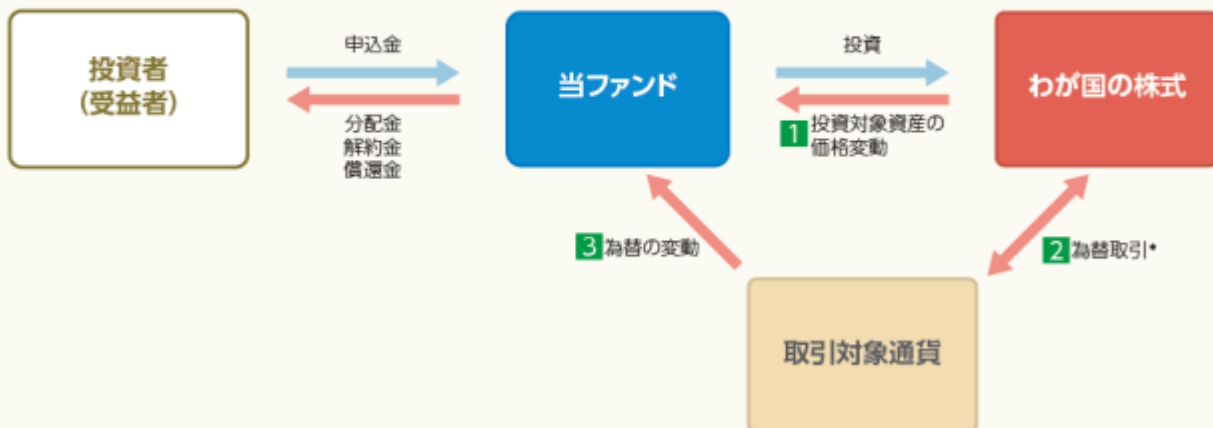
(注2) 為替取引にあたっては、為替予約取引の代わりにNDF(自物為替先渡取引)を利用する場合があります。

*日本株225ファンド(通貨選択型)については、今後新たなコースが追加されることがあります。

*日本株225ファンド(通貨選択型)の各コースのお取扱いおよびスイッチングのお取扱いについては、各販売会社までお問い合わせください。

通貨選択型ファンドの収益のイメージ

■当ファンドは主にわが国の株式への投資に加えて、為替取引を活用して運用を行うよう設計された投資信託です。



*取引対象通貨の対円での為替リスクが発生することに留意が必要です。

■当ファンドの収益の源泉は、以下の3つの要素が挙げられます。これらの収益の源泉に相応してリスクが内在していることに注意が必要です。

収益の源泉	収益を得られるケース	損失やコストが発生するケース
1 わが国の株式の配当収入、 値上がり/値下がり	株価上昇 企業利益の増加 財務状況の改善 など	株価下落 企業利益の減少 財務状況の悪化 など
2 為替取引による プレミアム/コスト	プレミアム (金利差相当分の収益)の発生 取引対象通貨の短期金利 > 円の短期金利	コスト (金利差相当分の費用)の発生 取引対象通貨の短期金利 < 円の短期金利
3 為替差益/差損	為替差益の発生 取引対象通貨に 対して円安	為替差損の発生 取引対象通貨に 対して円高

※過去の事実から見た一般的な傾向を表したものであり、上図のとおりにならない場合があります。

日経平均株価(225種)とは

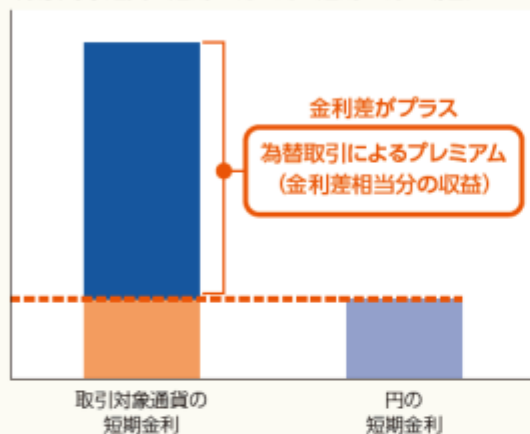
東京証券取引所第1部上場銘柄のうち、市場を代表し、かつ流動性の高い225銘柄の平均株価指数です。日本経済新聞社により算出・公表されています。

- 「日経平均株価」は、株式会社日本経済新聞社によって独自に開発された手法によって、算出される著作物であり、株式会社日本経済新聞社は、「日経平均株価」自体および「日経平均株価」を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。
- 「日経」および「日経平均株価」を示す標章に関する商標権その他の知的財産権は、全て株式会社日本経済新聞社に帰属しています。
- 当ファンドは、投資信託委託会社などの責任のもとで運用されるものであり、株式会社日本経済新聞社は、その運用および当ファンドの受益権の取引に関して、一切責任を負いません。
- 株式会社日本経済新聞社は、「日経平均株価」を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延または中断に関して、責任を負いません。
- 株式会社日本経済新聞社は、「日経平均株価」の構成銘柄、計算方法、その他「日経平均株価」の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

為替取引によるプレミアム/コストについて

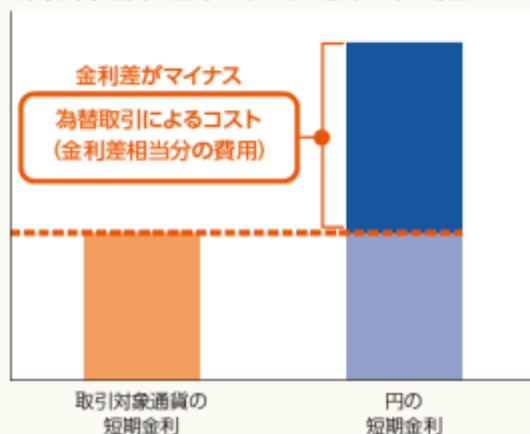
▶ 為替取引を活用した収益機会のイメージ

[取引対象通貨の短期金利>円の短期金利の場合]



■一般的に、円を売って円より高い金利の通貨を買う為替取引を行った場合、2通貨間の金利差を為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)として実質的に受け取ることが期待できます。反対に、円を売って円より低い金利の通貨を買う為替取引を行った場合は、為替取引によるコスト(金利差相当分の費用)が生じます。また、取引対象通貨の為替変動リスク等がともないます。

[取引対象通貨の短期金利<円の短期金利の場合]



■主要投資対象の外国投資信託証券では、為替予約取引やそれに類似する取引であるNDF(直物為替先渡取引)等により為替取引が行われます。これらの取引において取引価格に反映される為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)/コスト(金利差相当分の費用)は、金利水準だけでなく当該通貨に対する市場参加者の期待や需給等の影響を受けるため、金利差から理論上期待される水準と大きく異なる場合があります。

※NDF(ノン・デリバラブル・フォワード)とは、国外に資本が流出することを規制している等の状況下にある国の通貨の為替取引を行う場合に利用する為替先渡取引の一種で、当該通貨を用いた受渡しを行わず、主要通貨による差金決済のみとする条件で行う取引をいいます。

分配金に関する留意事項

■分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

ファンドで分配金が支払われるイメージ

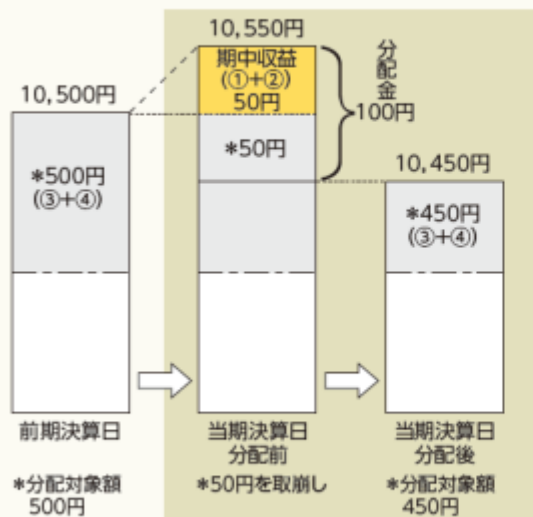


■分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。

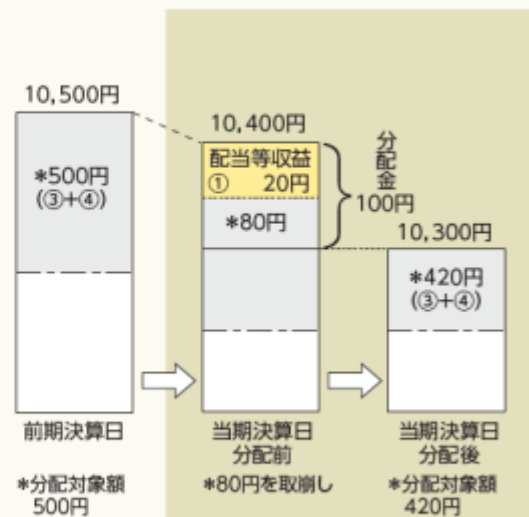
また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

（計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合）

〔前期決算日から基準価額が上昇した場合〕



〔前期決算日から基準価額が下落した場合〕



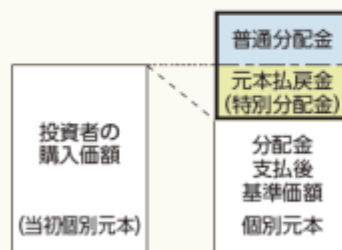
(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

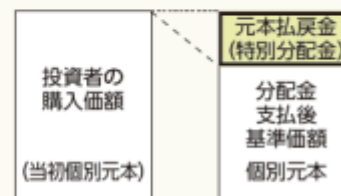
■投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが見込まれた場合も同様です。

〔分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合〕

〔分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合〕



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は**非課税扱い**となります。



普通分配金: 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金): 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(2)【投資対象】

投資の対象とする資産の種類

この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産(「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。)
 - イ. 有価証券
 - ロ. 金銭債権
 - ハ. 約束手形(金融商品取引法第2条第1項第15号に掲げるものを除きます。)
2. 次に掲げる特定資産以外の資産
 - イ. 為替手形

運用の指図範囲

委託会社は、信託金を、主として()および三井住友D Sアセットマネジメント株式会社を委託会社とし、三井住友信託銀行株式会社を受託会社として締結されたキャッシュ・マネジメント・マザーファンド(以下、「マザーファンド」といいます。)の受益証券に投資するほか、次に掲げる有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。)に投資することを指図します。

1. コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等
2. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前号の証券の性質を有するもの
3. 国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券および社債券(新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券および短期社債等を除きます。)
4. 投資信託または外国投資信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)
5. 投資証券または外国投資証券(金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。)

なお、3の証券を以下「公社債」といい、公社債にかかる運用の指図は買い現先取引(売戻し条件付の買い入れ)および債券貸借取引(現金担保付き債券借入れ)に限り行うことができます。また、4および5の証券を以下「投資信託証券」といいます。

(注)上記の()は、以下の各々の場合において、次の通り読みかえるものとします。

米ドルコース	「Japan Stock 225 Fund USD Class」受益証券
ブラジルリアルコース	「Japan Stock 225 Fund BRL Class」受益証券
豪ドルコース	「Japan Stock 225 Fund AUD Class」受益証券
資源3通貨コース	「Japan Stock 225 Fund RCB Class」受益証券

その他の金融商品の運用の指図

委託会社は、信託金を、前記の有価証券の他、次に掲げる金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形

当ファンドが投資対象とする投資信託証券の概要

当ファンドが投資対象とする投資信託証券の概要は以下の通りです。

< ジャパン・ストック225・ファンドの概要 >

ファンド名	Japan Stock 225 Fund USD Class Japan Stock 225 Fund BRL Class Japan Stock 225 Fund AUD Class Japan Stock 225 Fund RCB Class
-------	--

基本的性格	ケイマン籍 / 外国投資信託証券 / 円建て
運用目的	主として日本の株式に投資することにより、わが国の株式市場(日経平均株価)の値動きを概ね捉えることを目指します。
主要投資対象	日本企業の株式を主要投資対象とします。また、為替取引を活用します。
投資方針	<ol style="list-style-type: none"> 日経平均株価(225種)の構成銘柄を主要投資対象とします。 <ul style="list-style-type: none"> 株式への投資にあたっては、日経平均株価(225種)の値動きを概ね捉えることを目指します。 効率的な運用を行うために日経平均株価指数先物取引やETF等を活用する場合があります。 資金の流入や売買コスト・タイミングなどにより、日経平均株価(225種)の値動きから大きく乖離する場合があります。 各クラスにおいて、原則として保有する円建て資産に対し、円売り、取引対象通貨買いの為替取引を行います。 資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> 株式への投資割合には、制限を設けません。 円建て以外の資産への投資は行いません。 デリバティブの利用は、ヘッジ目的に限定しません。
運用開始日	2011年10月31日
収益の分配	原則として毎月行います。
申込手数料	ありません。
管理報酬 その他費用	<p>管理報酬等：年0.18%程度</p> <p>上記の他、信託財産にかかる租税、組入有価証券の売買時にかかる費用、信託事務の処理に要する費用、信託財産の監査にかかる費用、ファンドの設立にかかる費用、現地での登録料、法律顧問費用、名義書換事務代行費用、管理費用、為替管理費用、組入有価証券の保管に関する費用、借入金や立替金に関する利息等はファンドの信託財産から負担されます。</p> <p>上記の管理報酬等には、管理事務代行会社への報酬が含まれており、その報酬には下限金額(約40,000米ドル)が設定されています。</p> <p>受託会社への費用として年間10,000米ドルがかかります。</p> <p>上記の報酬等は将来変更になる場合があります。</p>
投資運用会社	スミトモ ミツイ DS アセットマネジメント(UK)リミテッド
副投資運用会社	三井住友DSアセットマネジメント株式会社(日本株の運用)

上記の内容は、今後変更になる場合があります。

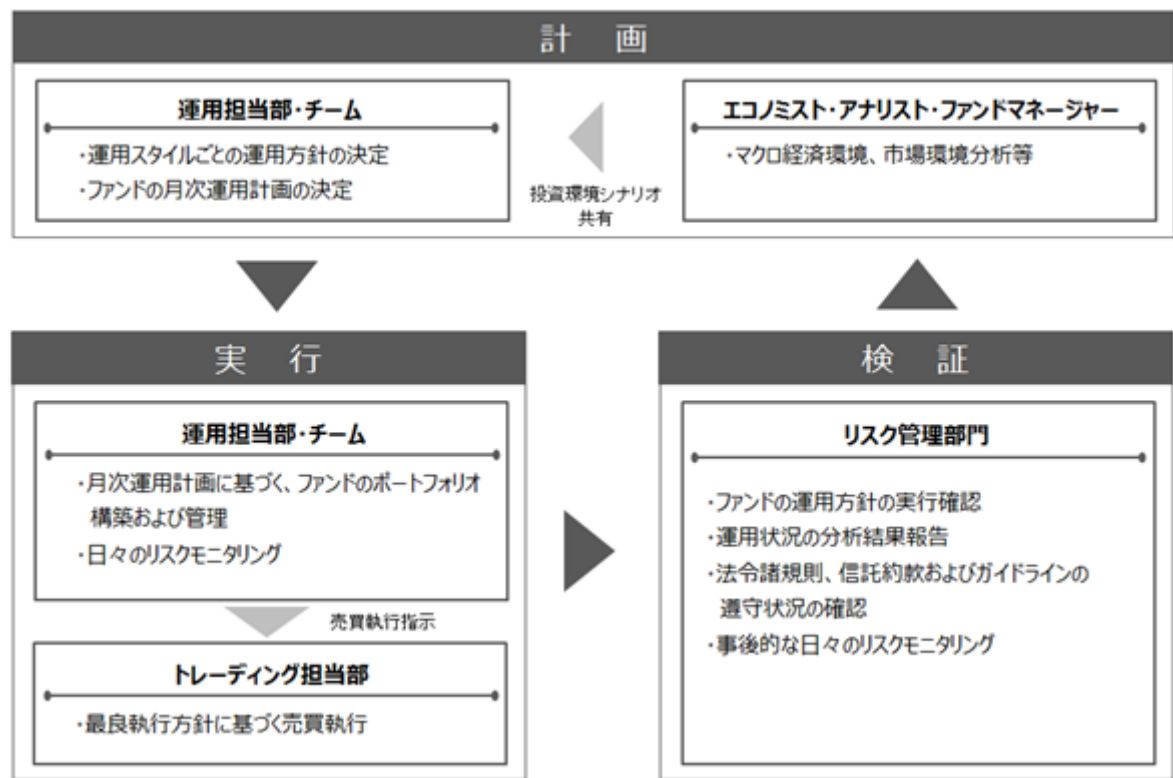
<キャッシュ・マネジメント・マザーファンドの概要>

ファンド名	キャッシュ・マネジメント・マザーファンド
投資信託委託会社	三井住友DSアセットマネジメント株式会社
受託会社 (再信託受託会社)	三井住友信託銀行株式会社 (株式会社日本カストディ銀行)
基本的性格	親投資信託
運用基本方針	安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行います。
ベンチマーク	-
主要投資対象	本邦通貨建て公社債および短期金融商品等を主要投資対象とします。
投資態度	<p>本邦通貨建て公社債および短期金融商品等に投資を行い、利息等収入の確保を図ります。</p> <p>資金動向、市況動向によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>

主な投資制限	株式への投資は行いません。 外貨建資産への投資は行いません。 デリバティブ取引（有価証券先物取引等、スワップ取引、金利先渡取引をいいます。）の利用はヘッジ目的に限定しません。
設定日	2007年2月20日
信託期間	無期限
信託報酬	ありません。
申込手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
その他費用等	ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等を信託財産から支弁します（その他費用については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を記載することができません。）。
決算日	毎年7月25日（休業日の場合翌営業日）
ベンチマークについて	-
その他	-

(3) 【運用体制】

イ ファンドの運用体制



リスク管理部門の人員数は、約50名です。

ファンドの運用体制は、委託会社の組織変更等により、変更されることがあります。

ロ 委託会社によるファンドの関係法人（販売会社を除く）に対する管理体制

ファンドの受託会社に対しては、信託財産の日常の管理業務（保管・管理・計算等）を通じて、信託事務の正確性・迅速性の確認を行い、問題がある場合は適宜改善を求めています。

(4) 【分配方針】

毎決算時(毎月25日。ただし、休業日の場合は翌営業日)に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

- イ. 分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当収益および売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。
- ロ. 収益分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託会社が決定します。ただし、分配対象額が少額な場合等には、分配を行わないことがあります。
- ハ. 留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。
将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

ファンドは計算期間中の基準価額の変動にかかわらず継続的な分配を目指します。このため、計算期間中の基準価額の上昇分を上回る分配を行う場合があります。分配金額は運用状況等により変動することがあります。

信託財産から生ずる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

- イ. 配当金、利子およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額(以下「配当等収益」といいます。)は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除した後、その残額を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、その一部を分配準備積立金として積立てることができます。
- ロ. 売買損益に評価損益を加減した利益金額(以下、「売買益」といいます。)は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、分配準備積立金として積立てることができます。
- ハ. 毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰り越します。

収益分配金の支払いは、次の方法により行います。

- イ. 収益分配金は、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日から、毎計算期間の末日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として)に支払います。
収益分配金の支払いは、原則として決算日から起算して5営業日までに開始します。
- ロ. 前項の規定にかかわらず、販売会社との間で締結した累積投資約款に基づく契約により収益分配金を再投資する受益者に対しては、受託会社が委託会社の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として、毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金が販売会社へ交付されます。この場合、販売会社は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付を行います。当該売付により増加した受益権は、信託約款の規定にしたがい、振替口座簿に記載または記録されます。収益分配金を再投資する場合の受益権の価額は、原則として、信託約款に定める各計算期間終了日(決算日)の基準価額とします。
- ハ. 上記イ. に規定する収益分配金の支払いは、販売会社の営業所等において行うものとします。

(5)【投資制限】

当ファンドは、委託会社による当ファンドの運用に関して以下のような一定の制限および限度を定めています。

信託約款に定める投資制限

イ. 主な投資制限

- (イ) 投資信託証券、短期社債等およびコマーシャル・ペーパー以外の有価証券への直接投資は行いません。
- (ロ) 投資信託証券への投資割合には制限を設けません。
- (ハ) 外貨建資産への直接投資は行いません。

ロ. 公社債の借入れの指図

- (イ)委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認められたときは、担保の提供の指図を行うものとします。
 - (ロ)前項の指図は、当該借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
 - (ハ)信託財産の一部解約等の事由により、前項の借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。
- (二)(イ)の借入れにかかる品借料は信託財産中から支弁するものとします。

ハ．信用リスク集中回避のための投資制限

- (イ)同一銘柄の投資信託証券への投資割合には、原則として制限を設けません。ただし、委託会社は、当該投資信託証券が一般社団法人投資信託協会の規則に定めるエクスポージャーがルックスルーできる場合に該当しないときは、信託財産に属する当該同一銘柄の投資信託証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。
- (ロ)一般社団法人投資信託協会の規則に定める一者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会の規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

二．資金の借入れ

- (イ)委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性を図るため、一部解約に伴う支払資金手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。)を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当を目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
 - (ロ)一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却または解約代金および有価証券等の償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%の範囲内とします。
 - (ハ)収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- (二)借入金の利息は信託財産中より支弁します。

ホ．受託会社による資金の立替え

- (イ)信託財産に属する有価証券について、借替がある場合で、委託会社の申し出があるときは、受託会社は資金の立替えをすることができます。
- (ロ)信託財産に属する有価証券にかかる償還金等、有価証券等にかかる利子等およびその他の未収入金で、信託終了日までにその金額を見積もりうるものがあるときは、受託会社がこれを立替えて信託財産に繰り入れることができます。
- (ハ)上記(イ)および(ロ)の立替金の決済および利息については、受託会社と委託会社との協議によりそのつど別にこれを定めます。

法令に基づく投資制限

イ 同一法人の発行する株式への投資制限(投資信託及び投資法人に関する法律第9条)

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、信託財産として有する当該株式にかかる議決権の総数(株主総会において決議をすることができる事項の全部につき議決権を行使することができない株式についての議決権を除き、会

社法第879条第3項の規定により議決権を有するものとみなされる株式についての議決権を含みます。)が、当該株式にかかる議決権の総数に100分の50を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、信託財産をもって当該株式を取得することを受託会社に指図することが禁じられています。

- ロ デリバティブ取引にかかる投資制限(金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号) 委託会社は、信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引(新株予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書にかかる取引および選択権付債券売買を含みます。)を行い、または継続することを受託会社に指図しないものとします。
- ハ 信用リスク集中回避のための投資制限(金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号の2) 委託会社は、運用財産に関し、信用リスク(保有する有価証券その他の資産について取引の相手方の債務不履行その他の理由により発生し得る危険をいいます。)を適正に管理する方法としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法に反することとなる取引を行うことを受託会社に指図しないものとします。

3【投資リスク】

イ ファンドのもつリスクの特性

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。

投資信託は預貯金と異なります。また、一定の投資成果を保証するものではありません。

当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

(1) 価格変動リスク

当ファンドは、投資信託証券を通じて、実質的に株式等の値動きのある有価証券等に投資します。実質的な投資対象である有価証券等の価格が下落した場合には、ファンドの基準価額も下落するおそれがあります。

(2) 株価変動に伴うリスク

株価は、発行企業の業績や市場での需給等の影響を受け変動します。また、発行企業の信用状況にも影響されます。これらの要因により、株価が下落した場合、ファンドの基準価額も下落するおそれがあります。

(3) 為替リスク

当ファンドは主要投資対象とする外国投資信託証券を通じて、実質的に円売り、取引対象通貨買いの為替取引を行います。そのため、円に対する取引対象通貨の為替変動の影響を受け、為替相場が取引対象通貨に対して円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落するおそれがあります。なお、取引対象通貨の金利が円金利より低い場合、円と取引対象通貨との金利差相当分の為替取引によるコストがかかることにご留意ください。ただし、需給要因等によっては金利差相当分以上のコストとなる場合があります。

(4) 信用リスク

株式の発行企業の財務状況等が悪化し、当該企業が経営不安や倒産等に陥ったときには、当該企業の株価は大きく下落し、投資資金が回収できなくなることもあります。この場合、ファンドの基準価額が下落するおそれがあります。

(5)流動性リスク

実質的な投資対象となる有価証券等の需給、市場に対する相場見通し、経済・金融情勢等の変化や、当該有価証券等が売買される市場の規模や厚み、市場参加者の差異等は、当該有価証券等の流動性に大きく影響します。当該有価証券等の流動性が低下した場合、売買が実行できなくなったり、不利な条件での売買を強いられることとなったり、デリバティブ等の決済の場合に反対売買が困難になったりする可能性があります。その結果、ファンドの基準価額が下落するおそれがあります。

<その他の留意点>

(1)為替取引に関する留意点

主要投資対象の外国投資信託証券では、為替予約取引やそれに類似する取引であるNDF(直物為替先渡し取引)等により為替取引が行われます。これらの取引において取引価格に反映される為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)/コスト(金利差相当分の費用)は、金利水準だけでなく当該通貨に対する市場参加者の期待や需給等の影響を受けるため、金利差から理論上期待される水準と大きく異なる場合があります。その結果、ファンドの投資成果は、実際の為替市場や、金利市場の動向から想定されるものから大きく乖離する場合があります。

また、取引対象通貨によっては、為替管理規制や流動性等により為替取引ができなくなる場合や、金額が制限される場合があります。

資源3通貨コースでは、各通貨の実質的な配分は概ね均等になることを基本としますが、投資環境や資金動向および為替の変動等により、実質的な通貨配分が均等配分から大きく乖離する場合があります。

(2)ファンドの基準価額と日経平均株価(225種)との主な乖離要因

実質的な株式への投資にあたっては、日経平均株価(225種)の値動きを概ね捉える投資成果を目指して運用を行います。当ファンドでは為替取引を活用しますので、当ファンドの基準価額と日経平均株価(225種)の値動きは乖離する可能性があります。当該為替要因を除いても、資金の流入や売買コスト、売買タイミングなどの要因から、当ファンドの基準価額の動きは当該指数の動きから乖離する場合があります。

(3)繰上償還について

当ファンドが主要投資対象とする投資信託証券が存続しないこととなる場合には、当該ファンドは繰上償還されます。

また、日本株225ファンド(通貨選択型)全体の信託財産の受益権の口数を合計した口数が30億口を下回ることとなった場合、日経平均株価が廃止された等の場合および当ファンドの目的に合った運用を継続することができない事態となった場合等には、繰上償還されることがあります。

(4)外国投資信託証券への投資について

当ファンドが投資対象とする外国投資信託証券で、当ファンドや当該外国投資信託証券を投資対象とする他のファンドで追加設定・解約等に伴う資金移動が発生し、当該外国投資信託証券において売買が生じた場合等には、当ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。また、外国投資信託証券からわが国の株式へ投資する場合、わが国の投資信託証券から投資を行う場合と比べて税制が不利になる場合があります。

(5)換金制限等に関する留意点

投資資産の市場流動性が低下することにより投資資産の取引等が困難となった場合は、ファンドの換金申込みの受け付けを中止すること、および既に受け付けた換金申込みを取り消すことがあります。

(6)クーリング・オフについて

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

(7) 法令・税制・会計等の変更可能性について

法令・税制・会計等は、変更される可能性があります。

□ 投資リスクの管理体制

委託会社では、運用部門から独立した組織を設置し、リスク管理部において信託約款等に定める各種投資制限・リスク指標のモニタリング等、コンプライアンス部において法令・諸規則等の遵守状況の確認等を行っています。当該モニタリングおよび確認結果等は、運用評価会議、リスク管理会議およびコンプライアンス会議に報告されます。

(参考情報) 投資リスクの定量的比較

〔 ファンドの年間騰落率および
分配金再投資基準価額の推移 〕

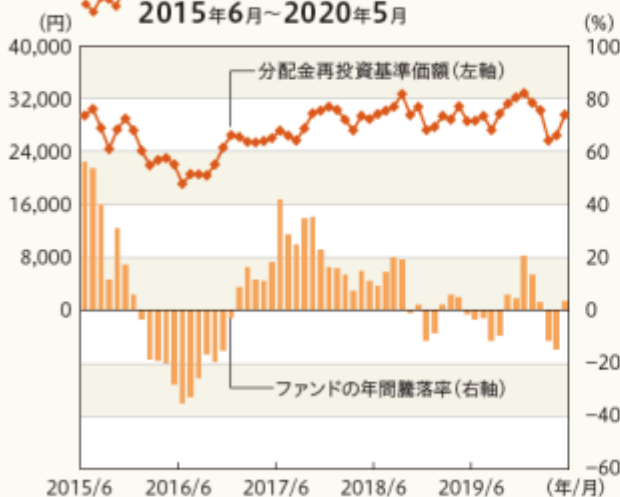
各月末におけるファンドの1年間の騰落率と分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。

〔 ファンドと他の代表的な
資産クラスとの騰落率の比較 〕

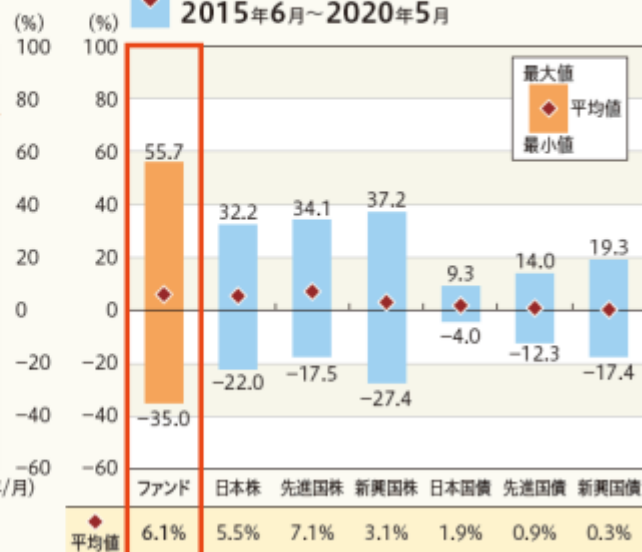
ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて、各月末における1年間の騰落率の平均・最大・最小を比較したものです。

■ 米ドルコース

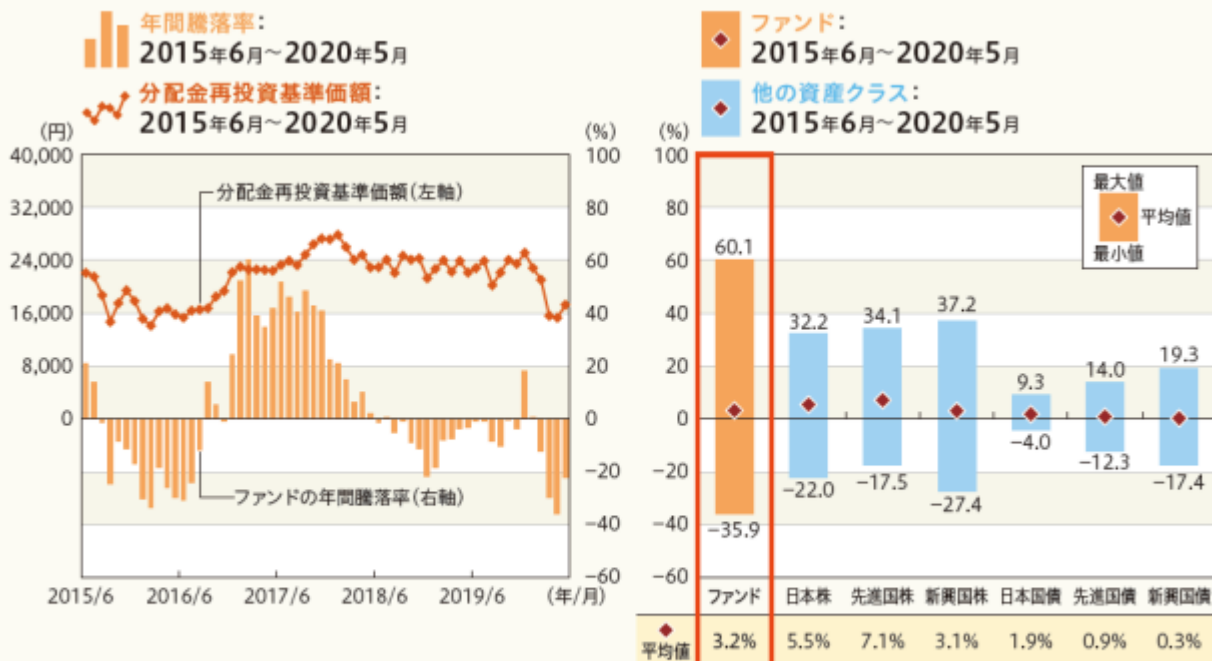
年間騰落率：
2015年6月～2020年5月
分配金再投資基準価額：
2015年6月～2020年5月



ファンド：
2015年6月～2020年5月
他の資産クラス：
2015年6月～2020年5月



■ ブラジルリアルコース



※年間騰落率、分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものと仮定して計算したものです。
※分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。

※ファンドの騰落率は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額をもとに計算したものと異なります。
※すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

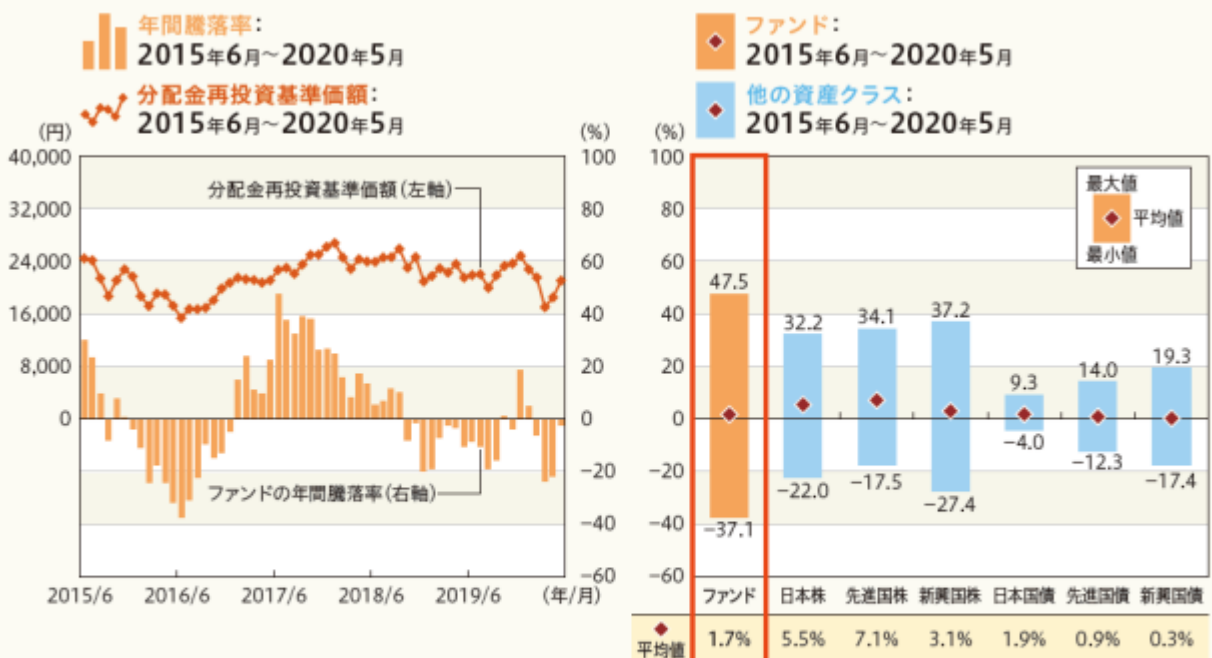
【 ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移 】

各月末におけるファンドの1年間の騰落率と分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。

【 ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較 】

ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて、各月末における1年間の騰落率の平均・最大・最小を比較したものです。

■ 豪ドルコース



※年間騰落率、分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものと仮定して計算したものです。
※分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。

※ファンドの騰落率は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額をもとに計算したものと異なります。
※すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

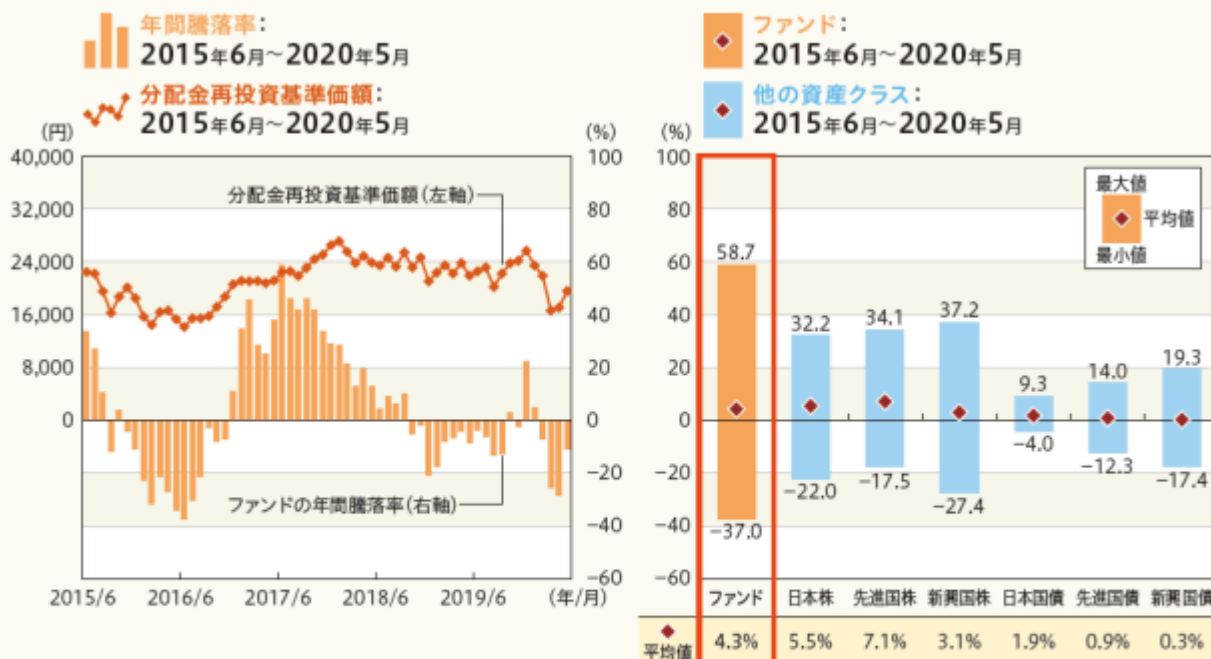
「ファンドの年間騰落率および 分配金再投資基準価額の推移」

各月末におけるファンドの1年間の騰落率と分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。

「ファンドと他の代表的な 資産クラスとの騰落率の比較」

ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて、各月末における1年間の騰落率の平均・最大・最小を比較したものです。

■ 資源3通貨コース



※年間騰落率、分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものと仮定して計算したものです。

※分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。

※ファンドの騰落率は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額をもとに計算したものと異なります。

※すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの指数

日本株	TOPIX(配当込み) 株式会社東京証券取引所が算出、公表する指数で、東京証券取引所第一部に上場している内国普通株式全銘柄を対象としています。
先進国株	MSCIコクサイインデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
日本国債	NOMURA-BPI(国債) 野村證券株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的財産権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

原則として、申込金額(取得申込受付日の翌営業日の基準価額×申込口数)に、3.3%(税抜き3.0%)を上限として、販売会社がそれぞれ別に定める申込手数料率を乗じて得た額となります。

申込手数料は販売会社によるファンドの募集・販売の取扱い事務等の対価です。

累積投資契約に基づく収益分配金の再投資の場合は無手数料となります。

申込手数料に関する詳細は、お申込みの販売会社にお問い合わせください。

(2)【換金(解約)手数料】

解約手数料はありません。

(3)【信託報酬等】

ファンド	純資産総額に年1.0175%(税抜き0.925%)の率を乗じて得た金額が、毎日信託財産の費用として計上され、ファンドの基準価額に反映されます。また、信託報酬は、各計算期末または信託終了のときに、信託財産中から支弁するものとします。 信託報酬の実質的配分は以下の通りです。 <信託報酬の配分(税抜き)>		
	支払先	料率	役務の内容
	委託会社	年0.45%	ファンドの運用等の対価
	販売会社	年0.45%	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
	受託会社	年0.025%	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの指図の実行等の対価
上記の配分には別途消費税等相当額がかかります。			
投資対象とする投資信託	年0.18%程度*		
実質的な負担	ファンドの純資産総額に対して年1.1975%(税抜き1.105%)程度*		

*当ファンドが投資対象とする投資信託の管理報酬等には関係法人により下限金額が設定されているものがあり、ファンドの純資産総額等によっては、年率換算で上記の料率を上回る場合があります。

*当ファンドが投資対象とする投資信託における信託報酬等は将来変更される場合があります。その場合、実質的な信託報酬率は変更されることとなります。

(4)【その他の手数料等】

イ 信託財産の財務諸表の監査に要する費用は、原則として、計算期間を通じて毎日、純資産総額に年0.01045%(税抜き0.0095%)以内の率を乗じて得た金額が信託財産の費用として計上され、各特定期末(毎年4月、10月に属する計算期末)または信託終了のときに、信託財産中から支弁するものとします。監査費用は、将来、監査法人との契約等により変更となることがあります。

ロ 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立て替えた立替金の利息は、信託財産中から支弁します。

ハ 有価証券の売買時の手数料、デリバティブ取引等に要する費用、および外国における資産の保管等に要する費用等(それらにかかる消費税等相当額を含みます。)は、信託財産中から支弁するものとします。

上記ロ、ハにかかる費用に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、実務上、その発生もしくは請求のつど、信託財産の費用として認識され、その時点の信託財産で負担することとなります。したがって、あらかじめ、その金額、上限額、計算方法等を具体的に記載することはできません。

上記（１）～（４）にかかる手数料等および他の投資信託（ファンド）の組入れを通じて間接的に負担する手数料等の合計額、その上限額、計算方法等は、手数料等に保有期間に応じて異なるものが含まれていたり、発生時・請求時に初めて具体的金額を認識するものがあったりすることから、あらかじめ具体的に記載することはできません。

（５）【課税上の取扱い】

イ 個別元本について

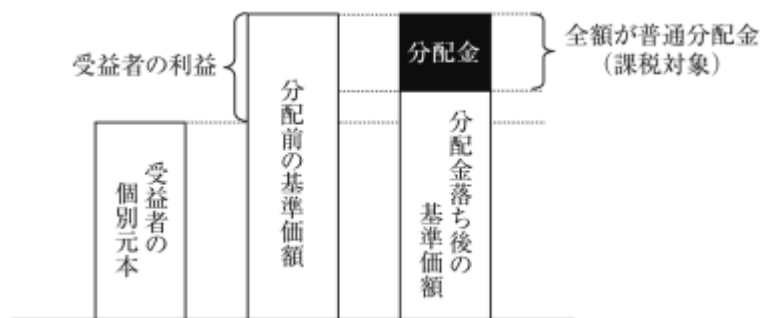
- （イ）追加型株式投資信託について、受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等相当額は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。
- （ロ）受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合については、各販売会社毎に個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても同一受益者の顧客口座が複数存在する場合や、「分配金受取りコース」と「分配金自動再投資コース」を併用するファンドの場合には、別々に個別元本の算出が行われることがあります。
- （ハ）受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。（「元本払戻金（特別分配金）」については、下記の（収益分配金の課税について）を参照。）

ロ 一部解約時および償還時の課税について

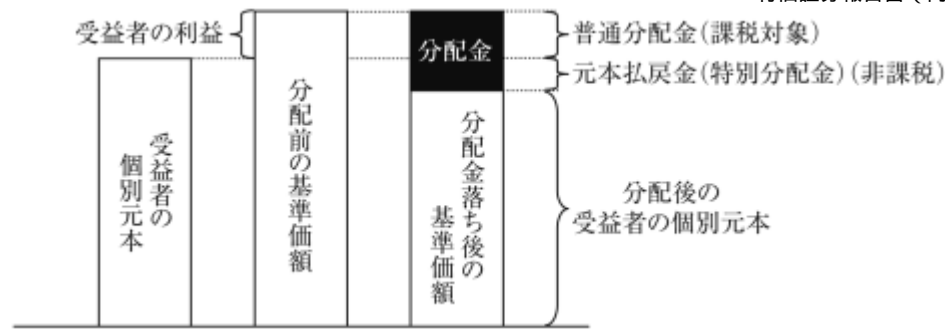
個人の受益者については、一部解約時および償還時の譲渡益が課税対象となり、法人の受益者については、一部解約時および償還時の個別元本超過額が課税対象となります。

ハ 収益分配金の課税について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分）の区分があります。収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。



収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。なお、受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。



上記の図はあくまでもイメージ図であり、個別元本や基準価額、分配金の各水準等を示唆するものではありません。

二 個人、法人別の課税の取扱いについて

(イ) 個人の受益者に対する課税

・収益分配時

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行われ、申告不要制度が適用されます。確定申告による総合課税または申告分離課税の選択も可能です。

・一部解約時および償還時

一部解約時および償還時の譲渡益については、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による申告分離課税が適用されます。ただし、特定口座（源泉徴収選択口座）の利用も可能です。

また、一部解約時および償還時の損失については、確定申告により、収益分配金、特定公社債等（公募公社債投資信託を含みます。）の譲渡益および利子等、他の上場株式等にかかる譲渡益および配当等との通算が可能です。

(ロ) 法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、15.315%（所得税のみ）の税率で源泉徴収されます。

当ファンドは、課税上は株式投資信託として取り扱われます。

公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」、未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA（ニーサ）」の適用対象です。ただし、販売会社によっては当ファンドをNISA、ジュニアNISAでの取扱い対象としない場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

なお、当ファンドは、配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

※NISA、ジュニアNISAをご利用になる場合、各制度の違いにご留意ください。
また、販売会社での専用口座の開設等、一定の要件があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

	少額投資非課税制度 NISA	未成年者少額投資非課税制度 ジュニアNISA
対象となる投資信託	公募株式投資信託（新たに購入が必要）	
非課税対象	公募株式投資信託から生じる配当所得および譲渡所得	
利用対象となる方	20歳以上の日本居住者 （専用口座が開設される年の1月1日現在）	0～19歳の日本居住者 （専用口座が開設される年の1月1日現在）
非課税の期間	最長5年間（投資期間は2023年まで）	
利用できる限度額	120万円/年 （最大600万円）	80万円/年 （最大400万円）

外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

上記「(5)課税上の取扱い」ほか税制に関する本書の記載は、2020年5月末現在の情報をもとに作成しています。税法の改正等により、変更されることがあります。

課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家に確認されることをお勧めいたします。

5【運用状況】

【日本株225・米ドルコース】

(1)【投資状況】

(2020年5月末現在)

投資資産の種類	国・地域名	時価合計(円)	投資比率
親投資信託受益証券 (キャッシュ・マネジメント・マザーファンド)	日本	50,024	0.00%
投資信託受益証券	ケイマン諸島	6,716,286,445	97.97%
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)		139,329,330	2.03%
純資産総額		6,855,665,799	100.00%

(注)投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

(2020年5月末現在)

イ. 主要銘柄の明細

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
1	Japan Stock 225 Fund USD Class ケイマン諸島	投資信託受益証券 -	8,051,170,517	0.7724 6,219,353,412	0.8342 6,716,286,445	- -	97.97%
2	キャッシュ・マネジメント・マ ザーファンド 日本	親投資信託受益 証券 -	49,237	1.0159 50,024	1.0160 50,024	- -	0.00%

(注)投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ. 投資有価証券の種類別投資比率

種類別	投資比率
投資信託受益証券	97.97%
親投資信託受益証券	0.00%
合計	97.97%

(注)投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価の比率です。

ハ. 投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

(2020年5月末現在)

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

(2020年5月末現在)

該当事項はありません。

(3)【運用実績】

【純資産の推移】

	純資産総額(百万円)		1口当りの純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
設定時 (2011年10月31日)	93	-	1.0000	-
第1特定期間末 (2012年4月25日)	21	-	1.0739	-
第2特定期間末 (2012年10月25日)	32	-	0.9792	-
第3特定期間末 (2013年4月25日)	95	-	1.7383	-
第4特定期間末 (2013年10月25日)	907	-	1.7616	-

第5特定期間末 (2014年4月25日)	3,527	-	1.8261	-
第6特定期間末 (2014年10月27日)	5,308	5,529	1.9144	2.0344
第7特定期間末 (2015年4月27日)	11,452	12,240	2.4953	2.6753
第8特定期間末 (2015年10月26日)	19,796	20,998	2.1991	2.3791
第9特定期間末 (2016年4月25日)	21,335	23,298	1.7209	1.9009
第10特定期間末 (2016年10月25日)	16,732	18,929	1.3931	1.5731
第11特定期間末 (2017年4月25日)	14,566	15,921	1.4754	1.6054
第12特定期間末 (2017年10月25日)	13,334	14,410	1.6324	1.7524
第13特定期間末 (2018年4月25日)	11,767	12,678	1.4898	1.6098
第14特定期間末 (2018年10月25日)	11,485	12,441	1.4194	1.5394
第15特定期間末 (2019年4月25日)	11,004	11,506	1.3785	1.4385
2019年5月末日	10,003	-	1.2721	-
2019年6月末日	9,834	-	1.2650	-
2019年7月末日	10,112	-	1.2869	-
2019年8月末日	9,536	-	1.1838	-
2019年9月末日	9,807	-	1.2803	-
第16特定期間末 (2019年10月25日)	9,742	10,209	1.3263	1.3863
2019年10月末日	9,670	-	1.3356	-
2019年11月末日	8,853	-	1.3658	-
2019年12月末日	8,447	-	1.3835	-
2020年1月末日	7,640	-	1.3124	-
2020年2月末日	7,139	-	1.2563	-
2020年3月末日	6,155	-	1.0563	-
第17特定期間末 (2020年4月27日)	6,116	6,474	1.0548	1.1148
2020年4月末日	6,254	-	1.0773	-
2020年5月末日	6,855	-	1.1944	-

(注) 純資産総額は百万円未満切捨てで表記しております。

【分配の推移】

期間	1口当りの分配金(円)
第1特定期間(2011年10月31日～2012年4月25日)	0
第2特定期間(2012年4月26日～2012年10月25日)	0
第3特定期間(2012年10月26日～2013年4月25日)	0
第4特定期間(2013年4月26日～2013年10月25日)	0
第5特定期間(2013年10月26日～2014年4月25日)	0
第6特定期間(2014年4月26日～2014年10月27日)	0.1200
第7特定期間(2014年10月28日～2015年4月27日)	0.1800
第8特定期間(2015年4月28日～2015年10月26日)	0.1800
第9特定期間(2015年10月27日～2016年4月25日)	0.1800
第10特定期間(2016年4月26日～2016年10月25日)	0.1800
第11特定期間(2016年10月26日～2017年4月25日)	0.1300
第12特定期間(2017年4月26日～2017年10月25日)	0.1200
第13特定期間(2017年10月26日～2018年4月25日)	0.1200
第14特定期間(2018年4月26日～2018年10月25日)	0.1200
第15特定期間(2018年10月26日～2019年4月25日)	0.0600
第16特定期間(2019年4月26日～2019年10月25日)	0.0600
第17特定期間(2019年10月26日～2020年4月27日)	0.0600

【収益率の推移】

期間	収益率
第1特定期間(2011年10月31日～2012年4月25日)	7.4%
第2特定期間(2012年4月26日～2012年10月25日)	8.8%
第3特定期間(2012年10月26日～2013年4月25日)	77.5%
第4特定期間(2013年4月26日～2013年10月25日)	1.3%
第5特定期間(2013年10月26日～2014年4月25日)	3.7%
第6特定期間(2014年4月26日～2014年10月27日)	11.4%

第7特定期間(2014年10月28日～2015年4月27日)	39.7%
第8特定期間(2015年4月28日～2015年10月26日)	4.7%
第9特定期間(2015年10月27日～2016年4月25日)	13.6%
第10特定期間(2016年4月26日～2016年10月25日)	8.6%
第11特定期間(2016年10月26日～2017年4月25日)	15.2%
第12特定期間(2017年4月26日～2017年10月25日)	18.8%
第13特定期間(2017年10月26日～2018年4月25日)	1.4%
第14特定期間(2018年4月26日～2018年10月25日)	3.3%
第15特定期間(2018年10月26日～2019年4月25日)	1.3%
第16特定期間(2019年4月26日～2019年10月25日)	0.6%
第17特定期間(2019年10月26日～2020年4月27日)	15.9%

(注) 収益率 = (当特定期末分配基準価額 - 前特定期末分配基準価額) ÷ 前特定期末分配基準価額 × 100

(4) 【設定及び解約の実績】

期間	設定総額(円)	解約総額(円)
第1特定期間(2011年10月31日～2012年4月25日)	121,995,218	102,183,305
第2特定期間(2012年4月26日～2012年10月25日)	26,775,144	13,287,610
第3特定期間(2012年10月26日～2013年4月25日)	64,582,148	42,832,670
第4特定期間(2013年4月26日～2013年10月25日)	637,230,534	176,898,490
第5特定期間(2013年10月26日～2014年4月25日)	2,060,935,164	644,547,178
第6特定期間(2014年4月26日～2014年10月27日)	2,686,490,609	1,845,062,348
第7特定期間(2014年10月28日～2015年4月27日)	6,128,278,438	4,311,844,295
第8特定期間(2015年4月28日～2015年10月26日)	6,074,706,201	1,662,098,398
第9特定期間(2015年10月27日～2016年4月25日)	5,923,094,919	2,528,066,846
第10特定期間(2016年4月26日～2016年10月25日)	2,709,531,261	3,095,829,001
第11特定期間(2016年10月26日～2017年4月25日)	1,581,952,610	3,719,805,175
第12特定期間(2017年4月26日～2017年10月25日)	698,091,883	2,402,282,121
第13特定期間(2017年10月26日～2018年4月25日)	1,084,953,069	1,355,083,646
第14特定期間(2018年4月26日～2018年10月25日)	1,669,685,610	1,477,100,187
第15特定期間(2018年10月26日～2019年4月25日)	1,167,071,085	1,275,217,272
第16特定期間(2019年4月26日～2019年10月25日)	859,246,585	1,496,257,659
第17特定期間(2019年10月26日～2020年4月27日)	314,875,363	1,862,565,899

(注) 本邦外における設定及び解約の実績はありません。

【日本株225・ブラジルリアルコース】

(1) 【投資状況】

(2020年5月末現在)

投資資産の種類	国・地域名	時価合計(円)	投資比率
親投資信託受益証券 (キャッシュ・マネジメント・マザーファンド)	日本	400,197	0.32%
投資信託受益証券	ケイマン諸島	120,969,150	97.27%
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)		2,989,052	2.40%
純資産総額		124,358,399	100.00%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(2) 【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

(2020年5月末現在)

イ. 主要銘柄の明細

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
1	Japan Stock 225 Fund BRL Class ケイマン諸島	投資信託受益証券 -	279,245,499	0.3862 107,852,812	0.4332 120,969,150	- -	97.27%
2	キャッシュ・マネジメント・マ ザーファンド 日本	親投資信託受益証券 -	393,895	1.0159 400,197	1.0160 400,197	- -	0.32%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ. 投資有価証券の種類別投資比率

種類別	投資比率
投資信託受益証券	97.27%
親投資信託受益証券	0.32%
合計	97.60%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価の比率です。

ハ. 投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

【投資不動産物件】
（2020年5月末現在）
該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】
（2020年5月末現在）
該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

	純資産総額（百万円）		1口当りの純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
設定時 （2011年10月31日）	1,846	-	1.0000	-
第1特定期間末 （2012年4月25日）	238	255	0.9771	0.9971
第2特定期間末 （2012年10月25日）	322	332	0.8194	0.8494
第3特定期間末 （2013年4月25日）	398	407	1.5444	1.5744
第4特定期間末 （2013年10月25日）	1,061	1,082	1.4505	1.4805
第5特定期間末 （2014年4月25日）	1,070	1,092	1.5157	1.5457
第6特定期間末 （2014年10月27日）	1,087	1,154	1.4726	1.6026
第7特定期間末 （2015年4月27日）	1,267	1,398	1.6287	1.8087
第8特定期間末 （2015年10月26日）	704	823	1.1062	1.2862
第9特定期間末 （2016年4月25日）	756	863	0.9084	1.0584
第10特定期間末 （2016年10月25日）	580	642	0.8894	0.9794
第11特定期間末 （2017年4月25日）	462	496	1.0103	1.0753
第12特定期間末 （2017年10月25日）	380	405	1.1317	1.1917
第13特定期間末 （2018年4月25日）	302	321	1.0137	1.0737
第14特定期間末 （2018年10月25日）	260	277	0.9419	1.0019
第15特定期間末 （2019年4月25日）	229	237	0.8767	0.9067
2019年5月末日	192	-	0.8125	-
2019年6月末日	196	-	0.8315	-
2019年7月末日	196	-	0.8663	-
2019年8月末日	166	-	0.7284	-
2019年9月末日	180	-	0.7927	-
第16特定期間末 （2019年10月25日）	193	200	0.8521	0.8821
2019年10月末日	193	-	0.8564	-
2019年11月末日	183	-	0.8293	-
2019年12月末日	192	-	0.8837	-
2020年1月末日	172	-	0.7987	-
2020年2月末日	157	-	0.7315	-
2020年3月末日	114	-	0.5379	-
第17特定期間末 （2020年4月27日）	103	110	0.4880	0.5180
2020年4月末日	111	-	0.5217	-
2020年5月末日	124	-	0.5824	-

（注）純資産総額は百万円未満切捨てで表記しております。

【分配の推移】

期間	1口当りの分配金（円）
第1特定期間（2011年10月31日～2012年4月25日）	0.0200
第2特定期間（2012年4月26日～2012年10月25日）	0.0300
第3特定期間（2012年10月26日～2013年4月25日）	0.0300
第4特定期間（2013年4月26日～2013年10月25日）	0.0300
第5特定期間（2013年10月26日～2014年4月25日）	0.0300

第6特定期間(2014年4月26日～2014年10月27日)	0.1300
第7特定期間(2014年10月28日～2015年4月27日)	0.1800
第8特定期間(2015年4月28日～2015年10月26日)	0.1800
第9特定期間(2015年10月27日～2016年4月25日)	0.1500
第10特定期間(2016年4月26日～2016年10月25日)	0.0900
第11特定期間(2016年10月26日～2017年4月25日)	0.0650
第12特定期間(2017年4月26日～2017年10月25日)	0.0600
第13特定期間(2017年10月26日～2018年4月25日)	0.0600
第14特定期間(2018年4月26日～2018年10月25日)	0.0600
第15特定期間(2018年10月26日～2019年4月25日)	0.0300
第16特定期間(2019年4月26日～2019年10月25日)	0.0300
第17特定期間(2019年10月26日～2020年4月27日)	0.0300

【収益率の推移】

期間	収益率
第1特定期間(2011年10月31日～2012年4月25日)	0.3%
第2特定期間(2012年4月26日～2012年10月25日)	13.1%
第3特定期間(2012年10月26日～2013年4月25日)	92.1%
第4特定期間(2013年4月26日～2013年10月25日)	4.1%
第5特定期間(2013年10月26日～2014年4月25日)	6.6%
第6特定期間(2014年4月26日～2014年10月27日)	5.7%
第7特定期間(2014年10月28日～2015年4月27日)	22.8%
第8特定期間(2015年4月28日～2015年10月26日)	21.0%
第9特定期間(2015年10月27日～2016年4月25日)	4.3%
第10特定期間(2016年4月26日～2016年10月25日)	7.8%
第11特定期間(2016年10月26日～2017年4月25日)	20.9%
第12特定期間(2017年4月26日～2017年10月25日)	18.0%
第13特定期間(2017年10月26日～2018年4月25日)	5.1%
第14特定期間(2018年4月26日～2018年10月25日)	1.2%
第15特定期間(2018年10月26日～2019年4月25日)	3.7%
第16特定期間(2019年4月26日～2019年10月25日)	0.6%
第17特定期間(2019年10月26日～2020年4月27日)	39.2%

(注) 収益率 = (当特定期末分配付基準価額 - 前特定期末分配付基準価額) ÷ 前特定期末分配付基準価額 × 100

(4) 【設定及び解約の実績】

期間	設定総額(円)	解約総額(円)
第1特定期間(2011年10月31日～2012年4月25日)	2,104,442,769	1,859,947,278
第2特定期間(2012年4月26日～2012年10月25日)	333,222,765	184,299,281
第3特定期間(2012年10月26日～2013年4月25日)	670,900,547	806,566,914
第4特定期間(2013年4月26日～2013年10月25日)	855,666,786	381,866,379
第5特定期間(2013年10月26日～2014年4月25日)	569,932,717	595,250,743
第6特定期間(2014年4月26日～2014年10月27日)	688,999,545	656,686,084
第7特定期間(2014年10月28日～2015年4月27日)	639,668,056	600,125,510
第8特定期間(2015年4月28日～2015年10月26日)	149,827,750	291,181,065
第9特定期間(2015年10月27日～2016年4月25日)	429,936,932	233,714,590
第10特定期間(2016年4月26日～2016年10月25日)	51,181,721	231,391,022
第11特定期間(2016年10月26日～2017年4月25日)	49,697,968	244,796,338
第12特定期間(2017年4月26日～2017年10月25日)	82,582,042	204,147,192
第13特定期間(2017年10月26日～2018年4月25日)	33,679,900	71,004,349
第14特定期間(2018年4月26日～2018年10月25日)	16,849,565	39,105,683
第15特定期間(2018年10月26日～2019年4月25日)	5,303,365	19,604,811
第16特定期間(2019年4月26日～2019年10月25日)	4,196,161	39,360,269
第17特定期間(2019年10月26日～2020年4月27日)	5,145,989	19,435,459

(注) 本邦外における設定及び解約の実績はありません。

【日本株225・豪ドルコース】

(1) 【投資状況】

(2020年5月末現在)

投資資産の種類	国・地域名	時価合計(円)	投資比率
親投資信託受益証券 (キャッシュ・マネジメント・マザーファンド)	日本	150,074	0.04%
投資信託受益証券	ケイマン諸島	348,633,426	97.99%
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)		6,995,509	1.97%
純資産総額		355,779,009	100.00%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

(2020年5月末現在)

イ. 主要銘柄の明細

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
1	Japan Stock 225 Fund AUD Class ケイマン諸島	投資信託受益証券 -	495,710,829	0.6387 316,610,845	0.7033 348,633,426	- -	97.99%
2	キャッシュ・マネジメント・マ ザーファンド 日本	親投資信託受益証券 -	147,711	1.0159 150,074	1.0160 150,074	- -	0.04%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ. 投資有価証券の種類別投資比率

種類別	投資比率
投資信託受益証券	97.99%
親投資信託受益証券	0.04%
合計	98.03%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価の比率です。

ハ. 投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

(2020年5月末現在)

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

(2020年5月末現在)

該当事項はありません。

(3)【運用実績】

【純資産の推移】

	純資産総額（百万円）		1口当りの純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
設定時 (2011年10月31日)	653	-	1.0000	-
第1特定期間末 (2012年4月25日)	77	80	1.0552	1.0652
第2特定期間末 (2012年10月25日)	126	128	0.9687	0.9837
第3特定期間末 (2013年4月25日)	125	126	1.7617	1.7767
第4特定期間末 (2013年10月25日)	157	159	1.6662	1.6812
第5特定期間末 (2014年4月25日)	319	322	1.6851	1.7001
第6特定期間末 (2014年10月27日)	590	619	1.6768	1.8018
第7特定期間末 (2015年4月27日)	647	701	1.9348	2.1148
第8特定期間末 (2015年10月26日)	836	914	1.5463	1.7263
第9特定期間末 (2016年4月25日)	835	925	1.2578	1.4178
第10特定期間末 (2016年10月25日)	617	691	1.0056	1.1256
第11特定期間末 (2017年4月25日)	571	623	1.0634	1.1584
第12特定期間末 (2017年10月25日)	534	580	1.2129	1.3029
第13特定期間末 (2018年4月25日)	531	571	1.0829	1.1729
第14特定期間末 (2018年10月25日)	475	520	0.9589	1.0489
第15特定期間末 (2019年4月25日)	429	451	0.9151	0.9601
2019年5月末日	391	-	0.8279	-
2019年6月末日	394	-	0.8340	-
2019年7月末日	412	-	0.8316	-

2019年8月末日	440	-	0.7464	-
2019年9月末日	413	-	0.8100	-
第16特定期間末 (2019年10月25日)	426	449	0.8441	0.8891
2019年10月末日	427	-	0.8556	-
2019年11月末日	417	-	0.8613	-
2019年12月末日	426	-	0.8966	-
2020年1月末日	350	-	0.8150	-
2020年2月末日	321	-	0.7631	-
2020年3月末日	295	-	0.5961	-
第17特定期間末 (2020年4月27日)	301	322	0.6124	0.6574
2020年4月末日	315	-	0.6402	-
2020年5月末日	355	-	0.7201	-

(注) 純資産総額は百万円未満切捨てで表記しております。

【分配の推移】

期間	1口当りの分配金(円)
第1特定期間(2011年10月31日～2012年4月25日)	0.0100
第2特定期間(2012年4月26日～2012年10月25日)	0.0150
第3特定期間(2012年10月26日～2013年4月25日)	0.0150
第4特定期間(2013年4月26日～2013年10月25日)	0.0150
第5特定期間(2013年10月26日～2014年4月25日)	0.0150
第6特定期間(2014年4月26日～2014年10月27日)	0.1250
第7特定期間(2014年10月28日～2015年4月27日)	0.1800
第8特定期間(2015年4月28日～2015年10月26日)	0.1800
第9特定期間(2015年10月27日～2016年4月25日)	0.1600
第10特定期間(2016年4月26日～2016年10月25日)	0.1200
第11特定期間(2016年10月26日～2017年4月25日)	0.0950
第12特定期間(2017年4月26日～2017年10月25日)	0.0900
第13特定期間(2017年10月26日～2018年4月25日)	0.0900
第14特定期間(2018年4月26日～2018年10月25日)	0.0900
第15特定期間(2018年10月26日～2019年4月25日)	0.0450
第16特定期間(2019年4月26日～2019年10月25日)	0.0450
第17特定期間(2019年10月26日～2020年4月27日)	0.0450

【収益率の推移】

期間	収益率
第1特定期間(2011年10月31日～2012年4月25日)	6.5%
第2特定期間(2012年4月26日～2012年10月25日)	6.8%
第3特定期間(2012年10月26日～2013年4月25日)	83.4%
第4特定期間(2013年4月26日～2013年10月25日)	4.6%
第5特定期間(2013年10月26日～2014年4月25日)	2.0%
第6特定期間(2014年4月26日～2014年10月27日)	6.9%
第7特定期間(2014年10月28日～2015年4月27日)	26.1%
第8特定期間(2015年4月28日～2015年10月26日)	10.8%
第9特定期間(2015年10月27日～2016年4月25日)	8.3%
第10特定期間(2016年4月26日～2016年10月25日)	10.5%
第11特定期間(2016年10月26日～2017年4月25日)	15.2%
第12特定期間(2017年4月26日～2017年10月25日)	22.5%
第13特定期間(2017年10月26日～2018年4月25日)	3.3%
第14特定期間(2018年4月26日～2018年10月25日)	3.1%
第15特定期間(2018年10月26日～2019年4月25日)	0.1%
第16特定期間(2019年4月26日～2019年10月25日)	2.8%
第17特定期間(2019年10月26日～2020年4月27日)	22.1%

(注) 収益率 = (当特定期末分配付基準価額 - 前特定期末分配付基準価額) ÷ 前特定期末分配付基準価額 × 100

(4) 【設定及び解約の実績】

期間	設定総額(円)	解約総額(円)
第1特定期間(2011年10月31日～2012年4月25日)	736,851,691	663,312,398
第2特定期間(2012年4月26日～2012年10月25日)	101,184,505	44,134,105
第3特定期間(2012年10月26日～2013年4月25日)	82,065,798	141,301,750
第4特定期間(2013年4月26日～2013年10月25日)	45,829,504	22,465,779
第5特定期間(2013年10月26日～2014年4月25日)	171,358,782	76,547,128
第6特定期間(2014年4月26日～2014年10月27日)	270,696,134	108,366,937
第7特定期間(2014年10月28日～2015年4月27日)	333,912,742	351,333,679
第8特定期間(2015年4月28日～2015年10月26日)	345,926,115	139,126,711
第9特定期間(2015年10月27日～2016年4月25日)	314,447,080	191,755,264

第10特定期間（2016年4月26日～2016年10月25日）	86,438,541	136,541,415
第11特定期間（2016年10月26日～2017年4月25日）	60,895,794	137,729,428
第12特定期間（2017年4月26日～2017年10月25日）	107,027,956	203,307,870
第13特定期間（2017年10月26日～2018年4月25日）	136,489,815	86,363,880
第14特定期間（2018年4月26日～2018年10月25日）	90,209,233	84,905,321
第15特定期間（2018年10月26日～2019年4月25日）	52,525,764	79,563,418
第16特定期間（2019年4月26日～2019年10月25日）	157,193,514	120,840,905
第17特定期間（2019年10月26日～2020年4月27日）	89,201,771	102,276,927

（注）本邦外における設定及び解約の実績はありません。

【日本株 2 2 5・資源 3 通貨コース】

（1）【投資状況】

（2020年5月末現在）

投資資産の種類	国・地域名	時価合計（円）	投資比率
親投資信託受益証券 （キャッシュ・マネジメント・マザーファンド）	日本	50,024	0.02%
投資信託受益証券	ケイマン諸島	196,856,211	97.72%
コール・ローン、その他の資産（負債控除後）		4,541,403	2.25%
純資産総額		201,447,638	100.00%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

（2）【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

（2020年5月末現在）

イ．主要銘柄の明細

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数、口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
1	Japan Stock 225 Fund RCB Class	投資信託受益証券	337,198,032	0.5279	0.5838	-	97.72%
	ケイマン諸島	-		178,023,238	196,856,211	-	
2	キャッシュ・マネジメント・マ ザーファンド	親投資信託受益証券	49,237	1.0159	1.0160	-	0.02%
	日本	-		50,024	50,024	-	

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

種類別	投資比率
投資信託受益証券	97.72%
親投資信託受益証券	0.02%
合計	97.75%

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

（2020年5月末現在）

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

（2020年5月末現在）

該当事項はありません。

（3）【運用実績】

【純資産の推移】

	純資産総額（百万円）		1口当りの純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
設定時 （2011年10月31日）	177	-	1.0000	-
第1特定期間末 （2012年4月25日）	36	37	1.0450	1.0610
第2特定期間末 （2012年10月25日）	37	38	0.8856	0.9096
第3特定期間末 （2013年4月25日）	76	77	1.5373	1.5613
第4特定期間末 （2013年10月25日）	124	126	1.4431	1.4671
第5特定期間末 （2014年4月25日）	108	110	1.4520	1.4760

第6特定期間末 (2014年10月27日)	1,694	1,773	1.4465	1.5745
第7特定期間末 (2015年4月27日)	1,186	1,311	1.6659	1.8459
第8特定期間末 (2015年10月26日)	811	925	1.2470	1.4270
第9特定期間末 (2016年4月25日)	570	667	0.9702	1.1202
第10特定期間末 (2016年10月25日)	404	450	0.8628	0.9528
第11特定期間末 (2017年4月25日)	403	431	0.9832	1.0482
第12特定期間末 (2017年10月25日)	416	439	1.1115	1.1715
第13特定期間末 (2018年4月25日)	361	382	1.0679	1.1279
第14特定期間末 (2018年10月25日)	327	348	0.9591	1.0191
第15特定期間末 (2019年4月25日)	289	299	0.9285	0.9585
2019年5月末日	263	-	0.8507	-
2019年6月末日	269	-	0.8709	-
2019年7月末日	265	-	0.8895	-
2019年8月末日	229	-	0.7717	-
2019年9月末日	248	-	0.8433	-
第16特定期間末 (2019年10月25日)	264	273	0.8977	0.9277
2019年10月末日	264	-	0.8983	-
2019年11月末日	259	-	0.9056	-
2019年12月末日	269	-	0.9591	-
2020年1月末日	244	-	0.8703	-
2020年2月末日	225	-	0.8072	-
2020年3月末日	173	-	0.6083	-
第17特定期間末 (2020年4月27日)	167	175	0.5866	0.6166
2020年4月末日	176	-	0.6202	-
2020年5月末日	201	-	0.7048	-

(注) 純資産総額は百万円未満切捨てて表記しております。

【分配の推移】

期間	1口当りの分配金(円)
第1特定期間(2011年10月31日～2012年4月25日)	0.0160
第2特定期間(2012年4月26日～2012年10月25日)	0.0240
第3特定期間(2012年10月26日～2013年4月25日)	0.0240
第4特定期間(2013年4月26日～2013年10月25日)	0.0240
第5特定期間(2013年10月26日～2014年4月25日)	0.0240
第6特定期間(2014年4月26日～2014年10月27日)	0.1280
第7特定期間(2014年10月28日～2015年4月27日)	0.1800
第8特定期間(2015年4月28日～2015年10月26日)	0.1800
第9特定期間(2015年10月27日～2016年4月25日)	0.1500
第10特定期間(2016年4月26日～2016年10月25日)	0.0900
第11特定期間(2016年10月26日～2017年4月25日)	0.0650
第12特定期間(2017年4月26日～2017年10月25日)	0.0600
第13特定期間(2017年10月26日～2018年4月25日)	0.0600
第14特定期間(2018年4月26日～2018年10月25日)	0.0600
第15特定期間(2018年10月26日～2019年4月25日)	0.0300
第16特定期間(2019年4月26日～2019年10月25日)	0.0300
第17特定期間(2019年10月26日～2020年4月27日)	0.0300

【収益率の推移】

期間	収益率
第1特定期間(2011年10月31日～2012年4月25日)	6.1%
第2特定期間(2012年4月26日～2012年10月25日)	13.0%
第3特定期間(2012年10月26日～2013年4月25日)	76.3%
第4特定期間(2013年4月26日～2013年10月25日)	4.6%
第5特定期間(2013年10月26日～2014年4月25日)	2.3%
第6特定期間(2014年4月26日～2014年10月27日)	8.4%
第7特定期間(2014年10月28日～2015年4月27日)	27.6%
第8特定期間(2015年4月28日～2015年10月26日)	14.3%

第9特定期間(2015年10月27日～2016年4月25日)	10.2%
第10特定期間(2016年4月26日～2016年10月25日)	1.8%
第11特定期間(2016年10月26日～2017年4月25日)	21.5%
第12特定期間(2017年4月26日～2017年10月25日)	19.2%
第13特定期間(2017年10月26日～2018年4月25日)	1.5%
第14特定期間(2018年4月26日～2018年10月25日)	4.6%
第15特定期間(2018年10月26日～2019年4月25日)	0.1%
第16特定期間(2019年4月26日～2019年10月25日)	0.1%
第17特定期間(2019年10月26日～2020年4月27日)	31.3%

(注) 収益率 = (当特定期末分配付基準価額 - 前特定期末分配付基準価額) ÷ 前特定期末分配付基準価額 × 100

(4) 【設定及び解約の実績】

期間	設定総額(円)	解約総額(円)
第1特定期間(2011年10月31日～2012年4月25日)	219,819,555	185,281,743
第2特定期間(2012年4月26日～2012年10月25日)	35,238,814	27,326,222
第3特定期間(2012年10月26日～2013年4月25日)	54,788,699	47,271,478
第4特定期間(2013年4月26日～2013年10月25日)	64,868,341	28,619,047
第5特定期間(2013年10月26日～2014年4月25日)	60,874,871	72,370,491
第6特定期間(2014年4月26日～2014年10月27日)	1,406,429,154	309,795,352
第7特定期間(2014年10月28日～2015年4月27日)	514,626,824	973,867,378
第8特定期間(2015年4月28日～2015年10月26日)	323,198,545	384,407,397
第9特定期間(2015年10月27日～2016年4月25日)	211,295,419	274,144,660
第10特定期間(2016年4月26日～2016年10月25日)	26,183,072	145,605,818
第11特定期間(2016年10月26日～2017年4月25日)	11,424,270	69,888,902
第12特定期間(2017年4月26日～2017年10月25日)	16,589,148	51,952,618
第13特定期間(2017年10月26日～2018年4月25日)	48,390,677	85,067,499
第14特定期間(2018年4月26日～2018年10月25日)	30,245,189	26,533,724
第15特定期間(2018年10月26日～2019年4月25日)	12,802,612	42,747,534
第16特定期間(2019年4月26日～2019年10月25日)	10,899,478	28,383,278
第17特定期間(2019年10月26日～2020年4月27日)	10,904,416	20,326,667

(注) 本邦外における設定及び解約の実績はありません。

(参考) マザーファンドの運用状況

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

(1) 投資状況

(2020年5月末現在)

投資資産の種類	国・地域名	時価合計(円)	投資比率
地方債証券	日本	401,475,500	7.11%
特殊債券	日本	2,791,034,220	49.39%
社債券	日本	1,001,987,300	17.73%
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)		1,456,043,049	25.77%
純資産総額		5,650,540,069	100.00%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

(2020年5月末現在)

イ. 主要銘柄の明細

	銘柄名 国・地域	種類 業種	株数・口数 又は額面金額	簿価単価(円) 簿価(円)	評価単価(円) 時価(円)	利率(%) 償還期限	投資 比率
1	25 政保政策投資C 日本	特殊債券 -	600,000,000	100.12 600,750,000	100.08 600,520,800	0.1470 2020/11/25	10.63%
2	18政保地方公共団 日本	特殊債券 -	595,000,000	100.63 598,798,250	100.43 597,587,655	0.9000 2020/11/17	10.58%
3	19政保地方公共団 日本	特殊債券 -	500,000,000	100.68 503,400,000	100.66 503,317,500	1.2000 2020/12/14	8.91%
4	120 政保道路機構 日本	特殊債券 -	500,000,000	100.53 502,685,000	100.38 501,926,000	0.9000 2020/10/30	8.88%
5	115 政保道路機構 日本	特殊債券 -	195,000,000	100.46 195,904,800	100.26 195,518,115	1.0000 2020/08/31	3.46%
6	110 政保道路機構 日本	特殊債券 -	195,000,000	100.41 195,815,100	100.10 195,207,090	1.3000 2020/06/30	3.45%
7	22 国際協力銀行 日本	特殊債券 -	100,000,000	101.72 101,720,000	101.51 101,515,500	1.8900 2021/03/22	1.80%
8	347 大阪府公債 日本	地方債証券 -	100,000,000	101.12 101,123,000	100.96 100,966,200	1.3200 2021/02/25	1.79%
9	3 大日本印刷	社債券	100,000,000	101.33	100.71	1.3580	1.78%

	日本	-		101,335,000	100,713,800	2020/12/18	
10	15東日本旅客鉄道 日本	社債券 -	100,000,000	102.45 102,450,000	100.62 100,621,900	2.6500 2020/08/25	1.78%
11	22-15 兵庫県公債 日本	地方債証券 -	100,000,000	100.47 100,478,000	100.36 100,365,600	0.9600 2020/10/20	1.78%
12	5 日本梱包運輸 日本	社債券 -	100,000,000	100.55 100,553,000	100.20 100,206,600	0.6140 2020/12/18	1.77%
13	75 三菱商事 日本	社債券 -	100,000,000	100.39 100,391,000	100.18 100,186,100	1.2310 2020/07/29	1.77%
14	2 ファーストリテイリング 日本	社債券 -	100,000,000	100.26 100,265,000	100.09 100,097,200	0.2910 2020/12/18	1.77%
15	2 コカ・コーライースト 日本	社債券 -	100,000,000	100.18 100,186,000	100.09 100,096,900	0.2760 2020/12/14	1.77%
16	2 川崎市公債15年 日本	地方債証券 -	100,000,000	100.42 100,428,000	100.09 100,095,700	1.6300 2020/06/22	1.77%
17	316 北海道電力 日本	社債券 -	100,000,000	101.00 101,007,100	100.07 100,076,700	1.1640 2020/06/25	1.77%
18	27-1 仙台市5年 日本	地方債証券 -	100,000,000	100.10 100,104,000	100.04 100,048,000	0.1010 2021/01/27	1.77%
19	33 三菱UFJリース 日本	社債券 -	100,000,000	100.10 100,109,000	99.99 99,999,900	0.2970 2020/06/04	1.77%
20	495 東北電力 日本	社債券 -	100,000,000	100.07 100,077,000	99.99 99,999,600	0.1400 2020/06/25	1.77%
21	44 西日本高速道 日本	社債券 -	100,000,000	100.00 100,000,000	99.98 99,988,600	0.0010 2020/09/18	1.77%
22	122 政保道路機構 日本	特殊債券 -	95,000,000	100.91 95,867,350	100.46 95,441,560	0.9000 2020/11/30	1.69%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

種類別	投資比率
特殊債券	49.39%
社債券	17.73%
地方債証券	7.11%
合計	74.23%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

投資不動産物件

(2020年5月末現在)

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

(2020年5月末現在)

該当事項はありません。

(参考情報)

基準日:2020年5月29日

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。
※委託会社ホームページにおいてもファンドの運用状況は適宜開示しています。

基準価額・純資産の推移

分配の推移

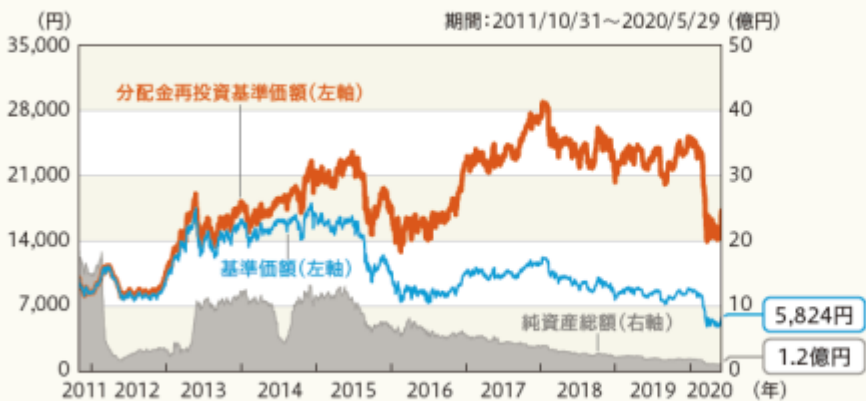
■ 米ドルコース



決算期	分配金
2020年5月	100円
2020年4月	100円
2020年3月	100円
2020年2月	100円
2020年1月	100円
直近1年間累計	1,200円
設定来累計	15,200円

*分配金は1万口当たり、税引前

■ ブラジルリアルコース



決算期	分配金
2020年5月	50円
2020年4月	50円
2020年3月	50円
2020年2月	50円
2020年1月	50円
直近1年間累計	600円
設定来累計	12,100円

*分配金は1万口当たり、税引前

*分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものと計算しております。

■ 豪ドルコース



決算期	分配金
2020年5月	75円
2020年4月	75円
2020年3月	75円
2020年2月	75円
2020年1月	75円
直近1年間累計	900円
設定来累計	13,425円

*分配金は1万口当たり、税引前

■ 資源3通貨コース



決算期	分配金
2020年5月	50円
2020年4月	50円
2020年3月	50円
2020年2月	50円
2020年1月	50円
直近1年間累計	600円
設定来累計	11,800円

*分配金は1万口当たり、税引前

*分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものと計算しております。

主要な資産の状況

■ 米ドルコース

投資銘柄	投資比率
Japan Stock 225 Fund USD Class	98.0%
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	0.0%

■ ブラジルリアルコース

投資銘柄	投資比率
Japan Stock 225 Fund BRL Class	97.3%
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	0.3%

■ 豪ドルコース

投資銘柄	投資比率
Japan Stock 225 Fund AUD Class	98.0%
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	0.0%

■ 資源3通貨コース

投資銘柄	投資比率
Japan Stock 225 Fund RCB Class	97.7%
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	0.0%

*投資比率は全て純資産総額対比

▶ 投資対象とする投資信託の現況

■ ジャパン・ストック225・ファンド

上位10銘柄

	投資銘柄	業種	投資比率
1	ファーストリテイリング	小売業	9.7%
2	ソフトバンクグループ	情報・通信業	4.8%
3	東京エレクトロン	電気機器	3.6%
4	ファナック	電気機器	3.2%
5	KDDI	情報・通信業	3.1%
6	テルモ	精密機器	2.7%
7	ダイキン工業	機械	2.6%
8	中外製薬	医薬品	2.5%
9	信越化学工業	化学	2.1%
10	京セラ	電気機器	2.0%

*投資比率はジャパン・ストック225・ファンドの保有現物株(ETFを含む)の時価総額対比

*業種は東証33業種分類

■ キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

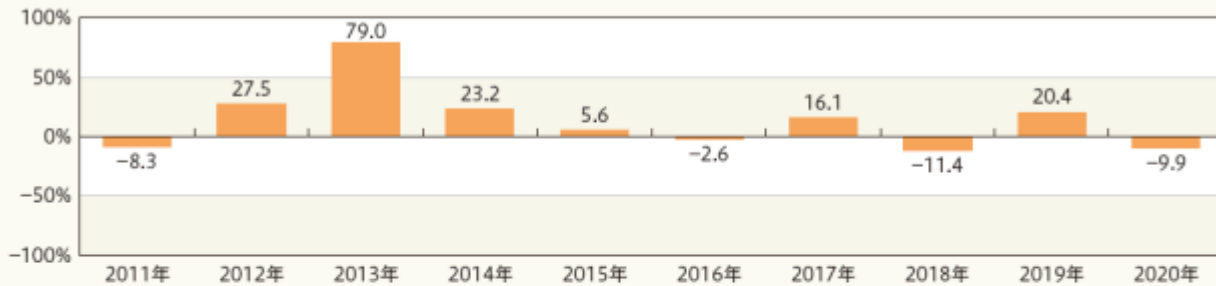
上位10銘柄

	投資銘柄	種別	投資比率
1	25 政保政策投資C	特殊債券	10.6%
2	18 政保地方公共団	特殊債券	10.6%
3	19 政保地方公共団	特殊債券	8.9%
4	120 政保道路機構	特殊債券	8.9%
5	115 政保道路機構	特殊債券	3.5%
6	110 政保道路機構	特殊債券	3.5%
7	22 国際協力銀行	特殊債券	1.8%
8	347 大阪府公債	地方債証券	1.8%
9	3 大日本印刷	社債券	1.8%
10	15 東日本旅客鉄道	社債券	1.8%

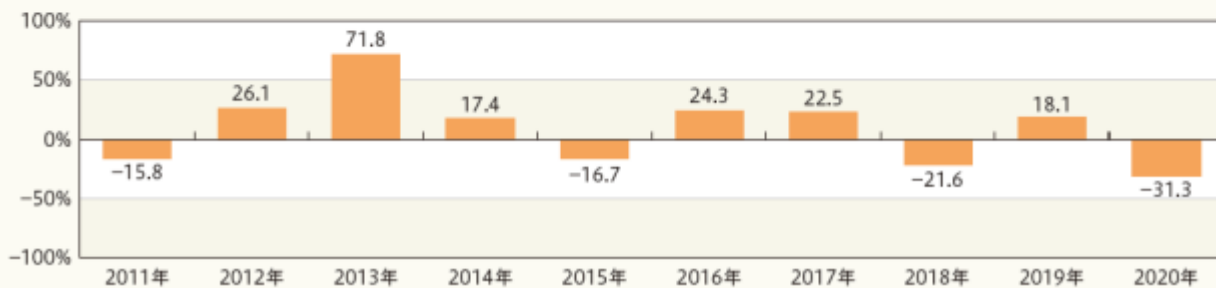
*投資比率はキャッシュ・マネジメント・マザーファンドの純資産総額対比

年間収益率の推移(暦年ベース)

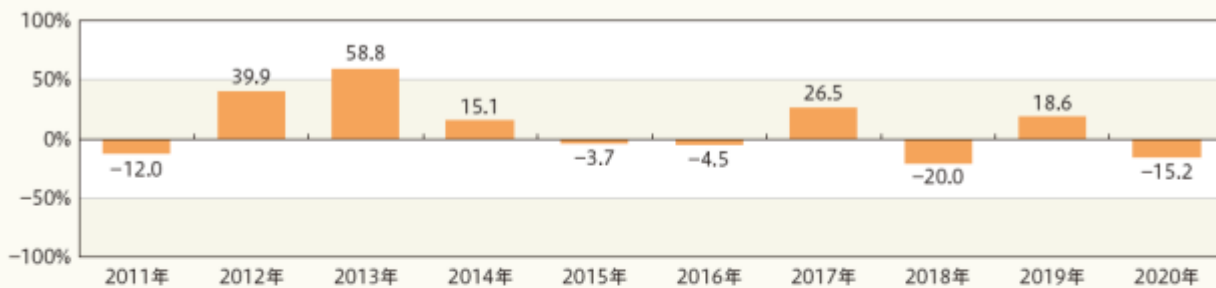
■ 米ドルコース



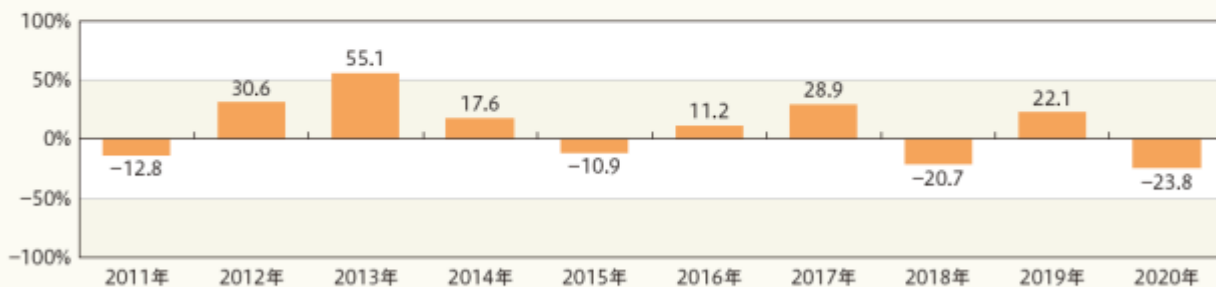
■ ブラジルリアルコース



■ 豪ドルコース



■ 資源3通貨コース



*ファンドの収益率は暦年ベースで表示しております。但し、2011年は当初設定日(2011年10月31日)から年末までの収益率、2020年は5月末までの収益率です。

*ファンドの年間収益率は、税引前の分配金を再投資したものとして計算しております。

*ファンドには、ベンチマークはありません。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

- (1) 当ファンドの取得申込者は、販売会社において申込期間における毎営業日にお申込みいただけます。ただし、ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行、英国証券取引所またはロンドンの銀行の休業日と同日の場合には、取得のお申込みを受付けないものとします。原則として、午後3時までに取得申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込受付分とします。

委託会社は、取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、当ファンドが主要投資対象とする投資信託証券の取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、取得申込の受付を中止することおよびすでに受け付けた取得申込の受付を取消することがあります。

金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じです。

- (2) 申込価額は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額（当初1口＝1円）とします。お申込みには申込手数料および申込手数料にかかる消費税等相当額を要します。当ファンドの申込単位は、1口または1円の整数倍で販売会社毎に定めた単位です。
- (3) 当ファンドの取得申込者は、販売会社において、取引口座を開設のうえ、取得のお申込みを行うものとします。お申込みの方法には、収益の分配がなされた場合に分配金を受取ることができる「分配金受取型」と、税引後の分配金を自動的に無手数料で再投資する「分配金自動再投資型」があり、「分配金自動再投資型」を取得申込者が選択した場合には、取得申込者は販売会社との間で累積投資約款に従って分配金再投資に関する契約を締結します。ただし、販売会社によってはどちらか一方のコースのみの取扱いの場合があります。

なお、当ファンドは米ドルコース、ブラジルリアルコース、豪ドルコース、資源3通貨コースの4つのファンドで構成されていますが、販売会社によっては、一部のファンドのみのお取扱いとなる場合があります。

*販売会社によっては、当該契約または規定について、同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定を使用することがあり、この場合、当該別の名称に読み替えるものとします。

- (4) 定時定額で購入する「定時定額購入サービス」(販売会社によっては、名称が異なる場合があります。)を利用する場合は、販売会社との間で「定時定額購入サービス」に関する契約を締結します。詳細については、販売会社にお問い合わせください。

(注) 当ファンドの取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたは予め、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

2【換金(解約)手続等】

受益者は、販売会社に対して毎営業日に解約のお申込みをすることができます。ただし、ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行、英国証券取引所またはロンドンの銀行の休業日と同日の場合には、解約請求を受付けないものとします。原則として、午後3時までに解約の申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の解約請求受付分とします。

委託会社は、取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、当ファンドが主要投資対象とする投資信託証券の取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、解約請求の受付を中止することおよびすでに受付けた解約請求の受付を取消すことがあります。解約請求の受付が中止された場合、受益者は解約の受付中止以前に行った当日の解約請求を撤回できます。ただし、受益者がその解約請求を撤回しない場合には、解約の受付の中止を解除した後の最初の基準価額の計算日にその請求を受付けたものとして取扱うこととします。また、信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の解約請求には制限を設ける場合があります。

<解約請求による換金手続き>

解約価額：当該請求受付日の翌営業日の基準価額です。

(解約価額については、お申込みの各販売会社までお問い合わせください。)

解約単位：販売会社毎に定めた単位とします。

(解約単位については、お申込みの各販売会社までお問い合わせください。)

解約代金の支払い：原則として解約請求を受付けた日から起算して6営業日目から販売会社の申込場所まで支払われます。

解約にかかる手数料：ありません。

(注) 当ファンドの換金請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。換金請求を受益者がするときは、振替受益権をもって行うものとします。

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下、「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。

< 主要投資対象の評価方法 >

有価証券等	評価方法
投資信託証券 (外国籍)	原則として、基準価額計算日に知り得る直近の純資産額（上場されている場合は、その主たる取引所における最終相場）で評価します。

基準価額は、便宜上1万口あたりに換算した価額で表示され、原則として委託会社の各営業日に計算されます。

基準価額は、販売会社または委託会社にお問い合わせいただけるほか、原則として翌日付の日本経済新聞朝刊の証券欄「オープン基準価格」の紙面に、「米ドルコース」は「日225米」、「ブラジルリアルコース」は「日225ブ」、「豪ドルコース」は「日225豪」、「資源3通貨コース」は「日225資源」として掲載されます。

委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	コールセンター	ホームページ
三井住友D Sアセットマネジメント株式会社	0120-88-2976	https://www.smd-am.co.jp

お問い合わせは、午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）までとさせていただきます。

(2)【保管】

該当事項はありません。

(3)【信託期間】

当ファンドの信託の期間は、信託契約締結日（2011年10月31日）から、2021年10月25日まで（約10年）とします。

なお、信託期間満了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認めるときには、受託会社と協議のうえ、信託期間を延長することができます。

ただし、後記「(5)その他 信託契約の解約」の規定により、信託契約を解約し、この信託を終了させることがあります。

(4)【計算期間】

計算期間は、原則として毎月26日から翌月25日までとします。前記にかかわらず、各計算期間終了日に該当する日（以下、「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は信託期間の終了日とします。

（注）計算期間終了日を「決算日」ということがあります。

(5)【その他】

信託契約の解約

イ．委託会社は、信託契約の一部を解約することにより、日本株225ファンド（通貨選択型）全体の信託財産の受益権の口数を合計した口数が30億口を下回ることとなった場合には、受託会社と合意のうえ、あらかじめ、監督官庁に届け出ることにより、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。

ロ．委託会社は、信託期間中において、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、日経平均株価が廃止された等の場合またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

- 八．委託会社は、この信託が主要投資対象とする投資信託証券が存続しないこととなる場合には、この信託契約を解約し、信託を終了させます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- 二．委託会社は、前イ．および前ロ．の事項について、書面による決議（以下「書面決議」といいます。）を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託契約にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発送します。
- ホ．前二．の書面決議において、受益者（委託会社およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下本項において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- へ．前二．の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- ト．前二．から前へ．までの規定は、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この信託契約にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときおよび前八．の規定に基づいてこの信託契約を解約する場合には適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前二．から前へ．までに規定するこの信託契約の解約の手続を行うことが困難な場合には適用しません。

信託契約に関する監督官庁の命令

委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。また、委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、信託約款の変更等の規定にしたがいます。

委託会社の登録取消等に伴う取扱い

委託会社が、監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

ただし、監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、信託約款の変更等に規定する書面決議が否決となる場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。

受託会社の辞任および解任に伴う取扱い

受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社はその任務に違反して信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を申立てることができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、信託約款の変更等の規定にしたがい、新受託会社を選任します。なお、受益者は、上記によって行う場合を除き、受託会社を解任することはできないものとします。委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

信託約款の変更等

- イ．委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。）を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、この信託約款は本項に定める以外の方法によって変更することができないものとします。
- ロ．委託会社は、前イ．の事項（前イ．の変更事項にあっては、その内容が重大なものに該当する場合に限り、前イ．の併合事項にあっては、その併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除きます。以下、合わせて「重大な約款の変更等」といいます。）について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託約款にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発送します。

- ハ．前ロ．の書面決議において、受益者（委託会社およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下本項において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- 二．前ロ．の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- ホ．書面決議の効力は、この信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。
- ヘ．前ロ．から前ホ．までの規定は、委託会社が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、この信託約款にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。
- ト．前イ．から前ヘ．の規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合にあっても、当該併合にかかる一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

公告

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<https://www.smd-am.co.jp>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

反対受益者の受益権買取請求の不適用

この信託は、受益者が一部解約の実行の請求を行ったときは、委託会社が信託契約の一部の解約をすることにより当該請求に応じ、当該受益権の公正な価格が当該受益者に一部解約金として支払われることとなる委託者指図型投資信託に該当するため、信託契約の解約または重大な約款の変更等を行う場合において、投資信託及び投資法人に関する法律第18条第1項に定める反対受益者による受益権の買取請求の規定の適用を受けません。

運用にかかる報告等開示方法

- イ．委託会社は、特定期末（毎年4月、10月に属する計算期末）から3ヵ月以内に有価証券報告書を提出します。
- ロ．委託会社は、特定期末および償還時に運用報告書（全体版）（投資信託及び投資法人に関する法律第14条第1項に定める運用報告書）および交付運用報告書（投資信託及び投資法人に関する法律第14条第4項に定める書面）を作成します。
- ハ．委託会社は、交付運用報告書を販売会社を通じて受益者へ交付します。また、委託会社は、運用報告書（全体版）を委託会社のホームページに掲載します。
- 二．前ハ．にかかわらず、受益者から運用報告書（全体版）の交付の請求があった場合には、これを交付します。

委託会社と関係法人との契約の変更

<募集・販売契約>

委託会社と販売会社との間の募集・販売の取扱い等に関する契約は、当事者の別段の意思表示のない限り、1年毎に自動的に更新されます。募集・販売の取扱い等に関する契約は、当事者間の合意により変更することができます。

4【受益者の権利等】

当ファンドの受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。この受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません。受益者の有する主な権利は次のとおりです。また、ファンド資産に生じた利益および損失は、全て受益者に帰属します。

(1) 収益分配金に対する請求権

受益者は、収益分配金を持分にに応じて委託会社に請求する権利を有します。

収益分配金は、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日から、保有口数に応じて、販売会社を通じて決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。)に支払います。

収益分配金の支払いは、原則として決算日から起算して5営業日までに開始します。

上記にかかわらず、販売会社との間で締結した累積投資約款に基づく契約により収益分配金を再投資する受益者に対しては、委託会社は毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金を販売会社に交付します。この場合、販売会社は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付を行います。当該売付により増加した受益権は、信託約款の規定にしたがい、振替口座簿に記載または記録されます。

収益分配金の請求権は、支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、委託会社が受託会社から交付を受けた金銭は委託会社に帰属します。

(2) 償還金に対する請求権

受益者は、償還金を持分に応じて委託会社に請求する権利を有します。

償還金は、信託終了後1ヵ月以内の委託会社の指定する日から受益者に支払います。償還金の支払いは、販売会社の営業所等において行うものとします。

償還金の支払いは、原則として償還日から起算して5営業日までに開始します。

償還金の請求権は、支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、委託会社が受託会社から交付を受けた金銭は委託会社に帰属します。

(3) 受益権の換金(解約)請求権

受益者は、自己に帰属する受益権について、解約の実行を販売会社を通じて委託会社に請求する権利を有しています。権利行使の方法等については、前述の「換金(解約)手続等」をご参照ください。

(4) 帳簿書類の閲覧・謄写の請求権

受益者は委託会社に対し、当該受益者にかかる信託財産に関する書類の閲覧または謄写を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載されている金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
3. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当特定期間(令和1年10月26日から令和2年4月27日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による監査を受けておりません。

1【財務諸表】

【日本株225・米ドルコース】

(1)【貸借対照表】

(単位:円)

	前期 令和1年10月25日現在	当期 令和2年4月27日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	298,398,657	219,973,193
投資信託受益証券	9,536,990,863	5,960,326,224
親投資信託受益証券	50,049	50,029
未収入金	82,839,140	-
流動資産合計	9,918,278,709	6,180,349,446
資産合計	9,918,278,709	6,180,349,446
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	73,462,242	57,985,337
未払解約金	93,289,331	216,150
未払受託者報酬	217,359	152,718
未払委託者報酬	7,825,010	5,498,309
その他未払費用	508,793	411,277
流動負債合計	175,302,735	64,263,791
負債合計	175,302,735	64,263,791
純資産の部		
元本等		
元本	7,346,224,277	5,798,533,741
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	2,396,751,697	317,551,914
(分配準備積立金)	417,150	386,319
元本等合計	9,742,975,974	6,116,085,655
純資産合計	9,742,975,974	6,116,085,655
負債純資産合計	9,918,278,709	6,180,349,446

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	自 至	前期 平成31年 4月26日 令和 1年10月25日	自 至	当期 令和 1年10月26日 令和 2年 4月27日
営業収益				
受取配当金		255,348,458		147,709,189
受取利息		1,718		1,278
有価証券売買等損益		160,374,873		1,239,536,938
営業収益合計		94,975,303		1,091,826,471
営業費用				
支払利息		96,759		53,905
受託者報酬		1,347,312		1,082,515
委託者報酬		48,504,776		38,972,196
その他費用		509,858		411,741
営業費用合計		50,458,705		40,520,357
営業利益又は営業損失()		44,516,598		1,132,346,828
経常利益又は経常損失()		44,516,598		1,132,346,828
当期純利益又は当期純損失()		44,516,598		1,132,346,828
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()		22,583,585		20,720,424
期首剰余金又は期首欠損金()		3,021,637,704		2,396,751,697
剰余金増加額又は欠損金減少額		211,853,925		49,304,918
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		211,853,925		49,304,918
剰余金減少額又は欠損金増加額		392,224,053		616,911,304
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		392,224,053		616,911,304
分配金		466,448,892		358,526,145
期末剰余金又は期末欠損金()		2,396,751,697		317,551,914

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	当期	
	自 令和1年10月26日	至 令和2年4月27日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券及び親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、基準価額で評価しております。 また、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認められた価額もしくは受託会社と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認められた価額で評価しております。	
2. 収益及び費用の計上基準	(1)受取配当金 外国投資信託受益証券についての受取配当金は、原則として、投資信託受益証券の分配落ち日において、確定分配金額を計上しております。 (2)有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。	
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	当ファンドの特定期間は、当計算期末が休日のため、令和1年10月26日から令和2年4月27日までとなっております。	

(貸借対照表に関する注記)

項目	前期	当期
	令和1年10月25日現在	令和2年4月27日現在
1. 元本状況		
期首元本額	7,983,235,351円	7,346,224,277円
期中追加設定元本額	859,246,585円	314,875,363円
期中一部解約元本額	1,496,257,659円	1,862,565,899円
2. 受益権の総数	7,346,224,277口	5,798,533,741口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

前期	当期																																																				
	自 平成31年4月26日	自 令和1年10月26日																																																			
至 令和1年10月25日	至 令和2年4月27日																																																				
<p>分配金の計算過程</p> <p>第89期計算期間末（令和1年5月27日）に、投資信託約款に基づき計算した11,716,030,650円（1万口当たり14,832.02円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い178,991,488円（1万口当たり100円）を分配しております。</p> <table border="1"> <tr> <td>配当等収益 （費用控除後）</td> <td>37,823,631円</td> </tr> <tr> <td>有価証券売買等損益</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金</td> <td>11,677,506,866円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金</td> <td>700,153円</td> </tr> <tr> <td>分配可能額</td> <td>11,716,030,650円</td> </tr> <tr> <td>（1万口当たり分配可能額）</td> <td>(14,832.02円)</td> </tr> <tr> <td>収益分配金</td> <td>78,991,488円</td> </tr> <tr> <td>（1万口当たり収益分配金）</td> <td>(100円)</td> </tr> </table> <p>第90期計算期間末（令和1年6月25日）に、投資信託約款に基づき計算した11,534,555,325円（1万口当たり14,781.54円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い178,033,490円（1万口当たり100円）を分配しております。</p> <table border="1"> <tr> <td>配当等収益 （費用控除後）</td> <td>38,643,956円</td> </tr> <tr> <td>有価証券売買等損益</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金</td> <td>11,495,315,732円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金</td> <td>595,637円</td> </tr> <tr> <td>分配可能額</td> <td>11,534,555,325円</td> </tr> </table>	配当等収益 （費用控除後）	37,823,631円	有価証券売買等損益	0円	収益調整金	11,677,506,866円	分配準備積立金	700,153円	分配可能額	11,716,030,650円	（1万口当たり分配可能額）	(14,832.02円)	収益分配金	78,991,488円	（1万口当たり収益分配金）	(100円)	配当等収益 （費用控除後）	38,643,956円	有価証券売買等損益	0円	収益調整金	11,495,315,732円	分配準備積立金	595,637円	分配可能額	11,534,555,325円	<p>分配金の計算過程</p> <p>第95期計算期間末（令和1年11月25日）に、投資信託約款に基づき計算した9,464,703,824円（1万口当たり14,516.85円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い165,198,043円（1万口当たり100円）を分配しております。</p> <table border="1"> <tr> <td>配当等収益 （費用控除後）</td> <td>27,084,302円</td> </tr> <tr> <td>有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金</td> <td>9,437,250,098円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金</td> <td>369,424円</td> </tr> <tr> <td>分配可能額</td> <td>9,464,703,824円</td> </tr> <tr> <td>（1万口当たり分配可能額）</td> <td>(14,516.85円)</td> </tr> <tr> <td>収益分配金</td> <td>65,198,043円</td> </tr> <tr> <td>（1万口当たり収益分配金）</td> <td>(100円)</td> </tr> </table> <p>第96期計算期間末（令和1年12月25日）に、投資信託約款に基づき計算した8,833,770,834円（1万口当たり14,460.07円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い161,090,794円（1万口当たり100円）を分配しております。</p> <table border="1"> <tr> <td>配当等収益 （費用控除後）</td> <td>26,400,103円</td> </tr> <tr> <td>有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金</td> <td>8,806,694,677円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金</td> <td>676,054円</td> </tr> <tr> <td>分配可能額</td> <td>8,833,770,834円</td> </tr> </table>	配当等収益 （費用控除後）	27,084,302円	有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円	収益調整金	9,437,250,098円	分配準備積立金	369,424円	分配可能額	9,464,703,824円	（1万口当たり分配可能額）	(14,516.85円)	収益分配金	65,198,043円	（1万口当たり収益分配金）	(100円)	配当等収益 （費用控除後）	26,400,103円	有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円	収益調整金	8,806,694,677円	分配準備積立金	676,054円	分配可能額	8,833,770,834円
配当等収益 （費用控除後）	37,823,631円																																																				
有価証券売買等損益	0円																																																				
収益調整金	11,677,506,866円																																																				
分配準備積立金	700,153円																																																				
分配可能額	11,716,030,650円																																																				
（1万口当たり分配可能額）	(14,832.02円)																																																				
収益分配金	78,991,488円																																																				
（1万口当たり収益分配金）	(100円)																																																				
配当等収益 （費用控除後）	38,643,956円																																																				
有価証券売買等損益	0円																																																				
収益調整金	11,495,315,732円																																																				
分配準備積立金	595,637円																																																				
分配可能額	11,534,555,325円																																																				
配当等収益 （費用控除後）	27,084,302円																																																				
有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円																																																				
収益調整金	9,437,250,098円																																																				
分配準備積立金	369,424円																																																				
分配可能額	9,464,703,824円																																																				
（1万口当たり分配可能額）	(14,516.85円)																																																				
収益分配金	65,198,043円																																																				
（1万口当たり収益分配金）	(100円)																																																				
配当等収益 （費用控除後）	26,400,103円																																																				
有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円																																																				
収益調整金	8,806,694,677円																																																				
分配準備積立金	676,054円																																																				
分配可能額	8,833,770,834円																																																				

（1万口当たり分配可能額）	(14,781.54円)
収益分配金	78,033,490円
（1万口当たり収益分配金）	(100円)

第91期計算期間末（令和1年7月25日）に、投資信託約款に基づき計算した11,537,639,631円（1万口当たり14,738.88円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い78,280,316円（1万口当たり100円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	44,560,466円
有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円
収益調整金	11,492,863,865円
分配準備積立金	215,300円
分配可能額	11,537,639,631円
（1万口当たり分配可能額）	(14,738.88円)
収益分配金	78,280,316円
（1万口当たり収益分配金）	(100円)

第92期計算期間末（令和1年8月26日）に、投資信託約款に基づき計算した11,794,718,060円（1万口当たり14,687.27円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い180,305,718円（1万口当たり100円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	38,864,390円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	11,754,930,852円
分配準備積立金	922,818円
分配可能額	11,794,718,060円
（1万口当たり分配可能額）	(14,687.27円)
収益分配金	80,305,718円
（1万口当たり収益分配金）	(100円)

第93期計算期間末（令和1年9月25日）に、投資信託約款に基づき計算した11,321,321,721円（1万口当たり14,631.64円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い77,375,638円（1万口当たり100円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	34,332,447円
有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円
収益調整金	11,286,572,242円
分配準備積立金	417,032円
分配可能額	11,321,321,721円
（1万口当たり分配可能額）	(14,631.64円)
収益分配金	77,375,638円
（1万口当たり収益分配金）	(100円)

第94期計算期間末（令和1年10月25日）に、投資信託約款に基づき計算した10,707,345,858円（1万口当たり14,575.30円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い73,462,242円（1万口当たり100円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	32,072,957円
有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円
収益調整金	10,674,605,321円
分配準備積立金	667,580円
分配可能額	10,707,345,858円
（1万口当たり分配可能額）	(14,575.30円)
収益分配金	73,462,242円
（1万口当たり収益分配金）	(100円)

（1万口当たり分配可能額）	(14,460.07円)
収益分配金	61,090,794円
（1万口当たり収益分配金）	(100円)

第97期計算期間末（令和2年1月27日）に、投資信託約款に基づき計算した8,467,445,491円（1万口当たり14,390.72円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い58,839,617円（1万口当たり100円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	18,027,017円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	8,449,229,796円
分配準備積立金	188,678円
分配可能額	8,467,445,491円
（1万口当たり分配可能額）	(14,390.72円)
収益分配金	58,839,617円
（1万口当たり収益分配金）	(100円)

第98期計算期間末（令和2年2月25日）に、投資信託約款に基づき計算した8,174,913,994円（1万口当たり14,322.43円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い57,077,697円（1万口当たり100円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	18,094,627円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	8,156,273,142円
分配準備積立金	546,225円
分配可能額	8,174,913,994円
（1万口当たり分配可能額）	(14,322.43円)
収益分配金	57,077,697円
（1万口当たり収益分配金）	(100円)

第99期計算期間末（令和2年3月25日）に、投資信託約款に基づき計算した8,316,184,771円（1万口当たり14,255.99円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い58,334,657円（1万口当たり100円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	19,576,652円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	8,296,240,091円
分配準備積立金	368,028円
分配可能額	8,316,184,771円
（1万口当たり分配可能額）	(14,255.99円)
収益分配金	58,334,657円
（1万口当たり収益分配金）	(100円)

第100期計算期間末（令和2年4月27日）に、投資信託約款に基づき計算した8,224,344,456円（1万口当たり14,183.49円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い57,985,337円（1万口当たり100円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	15,932,592円
有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円
収益調整金	8,208,302,096円
分配準備積立金	109,768円
分配可能額	8,224,344,456円
（1万口当たり分配可能額）	(14,183.49円)
収益分配金	57,985,337円
（1万口当たり収益分配金）	(100円)

（金融商品に関する注記）
金融商品の状況に関する事項

項目	当期
	自 令和1年10月26日 至 令和2年4月27日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有している金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務であります。なお、当ファンドは投資信託受益証券及び親投資信託受益証券を通じて有価証券に投資し、また、投資信託受益証券においては、デリバティブ取引を行っております。これらの金融商品に係るリスクは、価格変動リスク、信用リスク、為替変動リスク及び流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリング及びファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っております。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理及びコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。 また、とりわけ、市場リスク、信用リスク及び流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限値、管理レベル及び頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署には正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。その後、当該関連運用部署の対処の実施や対処方針の決定等に関し、必要に応じてリスク管理を行う部署が当該部署の担当役員、当該関連運用部署の担当役員及びリスク管理会議へ報告を行う体制となっております。 なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

項目	当期
	令和2年4月27日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありませぬ。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

前期（令和1年10月25日現在）

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	15
投資信託受益証券	409,533,776
合計	409,533,761

当期（令和2年4月27日現在）

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	15
投資信託受益証券	157,709,779
合計	157,709,764

(デリバティブ取引等関係に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前期（令和1年10月25日現在）

該当事項はありません。

当期（令和2年4月27日現在）

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

当期（自 令和1年10月26日 至 令和2年4月27日）

市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

（1口当たり情報）

前期 令和1年10月25日現在	当期 令和2年4月27日現在
1口当たり純資産額 1.3263円 「1口 = 1円（10,000口 = 13,263円）」	1口当たり純資産額 1.0548円 「1口 = 1円（10,000口 = 10,548円）」

（4）【附属明細表】

有価証券明細表

<株式以外の有価証券>

通貨	種類	銘柄	口数	評価額	備考
円	投資信託受益証券	Japan Stock 225 Fund USD Class	8,173,788,021	5,960,326,224	
	親投資信託受益証券	キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	49,237	50,029	
合計 2銘柄			8,173,837,258	5,960,376,253	

<参考>

当ファンドは、「キャッシュ・マネジメント・マザーファンド」受益証券を投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」はすべて同マザーファンドの受益証券であります。

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

（1）貸借対照表

区分	令和1年10月25日現在 金額（円）	令和2年4月27日現在 金額（円）
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	1,082,839,959	1,568,658,218
地方債証券	-	401,758,800
特殊債券	1,789,581,326	2,337,512,926
社債券	803,340,900	1,302,614,600
未収利息	3,622,052	3,876,270
前払費用	1,357,551	1,437,276
流動資産合計	3,680,741,788	5,615,858,090
資産合計	3,680,741,788	5,615,858,090
負債の部		
流動負債		
未払解約金	9,434,968	2,950,447
流動負債合計	9,434,968	2,950,447
負債合計	9,434,968	2,950,447
純資産の部		
元本等		
元本	3,611,669,433	5,524,213,205
剰余金		

剰余金又は欠損金（ ）	59,637,387	88,694,438
元本等合計	3,671,306,820	5,612,907,643
純資産合計	3,671,306,820	5,612,907,643
負債純資産合計	3,680,741,788	5,615,858,090

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	自 令和1年10月26日 至 令和2年4月27日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>地方債証券、特殊債券及び社債券 個別法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として日本証券業協会が発表する売買参考統計値（平均値）、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（売気配相場を除く）又は価格情報会社の提供する価額のいずれかから入手した価額で評価しております。</p> <p>また、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認められた価額もしくは受託会社と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認められた価額で評価しております。</p>
2. 収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	令和1年10月25日現在	令和2年4月27日現在
1. 元本状況		
開示対象ファンドの計算期間の期首における当該親投資信託の元本額	3,899,652,473円	3,611,669,433円
期中追加設定元本額	1,732,910,979円	3,956,759,904円
期中一部解約元本額	2,020,894,019円	2,044,216,132円
元本の内訳		
S M B C ファンドラップ・G-REIT	75,398,158円	97,363,071円
S M B C ファンドラップ・ヘッジファンド	269,600,766円	295,224,327円
S M B C ファンドラップ・欧州株	98,020,817円	103,415,506円
S M B C ファンドラップ・新興国株	61,943,566円	69,407,161円
S M B C ファンドラップ・コモディティ	25,008,945円	30,266,648円
S M B C ファンドラップ・米国債	131,798,480円	132,920,157円
S M B C ファンドラップ・欧州債	66,803,947円	66,777,973円
S M B C ファンドラップ・新興国債	57,556,341円	59,271,898円
S M B C ファンドラップ・日本グロース株	164,353,312円	191,978,369円
S M B C ファンドラップ・日本中小型株	37,218,075円	32,123,818円
S M B C ファンドラップ・日本債	931,425,001円	924,045,529円
D C 日本国債プラス	618,420,007円	1,120,829,235円
エマージング・ボンド・ファンド・円コース（毎月分配型）	43,540,423円	37,807,335円
エマージング・ボンド・ファンド・豪ドルコース（毎月分配型）	158,188,795円	134,866,983円
エマージング・ボンド・ファンド・ニュージーランドドルコース（毎月分配型）	6,993,645円	6,172,056円
エマージング・ボンド・ファンド・ブラジルリアルコース（毎月分配型）	262,588,978円	153,125,339円
エマージング・ボンド・ファンド・南アフリカランドコース（毎月分配型）	6,264,190円	5,288,044円
エマージング・ボンド・ファンド・トルコリラコース（毎月分配型）	37,332,417円	50,896,587円
エマージング・ボンド・ファンド（マネープールファンド）	295,388,741円	421,981,540円
大和住銀 中国株式ファンド（マネー・ポートフォリオ）	67,287,175円	80,808,311円
エマージング好配当株オープン マネー・ポートフォリオ	3,044,583円	2,101,084円
エマージング・ボンド・ファンド・中国元コース（毎月分配型）	1,664,901円	940,697円
グローバル・ハイイールド債券ファンド（円コース）	767,481円	-
グローバル・ハイイールド債券ファンド（中国・インド・インドネシア通貨コース）	548,247円	-
グローバル・ハイイールド債券ファンド（BRICs通貨コース）	672,726円	-
グローバル・ハイイールド債券ファンド（世界6地域通貨コース）	3,853,755円	-

米国短期社債戦略ファンド2015-12(為替ヘッジあり)	245,556円	-
米国短期社債戦略ファンド2015-12(為替ヘッジなし)	245,556円	-
グローバル・ハイイールド債券ファンド(マネープールファンド)	38,099,748円	-
アジア・ハイ・インカム・ファンド・アジア3通貨コース	24,801,368円	10,452,185円
アジア・ハイ・インカム・ファンド・円コース	1,726,736円	856,435円
アジア・ハイ・インカム・ファンド(マネープールファンド)	987,961円	5,034,391円
日本株厳選ファンド・円コース	270,889円	270,889円
日本株厳選ファンド・ブラジルリアルコース	18,658,181円	18,658,181円
日本株厳選ファンド・豪ドルコース	679,887円	679,887円
日本株厳選ファンド・アジア3通貨コース	9,783円	9,783円
株式&通貨 資源ダブルフォーカス(毎月分配型)	2,040,519円	-
日本株225・米ドルコース	49,237円	49,237円
日本株225・ブラジルリアルコース	393,895円	393,895円
日本株225・豪ドルコース	147,711円	147,711円
日本株225・資源3通貨コース	49,237円	49,237円
グローバルCBオープン・高金利通貨コース	598,533円	598,533円
グローバルCBオープン・円コース	827,757円	827,757円
グローバルCBオープン(マネープールファンド)	1,993,745円	2,006,552円
オーストラリア高配当株プレミアム(毎月分配型)	1,057,457円	1,057,457円
スマート・ストラテジー・ファンド(毎月決算型)	12,541,581円	12,541,581円
スマート・ストラテジー・ファンド(年2回決算型)	4,566,053円	4,566,053円
ボンド・アンド・カレンシー トータルリターン・ファンド(毎月決算型)	14,309円	-
ボンド・アンド・カレンシー トータルリターン・ファンド(年2回決算型)	12,837円	-
カナダ高配当株ツイン(毎月分配型)	66,417,109円	66,417,109円
日本株厳選ファンド・米ドルコース	196,696円	196,696円
日本株厳選ファンド・メキシコペソコース	196,696円	196,696円
日本株厳選ファンド・トルコリラコース	196,696円	196,696円
エマージング・ボンド・ファンド・カナダドルコース(毎月分配型)	317,972円	310,450円
エマージング・ボンド・ファンド・メキシコペソコース(毎月分配型)	2,870,053円	1,798,641円
カナダ高配当株ファンド	984円	984円
米国短期社債戦略ファンド2017-03(為替ヘッジあり)	1,751,754円	1,751,754円
世界リアルアセット・バランス(毎月決算型)	1,451,601円	1,451,601円
世界リアルアセット・バランス(資産成長型)	2,567,864円	2,567,864円
米国分散投資戦略ファンド(1倍コース)	-	231,648,142円
米国分散投資戦略ファンド(3倍コース)	-	1,043,023,844円
米国分散投資戦略ファンド(5倍コース)	-	445,153円
大和住銀マルチ・ストラテジー・ファンド(ヘッジ付)(適格機関投資家限定)	-	98,396,143円
合計	3,611,669,433円	5,524,213,205円
2. 受益権の総数	3,611,669,433口	5,524,213,205口

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	自 令和1年10月26日 至 令和2年4月27日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有している金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務であります。これらの金融商品に係るリスクは、価格変動リスク、信用リスク及び流動性リスクであります。

3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリング及びファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理及びコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスク及び流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限値、管理レベル及び頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。その後、当該関連運用部署の対処の実施や対処方針の決定等に関し、必要に応じてリスク管理を行う部署が当該部署の担当役員、当該関連運用部署の担当役員及びリスク管理会議へ報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。</p>

金融商品の時価等に関する事項

項目	令和2年4月27日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありませぬ。
2. 時価の算定方法	<p>(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。</p> <p>(2)金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

(令和1年10月25日現在)

種類	計算期間の損益に含まれた評価差額(円)
特 殊 債 券	4,437,470
社 債 券	1,289,100
合 計	5,726,570

「計算期間」とは、「キャッシュ・マネジメント・マザーファンド」の計算期間の期首日から開示対象ファンドの期末日までの期間(令和1年7月26日から令和1年10月25日まで)を指しております。

(令和2年4月27日現在)

種類	計算期間の損益に含まれた評価差額(円)
地 方 債 証 券	374,200
特 殊 債 券	6,380,346
社 債 券	4,130,500
合 計	10,885,046

「計算期間」とは、「キャッシュ・マネジメント・マザーファンド」の計算期間の期首日から開示対象ファンドの期末日までの期間(令和1年7月26日から令和2年4月27日まで)を指しております。

(デリバティブ取引等関係に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(令和1年10月25日現在)

該当事項はありません。

(令和2年4月27日現在)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

(自 令和1年10月26日 至 令和2年4月27日)

市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

(1口当たり情報)

令和1年10月25日現在	令和2年4月27日現在
1口当たり純資産額 1.0165円 「1口 = 1円(10,000口 = 10,165円)」	1口当たり純資産額 1.0161円 「1口 = 1円(10,000口 = 10,161円)」

(3) 附属明細表

有価証券明細表

< 株式以外の有価証券 >

通貨	種類	銘柄	券面総額	評価額	備考
円	地方債証券	347 大阪府公債	100,000,000	101,049,700	
	地方債証券	22-15 兵庫県公債	100,000,000	100,431,200	
	地方債証券	2 川崎市公債15年	100,000,000	100,238,000	
	地方債証券	27-1 仙台市5年	100,000,000	100,039,900	
	特殊債券	104 政保道路機構	100,000,000	100,010,000	
	特殊債券	107 政保道路機構	348,000,000	348,414,816	
	特殊債券	110 政保道路機構	195,000,000	195,448,110	
	特殊債券	115 政保道路機構	195,000,000	195,702,195	
	特殊債券	120 政保道路機構	500,000,000	502,403,500	
	特殊債券	122 政保道路機構	95,000,000	95,533,235	
	特殊債券	12政保地方公共団	200,000,000	200,179,000	
	特殊債券	18政保地方公共団	595,000,000	598,157,070	
	特殊債券	22 国際協力銀行	100,000,000	101,665,000	
	社債券	7 アサヒグループHD	100,000,000	100,009,500	
	社債券	2 コカ・コーライースト	100,000,000	100,108,500	
	社債券	13 森ビル	100,000,000	100,017,900	
	社債券	6 日本電産	100,000,000	99,991,300	
	社債券	3 大日本印刷	100,000,000	100,800,200	
	社債券	75 三菱商事	100,000,000	100,290,800	
	社債券	184 オリックス	100,000,000	100,000,000	
	社債券	33 三菱UFJリース	100,000,000	100,009,800	
	社債券	15東日本旅客鉄道	100,000,000	100,838,300	
	社債券	5 日本梱包運輸	100,000,000	100,276,400	
	社債券	495 東北電力	100,000,000	100,000,700	
	社債券	316 北海道電力	100,000,000	100,162,600	
	社債券	2 ファーストリテイリング	100,000,000	100,108,600	
	合計	26銘柄	4,028,000,000	4,041,886,326	

【日本株225・ブラジルリアルコース】

(1)【貸借対照表】

(単位:円)

	前期 令和1年10月25日現在	当期 令和2年4月27日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	5,136,189	4,208,179
投資信託受益証券	189,269,840	100,396,902
親投資信託受益証券	400,394	400,236
未収入金	252,930	-
流動資産合計	195,059,353	105,005,317
資産合計	195,059,353	105,005,317
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	1,135,205	1,063,758
未払解約金	295,209	5,897
未払受託者報酬	4,069	2,808
未払委託者報酬	146,830	101,383
その他未払費用	9,727	8,603
流動負債合計	1,591,040	1,182,449
負債合計	1,591,040	1,182,449
純資産の部		
元本等		
元本	227,041,081	212,751,611
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	33,572,768	108,928,743
(分配準備積立金)	5,613,408	3,699,553
元本等合計	193,468,313	103,822,868
純資産合計	193,468,313	103,822,868
負債純資産合計	195,059,353	105,005,317

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	自 至	前期 平成31年 4月26日 令和 1年10月25日	自 至	当期 令和 1年10月26日 令和 2年 4月27日
営業収益				
受取配当金		8,547,887		5,740,136
受取利息		31		22
有価証券売買等損益		7,387,120		76,280,742
営業収益合計		1,160,798		70,540,584
営業費用				
支払利息		1,740		929
受託者報酬		25,769		22,837
委託者報酬		930,021		823,781
その他費用		9,740		8,610
営業費用合計		967,270		856,157
営業利益又は営業損失()		193,528		71,396,741
経常利益又は経常損失()		193,528		71,396,741
当期純利益又は当期純損失()		193,528		71,396,741
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()		835,539		747,436
期首剰余金又は期首欠損金()		32,340,556		33,572,768
剰余金増加額又は欠損金減少額		5,491,469		3,308,448
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		5,491,469		3,308,448
剰余金減少額又は欠損金増加額		839,851		1,539,361
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		839,851		1,539,361
分配金		6,912,897		6,475,757
期末剰余金又は期末欠損金()		33,572,768		108,928,743

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	当期	
	自 令和1年10月26日	至 令和2年4月27日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券及び親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、基準価額で評価しております。 また、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認めた価額もしくは受託会社と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認めた価額で評価しております。	
2. 収益及び費用の計上基準	(1)受取配当金 外国投資信託受益証券についての受取配当金は、原則として、投資信託受益証券の分配落ち日において、確定分配金額を計上しております。 (2)有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。	
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	当ファンドの特定期間は、当計算期末が休日のため、令和1年10月26日から令和2年4月27日までとなっております。	

(貸借対照表に関する注記)

項目	前期	当期
	令和1年10月25日現在	令和2年4月27日現在
1. 元本状況		
期首元本額	262,205,189円	227,041,081円
期中追加設定元本額	4,196,161円	5,145,989円
期中一部解約元本額	39,360,269円	19,435,459円
2. 受益権の総数	227,041,081口	212,751,611口
3. 元本の欠損	33,572,768円	108,928,743円

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

前期	当期																																												
自 平成31年4月26日 至 令和1年10月25日	自 令和1年10月26日 至 令和2年4月27日																																												
<p>分配金の計算過程</p> <p>第89期計算期間末（令和1年5月27日）に、投資信託約款に基づき計算した203,314,730円（1万口当たり8,609.37円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い11,180,775円（1万口当たり50円）を分配しております。</p> <table border="1"> <tr><td>配当等収益（費用控除後）</td><td>1,364,432円</td></tr> <tr><td>有価証券売買等損益</td><td>0円</td></tr> <tr><td>収益調整金</td><td>197,239,012円</td></tr> <tr><td>分配準備積立金</td><td>4,711,286円</td></tr> <tr><td>分配可能額</td><td>203,314,730円</td></tr> <tr><td>（1万口当たり分配可能額）</td><td>(8,609.37円)</td></tr> <tr><td>収益分配金</td><td>1,180,775円</td></tr> <tr><td>（1万口当たり収益分配金）</td><td>(50円)</td></tr> </table> <p>第90期計算期間末（令和1年6月25日）に、投資信託約款に基づき計算した203,540,499円（1万口当たり8,624.16円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い11,180,059円（1万口当たり50円）を分配しております。</p> <table border="1"> <tr><td>配当等収益（費用控除後）</td><td>1,529,135円</td></tr> <tr><td>有価証券売買等損益（費用控除後、繰越欠損金補填後）</td><td>0円</td></tr> <tr><td>収益調整金</td><td>197,134,557円</td></tr> </table>	配当等収益（費用控除後）	1,364,432円	有価証券売買等損益	0円	収益調整金	197,239,012円	分配準備積立金	4,711,286円	分配可能額	203,314,730円	（1万口当たり分配可能額）	(8,609.37円)	収益分配金	1,180,775円	（1万口当たり収益分配金）	(50円)	配当等収益（費用控除後）	1,529,135円	有価証券売買等損益（費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円	収益調整金	197,134,557円	<p>分配金の計算過程</p> <p>第95期計算期間末（令和1年11月25日）に、投資信託約款に基づき計算した191,209,948円（1万口当たり8,648.96円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い11,105,393円（1万口当たり50円）を分配しております。</p> <table border="1"> <tr><td>配当等収益（費用控除後）</td><td>1,013,131円</td></tr> <tr><td>有価証券売買等損益</td><td>0円</td></tr> <tr><td>収益調整金</td><td>184,738,171円</td></tr> <tr><td>分配準備積立金</td><td>5,458,646円</td></tr> <tr><td>分配可能額</td><td>191,209,948円</td></tr> <tr><td>（1万口当たり分配可能額）</td><td>(8,648.96円)</td></tr> <tr><td>収益分配金</td><td>1,105,393円</td></tr> <tr><td>（1万口当たり収益分配金）</td><td>(50円)</td></tr> </table> <p>第96期計算期間末（令和1年12月25日）に、投資信託約款に基づき計算した188,300,601円（1万口当たり8,651.42円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い11,088,263円（1万口当たり50円）を分配しております。</p> <table border="1"> <tr><td>配当等収益（費用控除後）</td><td>1,141,731円</td></tr> <tr><td>有価証券売買等損益（費用控除後、繰越欠損金補填後）</td><td>0円</td></tr> <tr><td>収益調整金</td><td>181,900,214円</td></tr> </table>	配当等収益（費用控除後）	1,013,131円	有価証券売買等損益	0円	収益調整金	184,738,171円	分配準備積立金	5,458,646円	分配可能額	191,209,948円	（1万口当たり分配可能額）	(8,648.96円)	収益分配金	1,105,393円	（1万口当たり収益分配金）	(50円)	配当等収益（費用控除後）	1,141,731円	有価証券売買等損益（費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円	収益調整金	181,900,214円
配当等収益（費用控除後）	1,364,432円																																												
有価証券売買等損益	0円																																												
収益調整金	197,239,012円																																												
分配準備積立金	4,711,286円																																												
分配可能額	203,314,730円																																												
（1万口当たり分配可能額）	(8,609.37円)																																												
収益分配金	1,180,775円																																												
（1万口当たり収益分配金）	(50円)																																												
配当等収益（費用控除後）	1,529,135円																																												
有価証券売買等損益（費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円																																												
収益調整金	197,134,557円																																												
配当等収益（費用控除後）	1,013,131円																																												
有価証券売買等損益	0円																																												
収益調整金	184,738,171円																																												
分配準備積立金	5,458,646円																																												
分配可能額	191,209,948円																																												
（1万口当たり分配可能額）	(8,648.96円)																																												
収益分配金	1,105,393円																																												
（1万口当たり収益分配金）	(50円)																																												
配当等収益（費用控除後）	1,141,731円																																												
有価証券売買等損益（費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円																																												
収益調整金	181,900,214円																																												

分配準備積立金	4,876,807円
分配可能額	203,540,499円
(1万口当たり分配可能額)	(8,624.16円)
収益分配金	1,180,059円
(1万口当たり収益分配金)	(50円)

第91期計算期間末(令和1年7月25日)に、投資信託約款に基づき計算した196,983,384円(1万口当たり8,638.97円)を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,140,085円(1万口当たり50円)を分配しております。

配当等収益 (費用控除後)	1,477,425円
有価証券売買等損益 (費用控除後、繰越欠損金補填後)	0円
収益調整金	190,471,843円
分配準備積立金	5,034,116円
分配可能額	196,983,384円
(1万口当たり分配可能額)	(8,638.97円)
収益分配金	1,140,085円
(1万口当たり収益分配金)	(50円)

第92期計算期間末(令和1年8月26日)に、投資信託約款に基づき計算した197,085,380円(1万口当たり8,647.94円)を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,139,492円(1万口当たり50円)を分配しております。

配当等収益 (費用控除後)	1,342,379円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	190,407,827円
分配準備積立金	5,335,174円
分配可能額	197,085,380円
(1万口当たり分配可能額)	(8,647.94円)
収益分配金	1,139,492円
(1万口当たり収益分配金)	(50円)

第93期計算期間末(令和1年9月25日)に、投資信託約款に基づき計算した196,758,181円(1万口当たり8,650.37円)を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,137,281円(1万口当たり50円)を分配しております。

配当等収益 (費用控除後)	1,192,524円
有価証券売買等損益 (費用控除後、繰越欠損金補填後)	0円
収益調整金	190,050,022円
分配準備積立金	5,515,635円
分配可能額	196,758,181円
(1万口当たり分配可能額)	(8,650.37円)
収益分配金	1,137,281円
(1万口当たり収益分配金)	(50円)

第94期計算期間末(令和1年10月25日)に、投資信託約款に基づき計算した196,461,599円(1万口当たり8,653.13円)を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,135,205円(1万口当たり50円)を分配しております。

配当等収益 (費用控除後)	1,197,636円
有価証券売買等損益 (費用控除後、繰越欠損金補填後)	0円
収益調整金	189,712,986円
分配準備積立金	5,550,977円
分配可能額	196,461,599円
(1万口当たり分配可能額)	(8,653.13円)
収益分配金	1,135,205円
(1万口当たり収益分配金)	(50円)

分配準備積立金	5,258,656円
分配可能額	188,300,601円
(1万口当たり分配可能額)	(8,651.42円)
収益分配金	1,088,263円
(1万口当たり収益分配金)	(50円)

第97期計算期間末(令和2年1月27日)に、投資信託約款に基づき計算した187,793,782円(1万口当たり8,646.53円)を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,085,949円(1万口当たり50円)を分配しております。

配当等収益 (費用控除後)	979,575円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	181,520,066円
分配準備積立金	5,294,141円
分配可能額	187,793,782円
(1万口当たり分配可能額)	(8,646.53円)
収益分配金	1,085,949円
(1万口当たり収益分配金)	(50円)

第98期計算期間末(令和2年2月25日)に、投資信託約款に基づき計算した185,198,982円(1万口当たり8,629.53円)を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,073,053円(1万口当たり50円)を分配しております。

配当等収益 (費用控除後)	708,324円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	179,378,504円
分配準備積立金	5,112,154円
分配可能額	185,198,982円
(1万口当たり分配可能額)	(8,629.53円)
収益分配金	1,073,053円
(1万口当たり収益分配金)	(50円)

第99期計算期間末(令和2年3月25日)に、投資信託約款に基づき計算した182,495,526円(1万口当たり8,613.63円)を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,059,341円(1万口当たり50円)を分配しております。

配当等収益 (費用控除後)	722,289円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	177,125,191円
分配準備積立金	4,648,046円
分配可能額	182,495,526円
(1万口当たり分配可能額)	(8,613.63円)
収益分配金	1,059,341円
(1万口当たり収益分配金)	(50円)

第100期計算期間末(令和2年4月27日)に、投資信託約款に基づき計算した182,650,964円(1万口当たり8,585.17円)を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,063,758円(1万口当たり50円)を分配しております。

配当等収益 (費用控除後)	458,289円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	177,887,653円
分配準備積立金	4,305,022円
分配可能額	182,650,964円
(1万口当たり分配可能額)	(8,585.17円)
収益分配金	1,063,758円
(1万口当たり収益分配金)	(50円)

金融商品の状況に関する事項

項目	当期
	自 令和1年10月26日 至 令和2年4月27日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有している金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務であります。なお、当ファンドは投資信託受益証券及び親投資信託受益証券を通じて有価証券に投資し、また、投資信託受益証券においては、デリバティブ取引を行っております。これらの金融商品に係るリスクは、価格変動リスク、信用リスク、為替変動リスク及び流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリング及びファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っております。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理及びコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。 また、とりわけ、市場リスク、信用リスク及び流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限値、管理レベル及び頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。その後、当該関連運用部署の対処の実施や対処方針の決定等に関し、必要に応じてリスク管理を行う部署が当該部署の担当役員、当該関連運用部署の担当役員及びリスク管理会議へ報告を行う体制となっております。 なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

項目	当期
	令和2年4月27日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありませぬ。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

前期（令和1年10月25日現在）

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	118
投資信託受益証券	14,899,683
合計	14,899,565

当期（令和2年4月27日現在）

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	118
投資信託受益証券	9,378,935
合計	9,379,053

(デリバティブ取引等関係に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前期（令和1年10月25日現在）

該当事項はありません。

当期（令和2年4月27日現在）

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

当期(自 令和1年10月26日 至 令和2年4月27日)

市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

(1口当たり情報)

前期 令和1年10月25日現在	当期 令和2年4月27日現在
1口当たり純資産額 0.8521円 「1口 = 1円(10,000口 = 8,521円)」	1口当たり純資産額 0.4880円 「1口 = 1円(10,000口 = 4,880円)」

(4)【附属明細表】

有価証券明細表

<株式以外の有価証券>

通貨	種類	銘柄	口数	評価額	備考
円	投資信託受益証券	Japan Stock 225 Fund BRL Class	279,735,031	100,396,902	
	親投資信託受益証券	キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	393,895	400,236	
合計 2銘柄			280,128,926	100,797,138	

<参考>

当ファンドは、「キャッシュ・マネジメント・マザーファンド」受益証券を投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」はすべて同マザーファンドの受益証券であります。

同マザーファンドの状況は、前記「日本株225・米ドルコース」に記載のとおりであります。

【日本株225・豪ドルコース】

(1)【貸借対照表】

(単位:円)

	前期 令和1年10月25日現在	当期 令和2年4月27日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	14,730,420	11,431,792
投資信託受益証券	416,104,945	293,933,799
親投資信託受益証券	150,148	150,089
未収入金	3,849,729	-
流動資産合計	434,835,242	305,515,680
資産合計	434,835,242	305,515,680
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	3,790,927	3,692,863
未払解約金	4,032,854	4,698
未払受託者報酬	9,262	7,357
未払委託者報酬	333,738	265,120
その他未払費用	21,447	19,409
流動負債合計	8,188,228	3,989,447
負債合計	8,188,228	3,989,447
純資産の部		
元本等		
元本	505,456,980	492,381,824
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	78,809,966	190,855,591
(分配準備積立金)	8,483	632
元本等合計	426,647,014	301,526,233
純資産合計	426,647,014	301,526,233
負債純資産合計	434,835,242	305,515,680

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	前期 平成31年 4月26日 令和 1 年10月25日	当期 令和 1 年10月26日 令和 2 年 4 月27日
営業収益		
受取配当金	8,359,167	5,864,762
受取利息	88	64
有価証券売買等損益	11,271,272	85,737,030
営業収益合計	2,912,017	79,872,204
営業費用		
支払利息	4,914	2,975
受託者報酬	56,623	51,274
委託者報酬	2,039,838	1,847,485
その他費用	21,479	19,430
営業費用合計	2,122,854	1,921,164
営業利益又は営業損失()	5,034,871	81,793,368
経常利益又は経常損失()	5,034,871	81,793,368
当期純利益又は当期純損失()	5,034,871	81,793,368
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()	4,204,783	176,227
期首剰余金又は期首欠損金()	39,817,088	78,809,966
剰余金増加額又は欠損金減少額	26,501,449	15,177,980
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	26,501,449	15,177,980
剰余金減少額又は欠損金増加額	33,246,941	24,643,584
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	33,246,941	24,643,584
分配金	23,007,732	20,962,880
期末剰余金又は期末欠損金()	78,809,966	190,855,591

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	当期
	自 令和1年10月26日 至 令和2年4月27日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券及び親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、基準価額で評価しております。 また、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認めた価額もしくは受託会社と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認めた価額で評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	(1)受取配当金 外国投資信託受益証券についての受取配当金は、原則として、投資信託受益証券の分配落ち日において、確定分配金額を計上しております。 (2)有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	当ファンドの特定期間は、当計算期末が休日のため、令和1年10月26日から令和2年4月27日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	前期	当期
	令和1年10月25日現在	令和2年4月27日現在
1. 元本状況		
期首元本額	469,104,371円	505,456,980円
期中追加設定元本額	157,193,514円	89,201,771円
期中一部解約元本額	120,840,905円	102,276,927円
2. 受益権の総数	505,456,980口	492,381,824口
3. 元本の欠損	78,809,966円	190,855,591円

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

前期	当期																																												
自 平成31年4月26日 至 令和1年10月25日	自 令和1年10月26日 至 令和2年4月27日																																												
<p>分配金の計算過程</p> <p>第89期計算期間末（令和1年5月27日）に、投資信託約款に基づき計算した425,602,439円（1万口当たり9,018.71円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い13,539,328円（1万口当たり75円）を分配しております。</p> <table border="1"> <tr> <td>配当等収益 (費用控除後)</td> <td>1,188,032円</td> </tr> <tr> <td>有価証券売買等損益</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金</td> <td>424,390,043円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金</td> <td>24,364円</td> </tr> <tr> <td>分配可能額</td> <td>425,602,439円</td> </tr> <tr> <td>(1万口当たり分配可能額)</td> <td>(9,018.71円)</td> </tr> <tr> <td>収益分配金</td> <td>3,539,328円</td> </tr> <tr> <td>(1万口当たり収益分配金)</td> <td>(75円)</td> </tr> </table> <p>第90期計算期間末（令和1年6月25日）に、投資信託約款に基づき計算した428,729,926円（1万口当たり8,969.76円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い13,584,793円（1万口当たり75円）を分配しております。</p> <table border="1"> <tr> <td>配当等収益 (費用控除後)</td> <td>1,243,443円</td> </tr> <tr> <td>有価証券売買等損益</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金</td> <td>427,453,947円</td> </tr> </table>	配当等収益 (費用控除後)	1,188,032円	有価証券売買等損益	0円	収益調整金	424,390,043円	分配準備積立金	24,364円	分配可能額	425,602,439円	(1万口当たり分配可能額)	(9,018.71円)	収益分配金	3,539,328円	(1万口当たり収益分配金)	(75円)	配当等収益 (費用控除後)	1,243,443円	有価証券売買等損益	0円	収益調整金	427,453,947円	<p>分配金の計算過程</p> <p>第95期計算期間末（令和1年11月25日）に、投資信託約款に基づき計算した420,807,787円（1万口当たり8,705.85円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い13,625,213円（1万口当たり75円）を分配しております。</p> <table border="1"> <tr> <td>配当等収益 (費用控除後)</td> <td>938,054円</td> </tr> <tr> <td>有価証券売買等損益 (費用控除後、繰越欠損金補填後)</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金</td> <td>419,861,631円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金</td> <td>8,102円</td> </tr> <tr> <td>分配可能額</td> <td>420,807,787円</td> </tr> <tr> <td>(1万口当たり分配可能額)</td> <td>(8,705.85円)</td> </tr> <tr> <td>収益分配金</td> <td>3,625,213円</td> </tr> <tr> <td>(1万口当たり収益分配金)</td> <td>(75円)</td> </tr> </table> <p>第96期計算期間末（令和1年12月25日）に、投資信託約款に基づき計算した410,786,430円（1万口当たり8,651.66円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い13,561,050円（1万口当たり75円）を分配しております。</p> <table border="1"> <tr> <td>配当等収益 (費用控除後)</td> <td>987,555円</td> </tr> <tr> <td>有価証券売買等損益 (費用控除後、繰越欠損金補填後)</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金</td> <td>409,724,497円</td> </tr> </table>	配当等収益 (費用控除後)	938,054円	有価証券売買等損益 (費用控除後、繰越欠損金補填後)	0円	収益調整金	419,861,631円	分配準備積立金	8,102円	分配可能額	420,807,787円	(1万口当たり分配可能額)	(8,705.85円)	収益分配金	3,625,213円	(1万口当たり収益分配金)	(75円)	配当等収益 (費用控除後)	987,555円	有価証券売買等損益 (費用控除後、繰越欠損金補填後)	0円	収益調整金	409,724,497円
配当等収益 (費用控除後)	1,188,032円																																												
有価証券売買等損益	0円																																												
収益調整金	424,390,043円																																												
分配準備積立金	24,364円																																												
分配可能額	425,602,439円																																												
(1万口当たり分配可能額)	(9,018.71円)																																												
収益分配金	3,539,328円																																												
(1万口当たり収益分配金)	(75円)																																												
配当等収益 (費用控除後)	1,243,443円																																												
有価証券売買等損益	0円																																												
収益調整金	427,453,947円																																												
配当等収益 (費用控除後)	938,054円																																												
有価証券売買等損益 (費用控除後、繰越欠損金補填後)	0円																																												
収益調整金	419,861,631円																																												
分配準備積立金	8,102円																																												
分配可能額	420,807,787円																																												
(1万口当たり分配可能額)	(8,705.85円)																																												
収益分配金	3,625,213円																																												
(1万口当たり収益分配金)	(75円)																																												
配当等収益 (費用控除後)	987,555円																																												
有価証券売買等損益 (費用控除後、繰越欠損金補填後)	0円																																												
収益調整金	409,724,497円																																												

分配準備積立金	32,536円
分配可能額	428,729,926円
(1万口当たり分配可能額)	(8,969.76円)
収益分配金	3,584,793円
(1万口当たり収益分配金)	(75円)

第91期計算期間末(令和1年7月25日)に、投資信託約款に基づき計算した454,680,564円(1万口当たり8,926.55円)を分配対象収益とし、収益分配方針に従い13,820,181円(1万口当たり75円)を分配しております。

配当等収益 (費用控除後)	1,618,779円
有価証券売買等損益 (費用控除後、繰越欠損金補填後)	0円
収益調整金	453,028,995円
分配準備積立金	32,790円
分配可能額	454,680,564円
(1万口当たり分配可能額)	(8,926.55円)
収益分配金	3,820,181円
(1万口当たり収益分配金)	(75円)

第92期計算期間末(令和1年8月26日)に、投資信託約款に基づき計算した523,714,028円(1万口当たり8,866.44円)を分配対象収益とし、収益分配方針に従い14,430,024円(1万口当たり75円)を分配しております。

配当等収益 (費用控除後)	874,506円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	522,818,727円
分配準備積立金	20,795円
分配可能額	523,714,028円
(1万口当たり分配可能額)	(8,866.44円)
収益分配金	4,430,024円
(1万口当たり収益分配金)	(75円)

第93期計算期間末(令和1年9月25日)に、投資信託約款に基づき計算した451,638,602円(1万口当たり8,815.37円)を分配対象収益とし、収益分配方針に従い13,842,479円(1万口当たり75円)を分配しております。

配当等収益 (費用控除後)	1,228,675円
有価証券売買等損益 (費用控除後、繰越欠損金補填後)	0円
収益調整金	450,401,905円
分配準備積立金	8,022円
分配可能額	451,638,602円
(1万口当たり分配可能額)	(8,815.37円)
収益分配金	3,842,479円
(1万口当たり収益分配金)	(75円)

第94期計算期間末(令和1年10月25日)に、投資信託約款に基づき計算した442,853,216円(1万口当たり8,761.44円)を分配対象収益とし、収益分配方針に従い13,790,927円(1万口当たり75円)を分配しております。

配当等収益 (費用控除後)	1,062,972円
有価証券売買等損益 (費用控除後、繰越欠損金補填後)	0円
収益調整金	441,783,273円
分配準備積立金	6,971円
分配可能額	442,853,216円
(1万口当たり分配可能額)	(8,761.44円)
収益分配金	3,790,927円
(1万口当たり収益分配金)	(75円)

分配準備積立金	74,378円
分配可能額	410,786,430円
(1万口当たり分配可能額)	(8,651.66円)
収益分配金	3,561,050円
(1万口当たり収益分配金)	(75円)

第97期計算期間末(令和2年1月27日)に、投資信託約款に基づき計算した369,188,135円(1万口当たり8,589.22円)を分配対象収益とし、収益分配方針に従い13,223,705円(1万口当たり75円)を分配しております。

配当等収益 (費用控除後)	540,020円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	368,632,440円
分配準備積立金	15,675円
分配可能額	369,188,135円
(1万口当たり分配可能額)	(8,589.22円)
収益分配金	3,223,705円
(1万口当たり収益分配金)	(75円)

第98期計算期間末(令和2年2月25日)に、投資信託約款に基づき計算した359,279,103円(1万口当たり8,527.92円)を分配対象収益とし、収益分配方針に従い13,159,729円(1万口当たり75円)を分配しております。

配当等収益 (費用控除後)	577,555円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	358,662,827円
分配準備積立金	38,721円
分配可能額	359,279,103円
(1万口当たり分配可能額)	(8,527.92円)
収益分配金	3,159,729円
(1万口当たり収益分配金)	(75円)

第99期計算期間末(令和2年3月25日)に、投資信託約款に基づき計算した417,796,579円(1万口当たり8,468.12円)を分配対象収益とし、収益分配方針に従い13,700,320円(1万口当たり75円)を分配しております。

配当等収益 (費用控除後)	752,192円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	417,018,200円
分配準備積立金	26,187円
分配可能額	417,796,579円
(1万口当たり分配可能額)	(8,468.12円)
収益分配金	3,700,320円
(1万口当たり収益分配金)	(75円)

第100期計算期間末(令和2年4月27日)に、投資信託約款に基づき計算した414,258,667円(1万口当たり8,413.36円)を分配対象収益とし、収益分配方針に従い13,692,863円(1万口当たり75円)を分配しております。

配当等収益 (費用控除後)	996,669円
有価証券売買等損益 (費用控除後、繰越欠損金補填後)	0円
収益調整金	413,224,033円
分配準備積立金	37,965円
分配可能額	414,258,667円
(1万口当たり分配可能額)	(8,413.36円)
収益分配金	3,692,863円
(1万口当たり収益分配金)	(75円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	当期
	自 令和1年10月26日 至 令和2年4月27日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有している金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務であります。なお、当ファンドは投資信託受益証券及び親投資信託受益証券を通じて有価証券に投資し、また、投資信託受益証券においては、デリバティブ取引を行っております。これらの金融商品に係るリスクは、価格変動リスク、信用リスク、為替変動リスク及び流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリング及びファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理及びコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。 また、とりわけ、市場リスク、信用リスク及び流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限値、管理レベル及び頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。その後、当該関連運用部署の対処の実施や対処方針の決定等に関し、必要に応じてリスク管理を行う部署が当該部署の担当役員、当該関連運用部署の担当役員及びリスク管理会議へ報告を行う体制となっております。 なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

項目	当期
	令和2年4月27日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありませぬ。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

前期（令和1年10月25日現在）

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	44
投資信託受益証券	19,858,790
合計	19,858,746

当期（令和2年4月27日現在）

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	44
投資信託受益証券	26,391,119
合計	26,391,075

（デリバティブ取引等関係に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前期（令和1年10月25日現在）

該当事項はありません。

当期（令和2年4月27日現在）

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

当期(自 令和1年10月26日 至 令和2年4月27日)

市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

(1口当たり情報)

前期 令和1年10月25日現在	当期 令和2年4月27日現在
1口当たり純資産額 0.8441円 「1口 = 1円(10,000口 = 8,441円)」	1口当たり純資産額 0.6124円 「1口 = 1円(10,000口 = 6,124円)」

(4)【附属明細表】

有価証券明細表

<株式以外の有価証券>

通貨	種類	銘柄	口数	評価額	備考
円	投資信託受益証券	Japan Stock 225 Fund AUD Class	497,939,691	293,933,799	
	親投資信託受益証券	キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	147,711	150,089	
合計 2銘柄			498,087,402	294,083,888	

<参考>

当ファンドは、「キャッシュ・マネジメント・マザーファンド」受益証券を投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」はすべて同マザーファンドの受益証券であります。

同マザーファンドの状況は、前記「日本株225・米ドルコース」に記載のとおりであります。

【日本株225・資源3通貨コース】

(1)【貸借対照表】

(単位:円)

	前期 令和1年10月25日現在	当期 令和2年4月27日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	8,549,219	6,405,794
投資信託受益証券	257,434,845	162,329,057
親投資信託受益証券	50,049	50,029
流動資産合計	266,034,113	168,784,880
資産合計	266,034,113	168,784,880
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	1,472,057	1,424,946
未払解約金	49,798	-
未払受託者報酬	5,602	4,285
未払委託者報酬	201,892	154,550
その他未払費用	13,204	12,280
流動負債合計	1,742,553	1,596,061
負債合計	1,742,553	1,596,061
純資産の部		
元本等		
元本	294,411,527	284,989,276
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	30,119,967	117,800,457
(分配準備積立金)	1,226,149	6,930
元本等合計	264,291,560	167,188,819
純資産合計	264,291,560	167,188,819
負債純資産合計	266,034,113	168,784,880

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	前期 平成31年 4月26日 令和 1 年10月25日	当期 令和 1 年10月26日 令和 2 年 4 月27日
営業収益		
受取配当金	10,059,651	7,385,861
受取利息	49	39
有価証券売買等損益	9,761,641	84,099,634
営業収益合計	298,059	76,713,734
営業費用		
支払利息	2,592	1,702
受託者報酬	34,928	32,525
委託者報酬	1,259,298	1,172,294
その他費用	13,227	12,293
営業費用合計	1,310,045	1,218,814
営業利益又は営業損失()	1,011,986	77,932,548
経常利益又は経常損失()	1,011,986	77,932,548
当期純利益又は当期純損失()	1,011,986	77,932,548
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()	126,034	11,279
期首剰余金又は期首欠損金()	22,297,757	30,119,967
剰余金増加額又は欠損金減少額	3,884,077	2,163,552
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	3,884,077	2,163,552
剰余金減少額又は欠損金増加額	1,548,758	3,437,698
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	1,548,758	3,437,698
分配金	9,019,509	8,485,075
期末剰余金又は期末欠損金()	30,119,967	117,800,457

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	当期
	自 令和1年10月26日 至 令和2年4月27日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券及び親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、基準価額で評価しております。 また、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認められた価額もしくは受託会社と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認められた価額で評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	(1)受取配当金 外国投資信託受益証券についての受取配当金は、原則として、投資信託受益証券の分配落ち日において、確定分配金額を計上しております。 (2)有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	当ファンドの特定期間は、当計算期末が休日のため、令和1年10月26日から令和2年4月27日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	前期	当期
	令和1年10月25日現在	令和2年4月27日現在
1. 元本状況		
期首元本額	311,895,327円	294,411,527円
期中追加設定元本額	10,899,478円	10,904,416円
期中一部解約元本額	28,383,278円	20,326,667円
2. 受益権の総数	294,411,527口	284,989,276口
3. 元本の欠損	30,119,967円	117,800,457円

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

前期	当期																																												
自 平成31年4月26日 至 令和1年10月25日	自 令和1年10月26日 至 令和2年4月27日																																												
<p>分配金の計算過程</p> <p>第89期計算期間末（令和1年5月27日）に、投資信託約款に基づき計算した262,539,076円（1万口当たり8,479.92円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い11,548,003円（1万口当たり50円）を分配しております。</p> <table border="1"> <tr><td>配当等収益（費用控除後）</td><td>1,594,908円</td></tr> <tr><td>有価証券売買等損益</td><td>0円</td></tr> <tr><td>収益調整金</td><td>260,038,361円</td></tr> <tr><td>分配準備積立金</td><td>905,807円</td></tr> <tr><td>分配可能額</td><td>262,539,076円</td></tr> <tr><td>（1万口当たり分配可能額）</td><td>(8,479.92円)</td></tr> <tr><td>収益分配金</td><td>1,548,003円</td></tr> <tr><td>（1万口当たり収益分配金）</td><td>(50円)</td></tr> </table> <p>第90期計算期間末（令和1年6月25日）に、投資信託約款に基づき計算した262,079,675円（1万口当たり8,486.50円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い11,544,098円（1万口当たり50円）を分配しております。</p> <table border="1"> <tr><td>配当等収益（費用控除後）</td><td>1,745,223円</td></tr> <tr><td>有価証券売買等損益（費用控除後、繰越欠損金補填後）</td><td>0円</td></tr> <tr><td>収益調整金</td><td>259,388,120円</td></tr> </table>	配当等収益（費用控除後）	1,594,908円	有価証券売買等損益	0円	収益調整金	260,038,361円	分配準備積立金	905,807円	分配可能額	262,539,076円	（1万口当たり分配可能額）	(8,479.92円)	収益分配金	1,548,003円	（1万口当たり収益分配金）	(50円)	配当等収益（費用控除後）	1,745,223円	有価証券売買等損益（費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円	収益調整金	259,388,120円	<p>分配金の計算過程</p> <p>第95期計算期間末（令和1年11月25日）に、投資信託約款に基づき計算した243,370,199円（1万口当たり8,481.93円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い11,434,639円（1万口当たり50円）を分配しております。</p> <table border="1"> <tr><td>配当等収益（費用控除後）</td><td>1,138,788円</td></tr> <tr><td>有価証券売買等損益</td><td>0円</td></tr> <tr><td>収益調整金</td><td>241,039,462円</td></tr> <tr><td>分配準備積立金</td><td>1,191,949円</td></tr> <tr><td>分配可能額</td><td>243,370,199円</td></tr> <tr><td>（1万口当たり分配可能額）</td><td>(8,481.93円)</td></tr> <tr><td>収益分配金</td><td>1,434,639円</td></tr> <tr><td>（1万口当たり収益分配金）</td><td>(50円)</td></tr> </table> <p>第96期計算期間末（令和1年12月25日）に、投資信託約款に基づき計算した238,082,607円（1万口当たり8,479.12円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い11,403,934円（1万口当たり50円）を分配しております。</p> <table border="1"> <tr><td>配当等収益（費用控除後）</td><td>1,324,973円</td></tr> <tr><td>有価証券売買等損益（費用控除後、繰越欠損金補填後）</td><td>0円</td></tr> <tr><td>収益調整金</td><td>235,884,399円</td></tr> </table>	配当等収益（費用控除後）	1,138,788円	有価証券売買等損益	0円	収益調整金	241,039,462円	分配準備積立金	1,191,949円	分配可能額	243,370,199円	（1万口当たり分配可能額）	(8,481.93円)	収益分配金	1,434,639円	（1万口当たり収益分配金）	(50円)	配当等収益（費用控除後）	1,324,973円	有価証券売買等損益（費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円	収益調整金	235,884,399円
配当等収益（費用控除後）	1,594,908円																																												
有価証券売買等損益	0円																																												
収益調整金	260,038,361円																																												
分配準備積立金	905,807円																																												
分配可能額	262,539,076円																																												
（1万口当たり分配可能額）	(8,479.92円)																																												
収益分配金	1,548,003円																																												
（1万口当たり収益分配金）	(50円)																																												
配当等収益（費用控除後）	1,745,223円																																												
有価証券売買等損益（費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円																																												
収益調整金	259,388,120円																																												
配当等収益（費用控除後）	1,138,788円																																												
有価証券売買等損益	0円																																												
収益調整金	241,039,462円																																												
分配準備積立金	1,191,949円																																												
分配可能額	243,370,199円																																												
（1万口当たり分配可能額）	(8,481.93円)																																												
収益分配金	1,434,639円																																												
（1万口当たり収益分配金）	(50円)																																												
配当等収益（費用控除後）	1,324,973円																																												
有価証券売買等損益（費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円																																												
収益調整金	235,884,399円																																												

分配準備積立金	946,332円
分配可能額	262,079,675円
（1万口当たり分配可能額）	（8,486.50円）
収益分配金	1,544,098円
（1万口当たり収益分配金）	（50円）

第91期計算期間末（令和1年7月25日）に、投資信託約款に基づき計算した253,317,296円（1万口当たり8,495.69円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,490,856円（1万口当たり50円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	1,762,121円
有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円
収益調整金	250,456,258円
分配準備積立金	1,098,917円
分配可能額	253,317,296円
（1万口当たり分配可能額）	（8,495.69円）
収益分配金	1,490,856円
（1万口当たり収益分配金）	（50円）

第92期計算期間末（令和1年8月26日）に、投資信託約款に基づき計算した252,322,055円（1万口当たり8,497.99円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,484,599円（1万口当たり50円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	1,552,512円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	249,409,063円
分配準備積立金	1,360,480円
分配可能額	252,322,055円
（1万口当たり分配可能額）	（8,497.99円）
収益分配金	1,484,599円
（1万口当たり収益分配金）	（50円）

第93期計算期間末（令和1年9月25日）に、投資信託約款に基づき計算した251,436,433円（1万口当たり8,495.07円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,479,896円（1万口当たり50円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	1,393,478円
有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円
収益調整金	248,628,655円
分配準備積立金	1,414,300円
分配可能額	251,436,433円
（1万口当たり分配可能額）	（8,495.07円）
収益分配金	1,479,896円
（1万口当たり収益分配金）	（50円）

第94期計算期間末（令和1年10月25日）に、投資信託約款に基づき計算した250,020,793円（1万口当たり8,492.22円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,472,057円（1万口当たり50円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	1,388,299円
有価証券売買等損益 （費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円
収益調整金	247,322,587円
分配準備積立金	1,309,907円
分配可能額	250,020,793円
（1万口当たり分配可能額）	（8,492.22円）
収益分配金	1,472,057円
（1万口当たり収益分配金）	（50円）

分配準備積立金	873,235円
分配可能額	238,082,607円
（1万口当たり分配可能額）	（8,479.12円）
収益分配金	1,403,934円
（1万口当たり収益分配金）	（50円）

第97期計算期間末（令和2年1月27日）に、投資信託約款に基づき計算した237,558,141円（1万口当たり8,467.86円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,402,705円（1万口当たり50円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	1,086,655円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	235,679,328円
分配準備積立金	792,158円
分配可能額	237,558,141円
（1万口当たり分配可能額）	（8,467.86円）
収益分配金	1,402,705円
（1万口当たり収益分配金）	（50円）

第98期計算期間末（令和2年2月25日）に、投資信託約款に基づき計算した236,100,338円（1万口当たり8,457.61円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,395,785円（1万口当たり50円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	1,109,677円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	234,518,338円
分配準備積立金	472,323円
分配可能額	236,100,338円
（1万口当たり分配可能額）	（8,457.61円）
収益分配金	1,395,785円
（1万口当たり収益分配金）	（50円）

第99期計算期間末（令和2年3月25日）に、投資信託約款に基づき計算した240,133,448円（1万口当たり8,437.18円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,423,066円（1万口当たり50円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	841,225円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	239,106,904円
分配準備積立金	185,319円
分配可能額	240,133,448円
（1万口当たり分配可能額）	（8,437.18円）
収益分配金	1,423,066円
（1万口当たり収益分配金）	（50円）

第100期計算期間末（令和2年4月27日）に、投資信託約款に基づき計算した239,885,666円（1万口当たり8,417.36円）を分配対象収益とし、収益分配方針に従い1,424,946円（1万口当たり50円）を分配しております。

配当等収益 （費用控除後）	859,965円
有価証券売買等損益	0円
収益調整金	239,023,768円
分配準備積立金	1,933円
分配可能額	239,885,666円
（1万口当たり分配可能額）	（8,417.36円）
収益分配金	1,424,946円
（1万口当たり収益分配金）	（50円）

金融商品の状況に関する事項

項目	当期
	自 令和1年10月26日 至 令和2年4月27日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有している金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務であります。なお、当ファンドは投資信託受益証券及び親投資信託受益証券を通じて有価証券に投資し、また、投資信託受益証券においては、デリバティブ取引を行っております。これらの金融商品に係るリスクは、価格変動リスク、信用リスク、為替変動リスク及び流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリング及びファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っております。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理及びコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。 また、とりわけ、市場リスク、信用リスク及び流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限値、管理レベル及び頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。その後、当該関連運用部署の対処の実施や対処方針の決定等に関し、必要に応じてリスク管理を行う部署が当該部署の担当役員、当該関連運用部署の担当役員及びリスク管理会議へ報告を行う体制となっております。 なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

項目	当期
	令和2年4月27日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありませぬ。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

前期（令和1年10月25日現在）

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	15
投資信託受益証券	16,096,108
合計	16,096,093

当期（令和2年4月27日現在）

種類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	15
投資信託受益証券	2,058,347
合計	2,058,362

(デリバティブ取引等関係に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前期（令和1年10月25日現在）

該当事項はありません。

当期（令和2年4月27日現在）

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

当期(自 令和1年10月26日 至 令和2年4月27日)

市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

(1口当たり情報)

前期 令和1年10月25日現在	当期 令和2年4月27日現在
1口当たり純資産額 0.8977円 「1口=1円(10,000口=8,977円)」	1口当たり純資産額 0.5866円 「1口=1円(10,000口=5,866円)」

(4)【附属明細表】

有価証券明細表

<株式以外の有価証券>

通貨	種類	銘柄	口数	評価額	備考
円	投資信託受益証券	Japan Stock 225 Fund RCB Class	337,482,448	162,329,057	
	親投資信託受益証券	キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	49,237	50,029	
合計 2銘柄			337,531,685	162,379,086	

<参考>

当ファンドは、「キャッシュ・マネジメント・マザーファンド」受益証券を投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」はすべて同マザーファンドの受益証券であります。

同マザーファンドの状況は、前記「日本株225・米ドルコース」に記載のとおりであります。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

(2020年5月末現在)

日本株225・米ドルコース

資産総額	6,927,079,972 円
負債総額	71,414,173 円
純資産総額(-)	6,855,665,799 円
発行済数量	5,739,926,680 口
1単位当り純資産額(/)	1.1944 円

日本株225・ブラジルリアルコース

資産総額	124,373,371 円
負債総額	14,972 円
純資産総額(-)	124,358,399 円
発行済数量	213,528,254 口
1単位当り純資産額(/)	0.5824 円

日本株225・豪ドルコース

資産総額	355,857,883 円
負債総額	78,874 円
純資産総額(-)	355,779,009 円
発行済数量	494,069,632 口
1単位当り純資産額(/)	0.7201 円

日本株225・資源3通貨コース

資産総額	201,471,989 円
負債総額	24,351 円
純資産総額(-)	201,447,638 円
発行済数量	285,829,896 口
1単位当り純資産額(/)	0.7048 円

(参考) キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

資産総額	5,654,854,447 円
負債総額	4,314,378 円
純資産総額(-)	5,650,540,069 円
発行済数量	5,561,584,984 口
1単位当り純資産額(/)	1.0160 円

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

1 名義書換手続など

該当事項はありません。

2 受益者名簿

作成しません。

3 受益者に対する特典

ありません。

4 受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとし、

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録

するものとし、ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等(当該他の振替機関等の上位機関を含みます。)に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとし、

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

5 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

6 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社振法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとし、

7 償還金

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、)に支払います。

8 質権口記載又は記録の受益権の取り扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

(注) 委託会社は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとし、

第二部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

イ 資本金の額および株式数

	2020年5月29日現在
資本金の額	20億円
会社が発行する株式の総数	60,000,000株
発行済株式総数	33,870,060株

ロ 最近5年間における資本金の額の増減 該当ありません。

八 会社の機構

委託会社の取締役は8名以内とし、株主総会で選任されます。取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとします。

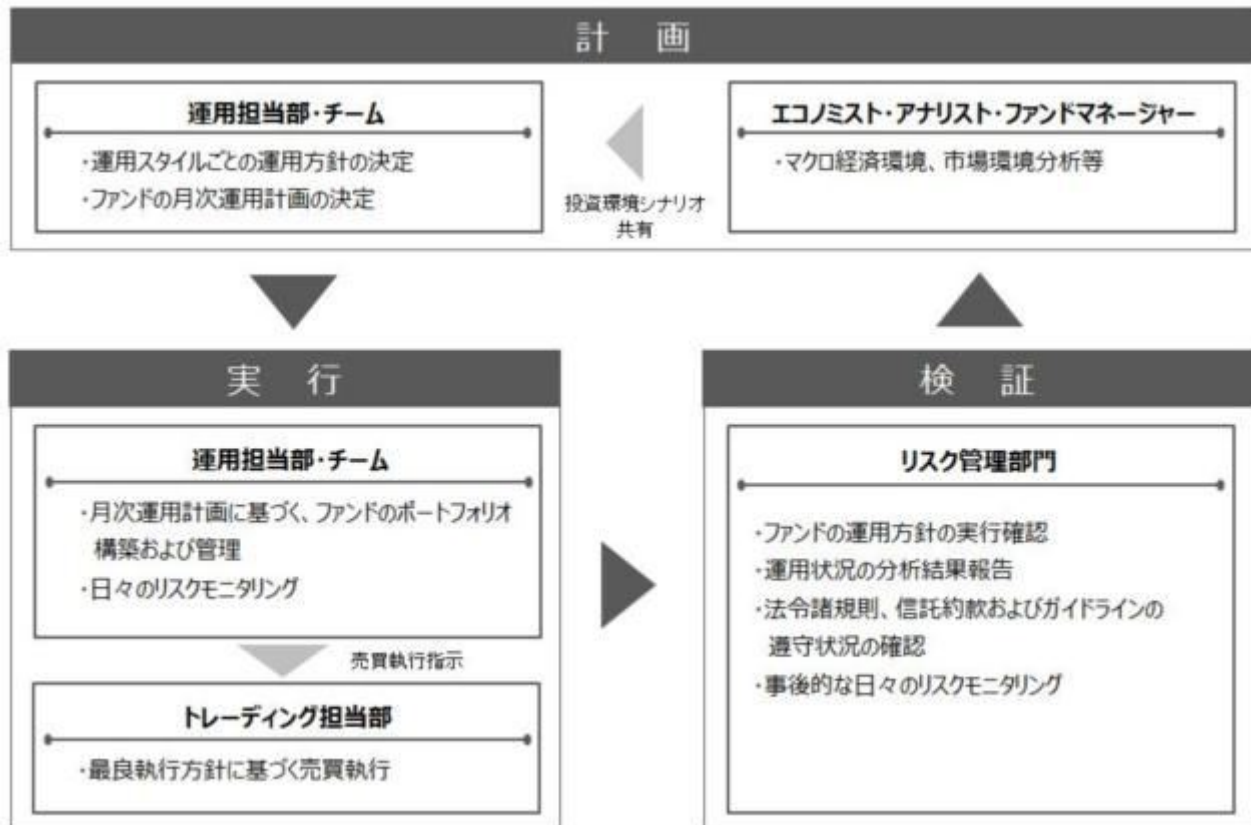
取締役の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとし、補欠または増員によって選任された取締役の任期は、他の現任取締役の任期の満了する時までとします。

委託会社の業務上重要な事項は、取締役会の決議により決定します。

取締役会は、取締役会の決議によって、代表取締役若干名を選定します。

また、取締役会の決議によって、取締役社長を1名選定し、必要に応じて取締役会長1名を選定することができます。

二 投資信託の運用の流れ



2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として投資運用業および投資助言業務を行っています。また、「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業にかかる業務を行っています。

2020年5月29日現在、委託会社が運用を行っている投資信託（親投資信託は除きます）は、以下の通りです。

	本 数(本)	純資産総額(百万円)
追加型株式投資信託	744	7,369,793
単位型株式投資信託	124	593,828
追加型公社債投資信託	1	28,440
単位型公社債投資信託	184	449,003
合 計	1,053	8,441,066

3【委託会社等の経理状況】

- 1 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。)並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。
- 2 当社は、当事業年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任あずさ監査法人の監査を受けております。

(1)【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,755,961	33,264,545
顧客分別金信託	20,011	300,021
前払費用	476,456	515,226
未収入金	64,856	602,605
未収委託者報酬	6,963,077	8,404,880
未収運用受託報酬	1,129,548	2,199,785
未収投資助言報酬	285,668	299,826
未収収益	44,150	37,702
その他の流動資産	31,771	40,119
流動資産合計	22,771,504	45,664,712
固定資産		
有形固定資産	1	
建物	173,517	101,609
器具備品	751,471	783,224
土地	-	710
リース資産	-	968
建設仮勘定	-	66,498
有形固定資産合計	924,988	953,010
無形固定資産		
ソフトウェア	479,867	909,133
ソフトウェア仮勘定	183,528	508,733
のれん	-	34,397,824
顧客関連資産	-	17,785,166
電話加入権	44	12,739
商標権	60	54
無形固定資産合計	663,501	53,613,651
投資その他の資産		
投資有価証券	10,829,628	19,436,480
関係会社株式	10,252,067	11,246,398
長期差入保証金	2,004,451	2,523,637
長期前払費用	97,107	113,852

会員権	7,819	90,479
繰延税金資産	1,426,381	-
貸倒引当金	-	20,750
投資その他の資産合計	24,617,457	33,390,098
固定資産合計	26,205,946	87,956,760
資産合計	48,977,450	133,621,473

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
顧客からの預り金	4,534	14,285
その他の預り金	1,480,229	146,200
未払金		
未払収益分配金	1,122	1,629
未払償還金	137,522	131,338
未払手数料	3,246,133	3,776,873
その他未払金	768,373	502,211
リース債務	-	1,064
未払費用	3,535,589	3,935,582
未払消費税等	84,966	305,513
未払法人税等	670,761	489,151
賞与引当金	1,302,052	1,716,321
その他の流動負債	18,110	30,951
流動負債合計	11,249,395	11,051,125
固定負債		
退職給付引当金	3,418,601	5,299,814
賞与引当金	5,074	14,767
繰延税金負債	-	2,963,538
その他の固定負債	5,074	172,918
固定負債合計	3,428,751	8,451,038
負債合計	14,678,146	19,502,164
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金		
資本準備金	8,628,984	8,628,984
その他資本剰余金	-	81,927,000
資本剰余金合計	8,628,984	90,555,984
利益剰余金		
利益準備金	284,245	284,245
その他利益剰余金		
配当準備積立金	60,000	60,000
別途積立金	1,476,959	1,476,959
繰越利益剰余金	21,255,054	19,364,265
利益剰余金合計	23,076,258	21,185,470
株主資本計	33,705,242	113,741,454
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	594,061	377,855
評価・換算差額等合計	594,061	377,855
純資産合計	34,299,304	114,119,309

負債・純資産合計

48,977,450

133,621,473

(2)【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
営業収益		
委託者報酬	39,156,499	54,615,133
運用受託報酬	6,277,217	9,389,058
投資助言報酬	1,332,888	1,303,595
その他営業収益		
サービス支援手数料	182,502	181,061
その他	49,507	32,421
営業収益計	46,998,614	65,521,269
営業費用		
支払手数料	18,499,433	24,888,040
広告宣伝費	361,696	447,024
公告費	125	-
調査費		
調査費	1,752,905	3,214,679
委託調査費	6,050,441	7,702,309
営業雑経費		
通信費	46,551	70,007
印刷費	338,465	612,249
協会費	24,700	45,117
諸会費	23,756	32,199
情報機器関連費	2,872,416	4,349,174
販売促進費	49,118	68,688
その他	148,307	154,201
営業費用合計	30,167,918	41,583,691
一般管理費		
給料		
役員報酬	190,951	264,325
給料・手当	6,308,066	9,789,691
賞与	514,259	914,702
賞与引当金繰入額	1,235,936	1,726,013
交際費	27,802	30,898
寄付金	82	2,022
事務委託費	286,905	956,931
旅費交通費	228,538	249,359
租税公課	285,369	389,032
不動産賃借料	612,410	1,121,553
退職給付費用	463,553	797,158
固定資産減価償却費	378,530	3,044,658
のれん償却費	-	2,645,986
諸経費	290,243	482,324
一般管理費合計	10,822,651	22,414,658
営業利益	6,008,044	1,522,919

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
営業外収益		
受取配当金	-	778,113
受取利息	623	947
時効成立分配金・償還金	72	1,041
原稿・講演料	1,951	2,061
投資有価証券償還益	289,451	6,398
投資有価証券売却益	7,247	24,206
雑収入	36,408	53,484
営業外収益合計	335,754	866,254
営業外費用		
為替差損	15,760	72,457
投資有価証券償還損	13,668	129,006
投資有価証券売却損	14,605	12,906
雑損失	7,027	8,334
営業外費用合計	51,061	222,704
経常利益	6,292,738	2,166,469
特別利益		
過去勤務費用償却益	79,850	-
特別利益合計	79,850	
特別損失		
固定資産除却損	1	110,668
関係会社株式評価損		-
合併関連費用	2	42,800
本社移転費用	3	133,168
減損損失	4	46,417
特別損失合計	349,058	333,054
税引前当期純利益	6,023,530	1,833,414
法人税、住民税及び事業税	1,750,031	1,874,278
法人税等調整額	90,084	619,676
法人税等合計	1,840,116	1,254,602
当期純利益	4,183,413	578,811

(3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)

(単位：千円)

	株主資本

	資本金	資本剰余金		利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金		
					配当準備 積立金	別途積立金	繰越利益剰余金
当期首残高	2,000,000	8,628,984	8,628,984	284,245	60,000	1,476,959	26,561,078
当期変動額							
剰余金の配当							9,489,438
当期純利益							4,183,413
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)							
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	5,306,024
当期末残高	2,000,000	8,628,984	8,628,984	284,245	60,000	1,476,959	21,255,054

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	28,382,283	39,011,267	870,535	870,535	39,881,802
当期変動額					
剰余金の配当	9,489,438	9,489,438			9,489,438
当期純利益	4,183,413	4,183,413			4,183,413
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)			276,474	276,474	276,474
当期変動額合計	5,306,024	5,306,024	276,474	276,474	5,582,498
当期末残高	23,076,258	33,705,242	594,061	594,061	34,299,304

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金		
						配当準備 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金
当期首残高	2,000,000	8,628,984	-	8,628,984	284,245	60,000	1,476,959	21,255,054
当期変動額								
剰余金の配当								2,469,600
当期純利益								578,811
合併による増加			81,927,000	81,927,000				
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)								
当期変動額合計	-	-	81,927,000	81,927,000	-	-	-	1,890,788
当期末残高	2,000,000	8,628,984	81,927,000	90,555,984	284,245	60,000	1,476,959	19,364,265

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	23,076,258	33,705,242	594,061	594,061	34,299,304
当期変動額					
剰余金の配当	2,469,600	2,469,600			2,469,600
当期純利益	578,811	578,811			578,811
合併による増加		81,927,000			81,927,000
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）			216,206	216,206	216,206
当期変動額合計	1,890,788	80,036,211	216,206	216,206	79,820,005
当期末残高	21,185,470	113,741,454	377,855	377,855	114,119,309

注記事項

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。但し、建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 2～50年
器具備品 3～15年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、主な償却年数は次のとおりであります。

のれん 14年
顧客関連資産 6～19年
ソフトウェア（自社利用分） 5年（社内における利用可能期間）

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2)賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、将来の支給見込額のうち、当事業年度の負担額を計上しております。

(3)退職給付引当金

従業員の退職金支給に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時において一時に費用処理しております。

数理計算上の差異については、その発生時において一時に費用処理しております。

4.その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

前事業年度において「特別利益」に含めていた「投資有価証券売却益」及び「投資有価証券償還益」を「営業外収益」として、「特別損失」に含めていた「投資有価証券売却損」及び「投資有価証券償還損」を「営業外費用」として、表示する方法に変更しております。これは、合併を契機に検討した結果、投資有価証券の売却及び償還の大勢が自社設定投信等の処分によるものであり毎期経常的に発生するものとして、当事業年度から取引実態に沿った表示へと変更したものであります。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「特別利益」の「投資有価証券売却益」及び「投資有価証券償還益」に表示していた7,247千円及び289,451千円は「営業外収益」として、「特別損失」の「投資有価証券売却損」及び「投資有価証券償還損」に表示していた14,605千円及び13,668千円は「営業外費用」として組み替えております。

(貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
建物	350,176千円	466,875千円
器具備品	922,553千円	1,225,261千円
リース資産	- 千円	1,452千円

2 当座借越契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行1行と当座借越契約を締結しております。

当事業年度末における当座借越契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
当座借越極度額の総額	10,000,000千円	10,000,000千円
借入実行残高	- 千円	- 千円
差引額	10,000,000千円	10,000,000千円

3 保証債務

当社は、子会社であるSumitomo Mitsui DS Asset Management(USA)Inc.における賃貸借契約に係る賃借料に対し、2023年6月までの賃借料総額の支払保証を行っております。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
Sumitomo Mitsui DS Asset Management (USA)Inc.	174,854千円	132,559千円

(損益計算書関係)

1 固定資産除却損

	前事業年度 (自2018年4月1日 至2019年3月31日)	当事業年度 (自2019年4月1日 至2020年3月31日)

建物	- 千円	879千円
器具備品	695千円	119千円
リース資産	- 千円	5,377千円
ソフトウェア	766千円	1,596千円
ソフトウェア仮勘定	- 千円	102,695千円

2 合併関連費用

前事業年度の合併関連費用は、主に目論見書等の一斉改版費用及び当社と大和住銀投信投資顧問株式会社との合併に関する業務委託費用であります。

当事業年度の合併関連費用は、当社と大和住銀投信投資顧問株式会社との合併に関する業務委託費用等及び海外現地法人の統合に関する弁護士費用であります。

3 本社移転費用

本社移転費用は、本社事務所移転に伴い解約日までに賃貸期間の残存分(2020年7月13日から2020年9月30日まで)の賃料及び共益費相当額として133,168千円支払うものであります。

4 減損損失

当社は以下のとおり減損損失を計上しております。

(単位：千円)

場所	用途	種類	減損損失
千代田区	事業用資産	建物	46,417

当社は、資産と対応して継続的に収支の把握ができる単位が全社のみであることから全社資産の単一グループとしております。

上記事業用資産については、霞ヶ関オフィスの移転に係る意思決定をしたことに伴い将来の使用が見込めなくなった資産につき、回収可能額を零と見積もり、当該減少額を減損損失に計上しております。その内訳は、建物に計上した資産除去債務に対応する原状回復費用相当額であります。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)

1.発行済株式数に関する事項

	当期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	17,640株	17,622,360株	-	17,640,000株

2.剰余金の配当に関する事項

(1)配当金支払額等

当社は2018年11月1日付で普通株式1株につき1,000株の割合で株式分割を行っております。

当該株式分割は2018年11月1日を効力発生日としておりますので、2019年1月31日を基準日とする一株当たり配当額につきましては、株式分割後の株式数を基準に記載しております。

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年6月26日 定時株主総会	普通株式	2,822,400	160,000.00	2018年 3月31日	2018年 6月27日
2019年2月28日 臨時株主総会	普通株式	6,667,038	377.95	2019年 1月31日	2019年 3月22日

(2)基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生が翌事業年度になるもの

2019年6月24日開催の臨時株主総会において次の通り付議いたします。

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月24日 臨時株主総会	普通株式	利益剰余金	2,469,600	140.00	2019年 3月28日	2019年 6月25日

当事業年度(自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)

1.発行済株式数に関する事項

合併に伴う普通株式の発行により16,230,060株増加しております。

	当期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
--	--------	---------	---------	--------

普通株式	17,640,000株	16,230,060株	-	33,870,060株
------	-------------	-------------	---	-------------

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額等

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月24日 臨時株主総会	普通株式	2,469,600	140.00	2019年 3月28日	2019年 6月25日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生が翌事業年度になるもの

2020年6月29日開催の第35回定時株主総会において次の通り付議いたします。

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	711,271	21.00	2020年 3月31日	2020年 6月30日

(リース取引関係)

オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
1年以内	597,239	1,618,641
1年超	6,115,662	5,844,934
合計	6,712,901	7,463,576

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融サービス事業を行っています。そのため、資金運用については、短期的で安全性の高い金融資産に限定し、財務体質の健全性、安全性、流動性の確保を第一とし、顧客利益に反しない運用を行っています。また、資金調達及びデリバティブ取引は行っていません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収運用受託報酬及び未収投資助言報酬は、顧客の信用リスクに晒されています。未収委託者報酬は、信託財産中から支弁されるものであり、信託財産については受託者である信託銀行において分別管理されているため、リスクは僅少となっています。

投資有価証券については、主に事業推進目的のために保有する当社が設定する投資信託等であり、市場価格の変動リスク及び発行体の信用リスクに晒されています。関係会社株式については、主に全額出資の子会社の株式であり、発行体の信用リスクに晒されています。また、長期差入保証金は、建物等の賃借契約に関連する敷金等であり、差入先の信用リスクに晒されています。

営業債務である未払手数料は、すべて1年以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスクの管理

当社は、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、営業債権について、取引先毎の期日管理及び残高管理を行うとともに、その状況について取締役会に報告しています。

投資有価証券、子会社株式は発行体の信用リスクについて、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、定期的に管理を行い、その状況について取締役会に報告しています。

長期差入保証金についても、差入先の信用リスクについて、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、定期的に管理を行い、その状況について取締役会に報告しています。

市場リスクの管理

投資有価証券については、自己勘定資産の運用・管理に関する規程に従い、各所管部においては所管する有価証券について管理を、経営企画部においては総合的なリスク管理を行い、定期的に時価を把握しています。また、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、その状況について取締役会に報告しています。

なお、事業推進目的のために保有する当社が設定する投資信託等については、純資産額に対する保有制限を設けており、また、自社設定投信等の取得・処分に関する規則に従い、定期的に取り締役会において報告し、投資家の資金性格、金額、および投資家数等の状況から検討した結果、目的が達成されたと判断した場合には速やかに処分することとしています。

(4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格及び業界団体が公表する売買参考統計値等に基づく価額のほか、これらの価額がない場合には合理的に算定された価額が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることがあります。

2.金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれていません(注2)参照)。

前事業年度(2019年3月31日)

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	13,755,961	13,755,961	-
(2)顧客分別金信託	20,011	20,011	-
(3)未収委託者報酬	6,963,077	6,963,077	-
(4)未収運用受託報酬	1,129,548	1,129,548	-
(5)未収投資助言報酬	285,668	285,668	-
(6)投資有価証券 その他有価証券	10,829,330	10,829,330	-
(7)長期差入保証金	2,004,451	2,004,451	-
資産計	34,988,051	34,988,051	-
(1)顧客からの預り金	4,534	4,534	-
(2)未払手数料	3,246,133	3,246,133	-
負債計	3,250,667	3,250,667	-

当事業年度(2020年3月31日)

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	33,264,545	33,264,545	-
(2)顧客分別金信託	300,021	300,021	-
(3)未収委託者報酬	8,404,880	8,404,880	-
(4)未収運用受託報酬	2,199,785	2,199,785	-
(5)未収投資助言報酬	299,826	299,826	-
(6)投資有価証券 その他有価証券	19,391,111	19,391,111	-
(7)長期差入保証金	2,523,637	2,523,637	-
資産計	66,383,807	66,383,807	-
(1)顧客からの預り金	14,285	14,285	-
(2)未払手数料	3,776,873	3,776,873	-
負債計	3,791,158	3,791,158	-

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1)現金及び預金、(2)顧客分別金信託、(3)未収委託者報酬、(4)未収運用受託報酬及び(5)未収投資助言報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(6)投資有価証券

これらの時価について、投資信託等については取引所の価格、取引金融機関から提示された価格及び公表されている基準価格によっております。

(7)長期差入保証金

これらの時価については、敷金の性質及び賃貸借契約の期間から帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

負債

(1)顧客からの預り金及び(2)未払手数料

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位:千円)

区分	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
その他有価証券 非上場株式	298	45,369
合計	298	45,369
子会社株式及び関連会社株式 非上場株式	10,252,067	11,246,398
合計	10,252,067	11,246,398

その他有価証券については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであり、「(6) その他有価証券」には含めておりません。

子会社株式及び関連会社株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであることから、時価開示の対象とはしておりません。

(注3)金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度(2019年3月31日)

(単位:千円)

区分	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	13,755,961	-	-	-
顧客分別金信託	20,011	-	-	-
未収委託者報酬	6,963,077	-	-	-
未収運用受託報酬	1,129,548	-	-	-
未収投資助言報酬	285,668	-	-	-
長期差入保証金	54,900	1,949,551	-	-
合計	22,209,168	1,949,551	-	-

当事業年度(2020年3月31日)

(単位:千円)

区分	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	33,264,545	-	-	-
顧客分別金信託	300,021	-	-	-
未収委託者報酬	8,404,880	-	-	-
未収運用受託報酬	2,199,785	-	-	-
未収投資助言報酬	299,826	-	-	-
長期差入保証金	1,125,292	1,398,345	-	-
合計	45,594,350	1,398,345	-	-

(有価証券関係)

1.子会社株式及び関連会社株式

前事業年度(2019年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 関係会社株式10,252,067千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載していません。

当事業年度(2020年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額 関係会社株式11,246,398千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載していません。

2.その他有価証券

前事業年度(2019年3月31日)

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
(1)貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 投資信託等	7,545,410	6,613,088	932,322
小計	7,545,410	6,613,088	932,322
(2)貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 投資信託等	3,283,920	3,360,000	76,080

小計	3,283,920	3,360,000	76,080
合計	10,829,330	9,973,088	856,242

(注) 非上場株式等(貸借対照表計上額 298千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(2020年3月31日)

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
(1)貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 投資信託等	12,411,812	13,327,652	915,839
小計	12,411,812	13,327,652	915,839
(2)貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 投資信託等	6,413,317	6,063,458	349,858
小計	6,413,317	6,063,458	349,858
合計	18,825,130	19,391,111	565,980

(注) 非上場株式等(貸借対照表計上額 45,369千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

3. 事業年度中に売却したその他有価証券

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:千円)

売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
728,127	7,247	14,605

(単位:千円)

償還額	償還益の合計額	償還損の合計額
1,578,762	289,451	13,668

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位:千円)

売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
1,814,360	24,206	12,906

(単位:千円)

償還額	償還益の合計額	償還損の合計額
3,631,425	6,398	129,006

4. 減損処理を行った有価証券

前事業年度において、有価証券について160,455千円(関係会社株式160,455千円)減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては子会社株式及び関連会社株式については、当該株式の発行会社の財務状況等を勘案した上で、回復可能性を検討し、回復可能性のないものについて減損処理を行っております。

当事業年度において、減損処理を行った有価証券はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。また、確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。

2. 確定給付制度

(1)退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(単位:千円)

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
退職給付債務の期首残高	3,319,830	3,418,601
勤務費用	267,362	523,396
利息費用	-	-
数理計算上の差異の発生額	3,658	195
退職給付の支払額	85,082	349,050

過去勤務費用の発生額	79,850	-
合併による発生額	-	1,707,062
退職給付債務の期末残高	3,418,601	5,299,814

(2)退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	3,418,601	5,299,814
未認識数理計算上の差異	-	-
未認識過去勤務費用	-	-
退職給付引当金	3,418,601	5,299,814

(3)退職給付費用及びその内訳項目の金額

(単位：千円)

	前事業年度 (自2018年4月1日 至2019年3月31日)	当事業年度 (自2019年4月1日 至2020年3月31日)
勤務費用	267,362	492,511
利息費用	-	-
数理計算上の差異の費用処理額	3,658	195
過去勤務費用償却益	79,850	-
その他	199,849	304,842
確定給付制度に係る退職給付費用	383,703	797,158

(注) その他は、その他の関係会社等からの出向者の年金掛金負担分及び退職給付引当額相当額負担分、退職定年制度適用による割増退職金並びに確定拠出年金への拠出額であります。

(4)数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎(加重平均で表わしております。)

	前事業年度 (自2018年4月1日 至2019年3月31日)	当事業年度 (自2019年4月1日 至2020年3月31日)
割引率	0.000%	0.000%

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度156,457千円、当事業年度248,932千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	1,046,775	1,622,803
賞与引当金	400,242	530,059
調査費	80,983	178,573
未払金	57,192	162,557
未払事業税	54,797	46,423
ソフトウェア償却	17,501	91,937
子会社株式評価損	50,580	114,876
その他有価証券評価差額金	-	150,771
その他	32,218	88,250
繰延税金資産小計	1,740,292	2,986,254
評価性引当額(注)	51,729	193,485
繰延税金資産合計	1,688,563	2,792,768

繰延税金負債

無形固定資産	-	5,445,817
その他有価証券評価差額金	262,181	310,488
繰延税金負債合計	262,181	5,756,306
繰延税金資産（負債）の純額	1,426,381	2,963,538

（注）評価性引当額が141,756千円増加しております。この増加の内容は、主として大和住銀投信投資顧問株式会社との合併によるものであります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
（調整）		
評価性引当額の増減	0.8	3.5
受取配当等永久に益金に算入されない項目	-	13.9
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.9	7.3
住民税均等割等	0.1	0.5
所得税額控除による税額控除	1.4	0.5
のれん償却費	-	44.1
その他	0.4	3.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	30.5	68.4

（セグメント情報等）

前事業年度(自2018年4月1日至2019年3月31日)

1. セグメント情報

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融商品取引業を中心とする営業活動を展開しております。これらの営業活動は、金融その他の役務提供を伴っており、この役務提供と一体となった営業活動を基に収益を得ております。

従って、当社の事業区分は、「投資・金融サービス業」という単一の事業セグメントに属しており、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

2. 関連情報

(1) 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	委託者報酬	運用受託報酬	投資助言報酬	その他	合計
外部顧客への営業収益	39,156,499	6,277,217	1,332,888	232,009	46,998,614

(2) 地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

(3) 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

5.報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報
該当事項はありません。

当事業年度(自 2019年 4月 1日 至2020年 3月31日)

1.セグメント情報

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融商品取引業を中心とする営業活動を展開しております。これらの営業活動は、金融その他の役務提供を伴っており、この役務提供と一体となった営業活動を基に収益を得ております。

従って、当社の事業区分は、「投資・金融サービス業」という単一の事業セグメントに属しており、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

2.関連情報

(1)製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	委託者報酬	運用受託報酬	投資助言報酬	その他	合計
外部顧客への 営業収益	54,615,133	9,389,058	1,303,595	213,482	65,521,269

(2)地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

(3)主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

3.報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

当社は、投資・金融サービス業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

4.報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

当社は、投資・金融サービス業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

5.報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

前事業年度(自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1)兄弟会社等

(単位：千円)

種類	会社等の 名称又は 氏名	所在地	資本金、出資金 又は基金	事業の 内容又 は職業	議決権等の 所有(被所 有)割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社 の 子会社	(株)三井住友 銀行	東京都 千代田区	1,770,996,505	銀行業	%	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	2,499,836	未払 手数料	399,447
親会社 の 子会社	SMBC日興 証券(株)	東京都 千代田区	10,000,000	証券業	%	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	5,789,062	未払 手数料	1,154,875

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

投信の販売委託については、一般取引条件を基に、協議の上決定しております。

2. 親会社に関する注記

株式会社三井住友フィナンシャルグループ(東京証券取引所、名古屋証券取引所、ニューヨーク証券取引所に上場)

当事業年度(自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1) 兄弟会社等

(単位：千円)

種類	会社等の 名称又は 氏名	所在地	資本金、出資金 又は基金	事業の 内容又 は職業	議決権等の 所有(被所 有)割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社 の 子会社	(株)三井住友 銀行	東京都 千代田区	1,770,996,505	銀行業	%	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	3,703,669	未払 手数料	644,246
親会社 の 子会社	SMB C日興 証券(株)	東京都 千代田区	10,000,000	証券業	%	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	6,265,593	未払 手数料	890,935

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

投信の販売委託については、一般取引条件を基に、協議の上決定しております。

2. 親会社に関する注記

株式会社三井住友フィナンシャルグループ(東京証券取引所、名古屋証券取引所、ニューヨーク証券取引所に上場)

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)	当事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日)
1株当たり純資産額	1,944.40円	3,369.33円
1株当たり当期純利益金額	237.15円	17.09円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 当社は、2018年11月1日付で普通株式1株につき1,000株の割合で株式分割を行っております。

1株当たり情報については、当該株式分割を2019年3月期の期首(2018年4月1日)に行ったものと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)	当事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(千円)	4,183,413	578,811
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額(千円)	4,183,413	578,811
期中平均株式数(株)	17,640,000	33,870,060

(企業結合等関係)

(取得による企業結合)

当社は、2018年9月28日開催の当社取締役会において、当社と大和住銀投信投資顧問株式会社との間で合併契約を締結することについて決議し、同日付で締結しました。本合併契約に基づき、当社と大和住銀投信投資顧問株式会社は、2019年4月1日付で合併いたしました。

1. 企業結合の概要

(1)被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称 大和住銀投信投資顧問株式会社
事業の内容 投資運用業、投資助言・代理業等

(2)企業結合を行った主な理由

資産運用ビジネスはグローバルに成長拡大しており、お客さまから求められる運用力やサービスはますます高度化しております。本件合併は、このようなお客さまからのニーズに対応するために、両運用会社の持つ強み・ノウハウを結集した、フィデューシャリー・デューティーに基づく最高品質の運用パフォーマンスとサービスを提供する資産運用会社の実現を図るものであります。

(3)企業結合日

2019年4月1日

(4)企業結合の法的形式

当社を存続会社とし、大和住銀投信投資顧問株式会社を消滅会社とする吸収合併方式であります。

(5)結合後企業の名称

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

(6)取得企業を決定するに至った主な根拠

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)の考え方に基づき、当社を取得企業としております。

2. 財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2019年4月1日から2020年3月31日

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	企業結合日に交付した当社の普通株式の時価	81,927,000千円
取得原価		81,927,000千円

4. 合併比率及びその算定方法並びに交付した株式数

(1)合併比率

大和住銀投信投資顧問株式会社の普通株式1株に対し、当社の普通株式4.2156株を割当交付いたしました。

(2)合併比率の算定方法

当社はEYトランザクション・アドバイザー・サービス株式会社を、大和住銀投信投資顧問株式会社はPwCアドバイザー合同会社を、合併比率の算定に関する第三者算定機関としてそれぞれ選定し、各第三者算定機関による算定結果を参考に、両社の財務状況、資産の状況、将来の見通し等の要因を総合的に勘案し、合併比率について慎重に協議を重ねた結果、合併比率が妥当であると判断し、合意に至ったものであります。

(3)交付した株式数

普通株式：16,230,060株

5. 主要な取得関連費用の内容及び金額

業務委託費用及びデューデリジェンス費用等 37,723千円

6. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1)発生したのれんの金額

37,043,811千円

(2)発生原因

被取得企業から受け入れた資産及び引き受けた負債の純額と取得原価との差額によります。

(3)償却方法及び償却期間

14年にわたる均等償却

7. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	24,546,329千円
固定資産	34,001,531千円
資産合計	58,547,860千円

流動負債	5,406,939千円
固定負債	<u>8,257,731千円</u>
負債合計	<u>13,664,671千円</u>

(参考) 大和住銀投信投資顧問株式会社の経理状況

当該(参考)において、大和住銀投信投資顧問株式会社を「委託会社」または「当社」といいます。

1. 委託会社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。)並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年8月6日内閣府令第52号。)により作成しております。
2. 財務諸表の記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
3. 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第47期事業年度(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任あずさ監査法人による監査を受けております。

独立監査人の監査報告書

令和1年6月14日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 飯田 浩 司 印
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 佐藤 栄 裕 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三井住友DSアセットマネジメント株式会社（旧会社名 大和住銀投信投資顧問株式会社）の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの第47期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友DSアセットマネジメント株式会社（旧会社名 大和住銀投信投資顧問株式会社）の平成31年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社と三井住友アセットマネジメント株式会社は、平成31年4月1日付で合併した。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注1） 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

（注2） XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

（1）貸借対照表

（単位：千円）

第46期

第47期

(平成30年3月31日)

(平成31年3月31日)

資産の部		
流動資産		
現金・預金		21,360,895
前払費用		204,460
未収入金		12,823
未収委託者報酬		3,363,312
未収運用受託報酬		1,198,432
未収収益		41,310
その他		7,553
流動資産計		26,188,788
固定資産		
有形固定資産		
建物	1	75,557
器具備品	1	122,169
土地		710
リース資産	1	7,275
有形固定資産計		205,712
無形固定資産		
ソフトウェア		73,887
ソフトウェア仮勘定		-
電話加入権		12,706
無形固定資産計		86,593
投資その他の資産		
投資有価証券		10,257,600
関係会社株式		956,115
従業員長期貸付金		1,170
長期差入保証金		534,699
出資金		82,660
繰延税金資産		1,041,251
その他		-
貸倒引当金		20,750
投資その他の資産計		12,852,746
固定資産計		13,145,052
資産合計		39,333,840

(単位：千円)

負債の部		
流動負債		
	第46期 (平成30年3月31日)	第47期 (平成31年3月31日)
リース債務	3,143	3,583
未払金	29,207	1,555,486
未払手数料	1,434,393	1,222,461
未払費用	1,287,722	1,203,269
未払法人税等	1,397,293	264,304
未払消費税等	135,042	48,437
賞与引当金	1,263,100	1,007,040
役員賞与引当金	85,600	72,900

その他	23,128	29,455
流動負債計	5,658,632	5,406,939
固定負債		
リース債務	4,698	5,173
退職給付引当金	1,540,203	1,707,062
役員退職慰労引当金	88,050	-
長期未払金	-	204,333
資産除去債務	-	248,260
固定負債計	1,632,952	2,164,829
負債合計	7,291,585	7,571,769

(単位：千円)

	第46期 (平成30年3月31日)	第47期 (平成31年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金		
資本準備金	156,268	156,268
資本剰余金合計	156,268	156,268
利益剰余金		
利益準備金	343,731	343,731
その他利益剰余金		
別途積立金	1,100,000	1,100,000
繰越利益剰余金	28,387,042	27,516,774
利益剰余金合計	29,830,773	28,960,505
株主資本合計	31,987,042	31,116,774
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	55,213	39,124
評価・換算差額等合計	55,213	39,124
純資産合計	32,042,255	31,077,650
負債純資産合計	39,333,840	38,649,419

(2) 損益計算書

(単位：千円)

	第46期 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)	第47期 (自平成30年4月1日 至平成31年3月31日)
営業収益		
運用受託報酬	5,111,757	4,252,374
委託者報酬	26,383,145	24,415,734
その他営業収益	82,997	66,957
営業収益計	31,577,899	28,735,066
営業費用		
支払手数料	11,900,832	10,708,502
広告宣伝費	93,131	196,206
公告費	-	293
調査費		

調査費	1,637,364	2,076,042
委託調査費	2,959,680	3,032,753
委託計算費	79,120	77,597
営業雑経費		
通信費	42,497	38,715
印刷費	517,371	507,540
協会費	24,374	24,325
諸会費	3,778	1,994
その他	122,930	63,596
営業費用計	17,381,079	16,727,567
一般管理費		
給料		
役員報酬	218,127	217,030
給料・手当	2,809,008	3,002,836
賞与	86,028	48,878
退職金	9,864	2,855
福利厚生費	647,269	638,399
交際費	29,121	38,883
旅費交通費	159,224	153,694
租税公課	199,255	160,817
不動産賃借料	622,807	639,392
退職給付費用	219,724	324,082
固定資産減価償却費	71,624	141,154
賞与引当金繰入額	1,263,100	1,007,040
役員退職慰労引当金繰入額	36,130	102,860
役員賞与引当金繰入額	85,500	72,900
諸経費	901,001	1,011,941
一般管理費計	7,357,787	7,562,768
営業利益	6,839,032	4,444,730
営業外収益		
受取配当金	23,350	35,946
受取利息	199	178
投資有価証券売却益	6,350	45,345
その他	2,831	10,431
営業外収益計	32,732	91,902
営業外費用		
投資有価証券売却損	5,000	4,735
解約違約金	-	982
為替差損	1,784	828
その他	0	410
営業外費用計	6,784	6,956
経常利益	6,864,980	4,529,676
特別損失		
合併関連費用	2	179,376
固定資産除却損	-	4,121
特別損失計	-	183,498
税引前当期純利益	6,864,980	4,346,177
法人税、住民税及び事業税	2,242,775	1,339,010
法人税等調整額	78,014	73,635
法人税等合計	2,164,761	1,412,646
当期純利益	4,700,218	2,933,531

(3) 株主資本等変動計算書

第46期（自平成29年4月1日至平成30年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	利益剰余金	
		資本準備金	資本剰余金 合計		利益準備金	その他利益剰余金
					別途積立金	繰越利益剰余金
当期首残高	2,000,000	156,268	156,268	343,731	1,100,000	26,100,773
当期変動額						
剰余金の配当						2,413,950
当期純利益						4,700,218
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						
当期変動額合計	-	-	-	-	-	2,286,268
当期末残高	2,000,000	156,268	156,268	343,731	1,100,000	28,387,042

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	27,544,504	29,700,773	37,917	37,917	29,738,691
当期変動額					
剰余金の配当	2,413,950	2,413,950			2,413,950
当期純利益	4,700,218	4,700,218			4,700,218
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			17,295	17,295	17,295
当期変動額合計	2,286,268	2,286,268	17,295	17,295	2,303,564
当期末残高	29,830,773	31,987,042	55,213	55,213	32,042,255

第47期（自平成30年4月1日至平成31年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	利益剰余金	
		資本準備金	資本剰余金 合計		利益準備金	その他利益剰余金
					別途積立金	繰越利益剰余金
当期首残高	2,000,000	156,268	156,268	343,731	1,100,000	28,387,042
当期変動額						
剰余金の配当						3,803,800
当期純利益						2,933,531
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						
当期変動額合計	-	-	-	-	-	870,268
当期末残高	2,000,000	156,268	156,268	343,731	1,100,000	27,516,774

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	29,830,773	31,987,042	55,213	55,213	32,042,255
当期変動額					
剰余金の配当	3,803,800	3,803,800			3,803,800
当期純利益	2,933,531	2,933,531			2,933,531
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			94,337	94,337	94,337
当期変動額合計	870,268	870,268	94,337	94,337	964,605
当期末残高	28,960,505	31,116,774	39,124	39,124	31,077,650

注記事項

（重要な会計方針）

- 1.有価証券の評価基準及び評価方法
- (1) 子会社株式及び関連会社株式
総平均法による原価法を採用しております。
- (2) その他有価証券
- 時価のあるもの
決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は総平均法により算出し、評価差額は全部純資産直入法により処理しております。）を採用しております。
- 時価のないもの
総平均法による原価法を採用しております。
- 2.固定資産の減価償却の方法
- (1) 有形固定資産（リース資産を除く）
定率法を採用しております。ただし、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。
- 建物 2～30年
器具備品 4～15年
- （会計上の見積りの変更）
当事業年度において、当社と三井住友アセットマネジメント株式会社（以下「SMAM」）との間で合併契約を締結したことに伴い、将来利用不能となる固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更しております。
- これにより、従来の方法に比べて、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ15,534千円減少しております。
- (2) 無形固定資産（リース資産を除く）
定額法を採用しております。
- なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。
- (3) リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
- 3.引当金の計上基準
- (1) 貸倒引当金
債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- (2) 賞与引当金
従業員賞与の支払に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金 役員賞与の支払に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。
(4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、社内規定に基づく当事業年度末の要支給額を計上しております。 これは、当社の退職金は、将来の昇給等による給付額の変動がなく、貢献度、能力及び実績に応じて、各事業年度ごとに各人別に勤務費用が確定するためです。
(5) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支払に備えるため、役員退職慰労金規程に基づき事業年度末における要支給額を計上しております。
4.その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

（表示方法の変更）

（「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」504,497千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」1,041,251千円に含めて表示しております。

（追加情報）

当社は、平成31年3月22日開催の臨時株主総会において、退任となる取締役及び監査役に対して、在任中の労に報いるため、当社所定の基準による相当額の範囲内で役員退職慰労金を支給することを決議しました。

これに伴い、当事業年度において役員退職慰労引当金184,610千円を長期未払金に振り替えております。

（貸借対照表関係）

第46期 (平成30年3月31日)	第47期 (平成31年3月31日)
1.有形固定資産の減価償却累計額	1.有形固定資産の減価償却累計額
建物 465,964千円	建物 556,889千円
器具備品 266,621千円	器具備品 297,262千円
リース資産 8,719千円	リース資産 12,584千円

（損益計算書関係）

第46期 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)	第47期 (自平成30年4月1日 至平成31年3月31日)
-	2. 合併関連費用は、主に目論見書等の一斉改版費用及び当社とS M A Mとの合併に関する業務委託費用であります。

（株主資本等変動計算書関係）

第46期（自平成29年4月1日至平成30年3月31日）

1.発行済株式に関する事項

（単位：千株）

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	3,850	-	-	3,850
合計	3,850	-	-	3,850

2.配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月23日 定時株主総会	普通株式	2,413,950	627	平成29年3月31日	平成29年6月24日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の 原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成30年6月22日 定時株主総会	普通 株式	2,348,500	利益 剰余金	610	平成30年3月31日	平成30年6月23日

第47期（自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日）

1.発行済株式に関する事項

(単位：千株)

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	3,850	-	-	3,850
合計	3,850	-	-	3,850

2.配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年6月22日 定時株主総会	普通株式	2,348,500	610	平成30年3月31日	平成30年6月23日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の 原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成31年3月22日 臨時株主総会	普通 株式	1,455,300	利益 剰余金	378	平成31年3月31日	令和1年6月25日

(金融商品関係)

1.金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業及び投資助言・代理業などの資産運用事業を行っております。余裕資金は安全で流動性の高い金融資産で運用し、銀行からの借入や社債の発行はありません。

安全性の高い金融商品での短期的な運用の他に、自社ファンドの設定に自己資本を投入しております。その自己設定投信は、事業推進目的で保有しており、設定、解約又は償還に関しては、社内規定に従っております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

主たる営業債権は、投資運用業等より発生する未収委託者報酬、未収運用受託報酬であります。

これらの債権は、全て1年以内の債権であり、そのほとんどが信託財産の中から支払われるため、回収不能となるリスクは極めて軽微であります。

未収入金は、当社より他社へ出向している従業員給与等であり、1年以内の債権であります。

投資有価証券は、その大半が事業推進目的で設定した投資信託であり、価格変動リスク及び為替変動リスクに晒されております。

長期差入保証金は、建物等の賃借契約に関連する敷金であり、差入先の信用リスクに晒されております。

未払手数料は、投資信託の販売に係る支払手数料であります。また、未払費用は、投資信託の運用に

係る再委託手数料、及び業務委託関連費用であります。

これらの債務は、全て1年以内の債務であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、社内規定に従って取引先を選定し、担当部門で取引先の状況を定期的にモニタリングし、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社は、投資有価証券の一部を除いて、資金決済のほとんどを自国通貨で行っているため、為替の変動リスクは極めて限定的であります。

投資有価証券のうち自己設定投信については、その残高及び損益状況等を定期的に経営会議に報告しております。

なお、デリバティブ取引については行っておりません。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、社内規定に従って手元流動性を維持することにより、流動性リスクを管理しております。

2.金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含めておりません(注2)を参照ください)。

第46期(平成30年3月31日)

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	21,360,895	21,360,895	-
(2) 未収委託者報酬	3,363,312	3,363,312	-
(3) 未収運用受託報酬	1,198,432	1,198,432	-
(4) 未収入金	12,823	12,823	-
(5) 投資有価証券 その他有価証券	10,206,465	10,206,465	-
資産計	36,141,929	36,141,929	-
(1) 未払手数料	1,434,393	1,434,393	-
(2) 未払費用(*)	959,074	959,074	-
負債計	2,393,468	2,393,468	-

(*) 金融商品に該当するものを表示しております。

第47期(平成31年3月31日)

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	20,475,527	20,475,527	-
(2) 未収委託者報酬	2,923,589	2,923,589	-
(3) 未収運用受託報酬	870,546	870,546	-
(4) 未収入金	4,542	4,542	-
(5) 投資有価証券 その他有価証券	10,979,968	10,979,968	-
(6) 長期差入保証金	524,592	524,592	-
資産計	35,778,767	35,778,767	-
(1) 未払手数料	1,222,461	1,222,461	-
(2) 未払費用(*)	807,875	807,875	-
負債計	2,030,337	2,030,337	-

(*) 金融商品に該当するものを表示しております。

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

- (1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収運用受託報酬及び(4) 未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- (5) 投資有価証券

投資信託であり、公表されている基準価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

- (6) 長期差入保証金

敷金の性質及び賃貸借契約の期間から、時価は当該帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額によっております。

負債

- (1) 未払手数料、及び(2) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	第46期(平成30年3月31日)	第47期(平成31年3月31日)
(1) その他有価証券 非上場株式	51,135	45,071
(2) 子会社株式 非上場株式	956,115	956,115
(3) 長期差入保証金	534,699	9,677

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象としておりません。このため、(1) その他有価証券の非上場株式については2.(5) 投資有価証券には含めておりません。

(注3)金銭債権及び満期がある有価証券の決算日以後の償還予定額

第46期(平成30年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金・預金	21,360,895	-	-	-
未収委託者報酬	3,363,312	-	-	-
未収運用受託報酬	1,198,432	-	-	-
未収入金	12,823	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券の うち満期があるもの	1,923,400	373,466	657,576	-
合計	27,858,863	373,466	657,576	-

第47期(平成31年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金・預金	20,475,527	-	-	-
未収委託者報酬	2,923,589	-	-	-
未収運用受託報酬	870,546	-	-	-
未収入金	4,542	-	-	-
投資有価証券				

その他有価証券の うち満期があるもの	151,249	2,135,802	761,441	-
長期差入保証金	-	524,592	-	-
合計	24,425,455	2,660,395	761,441	-

(有価証券関係)

1.子会社株式

第46期(平成30年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額、関係会社株式 956,115千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

第47期(平成31年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額、関係会社株式 956,115千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2.その他有価証券

第46期(平成30年3月31日)

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
その他 証券投資信託の受益証券	2,522,495	2,276,821	245,674
小計	2,522,495	2,276,821	245,674
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
その他 証券投資信託の受益証券	7,683,969	7,850,063	166,093
小計	7,683,969	7,850,063	166,093
合計	10,206,465	10,126,884	79,580

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額 51,135千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

第47期(平成31年3月31日)

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
その他 証券投資信託の受益証券	2,207,351	1,967,041	240,309
小計	2,207,351	1,967,041	240,309
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
その他 証券投資信託の受益証券	8,772,616	9,069,317	296,700
小計	8,772,616	9,069,317	296,700
合計	10,979,968	11,036,359	56,391

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額 45,071千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3.当事業年度中に売却したその他有価証券

第46期（自平成29年4月1日 至平成30年3月31日）

（単位：千円）

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
その他	398,350	6,350	5,000

第47期（自平成30年4月1日 至平成31年3月31日）

（単位：千円）

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
その他	1,433,609	45,345	4,735

（退職給付関係）

1.採用している退職給付制度の概要

当社は、退職金規程に基づく退職一時金制度のほか、確定拠出年金制度を採用しております。

なお、当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2.簡便法を適用した確定給付制度

（1）簡便法を採用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

（単位：千円）

	第46期 （自平成29年4月1日 至平成30年3月31日）	第47期 （自平成30年4月1日 至平成31年3月31日）
退職給付引当金の期首残高	1,482,500	1,540,203
退職給付費用	147,235	248,717
退職給付の支払額	105,520	61,499
その他	15,987	20,359
退職給付引当金の期末残高	1,540,203	1,707,062

（注）前事業年度のその他は、転籍者の退職給付引当金受入れ額であります。

当事業年度のその他は、主に長期未払金への振り替えであります。

（2）退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

（単位：千円）

	第46期 （平成30年3月31日）	第47期 （平成31年3月31日）
積立型制度の退職給付債務	-	-
年金資産	-	-
	-	-
非積立型制度の退職給付債務	1,540,203	1,707,062
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,540,203	1,707,062
退職給付引当金	1,540,203	1,707,062
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,540,203	1,707,062

（3）退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 第46期 147,235千円 第47期 248,717千円

3.確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、第46期は72,489千円、第47期は75,365千円であります。

（税効果会計関係）

1.繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	(単位：千円)	
	第46期 (平成30年3月31日)	第47期 (平成31年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	71,030	23,058
賞与引当金	386,761	308,355
社会保険料	30,549	27,751
未払事業所税	4,247	4,370
退職給付引当金	471,610	522,702
資産除去債務	-	77,318
投資有価証券	67,546	65,422
ゴルフ会員権	11,000	11,000
役員退職慰労引当金	26,961	-
その他有価証券評価差額金	-	17,266
その他	74,458	83,141
繰延税金資産小計	1,144,165	1,140,388
評価性引当額	78,546	76,422
繰延税金資産合計	1,065,618	1,063,965
繰延税金負債		
建物	-	54,715
その他有価証券評価差額金	24,367	-
繰延税金負債合計	24,367	54,715
繰延税金資産の純額	1,041,251	1,009,250

2.法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	第46期 (平成30年3月31日)		第47期 (平成31年3月31日)	
	法定実効税率	-	-	30.62%
(調整)				
交際費等永久に損金に算入されない項目	-	-	0.80%	
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	-	-	0.09%	
特定外国子会社等課税対象金額	-	-	1.99%	
税額控除	-	-	0.64%	
その他	-	-	0.36%	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	-	-	32.50%	

(注) 前事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

主として本社の不動産賃貸契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

当該契約に基づく退去予定期限までの期間を使用見込期間と見積り、資産除去債務の金額を計算しております。
なお、割引計算による金額の重要性が乏しいことから、割引前の見積り額を計上しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

当事業年度において、主として本社の不動産賃貸契約に伴う原状回復義務等について合理的な見積りが可能となったことから、「(2)当該資産除去債務の金額の算定方法」に記載の算定方法に則り、資産除去債務の金額を計算しております。資産除去債務の残高の推移は次のとおりであります。

(単位：千円)

	第46期 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	第47期 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)
期首残高	-	-
見積りの変更による増加額	-	248,260
期末残高	-	248,260

(セグメント情報等)

セグメント情報

1.報告セグメントの概要

当社は、「投資・金融サービス業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

関連情報

第46期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1.製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	投資信託委託業	投資一任業務	その他	合計
外部顧客からの営業収益	26,383,145	5,111,757	82,997	31,577,899

2.地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の顧客からの営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3.主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益10%以上を占める相手先がないため、記載は省略しております。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

第47期(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)

1.製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	投資信託委託業	投資一任業務	その他	合計
外部顧客からの営業収益	24,415,734	4,252,374	66,957	28,735,066

2.地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の顧客からの営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益10%以上を占める相手先がないため、記載は省略しております。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

(関連当事者との取引)

第46期(自平成29年4月1日至平成30年3月31日)

兄弟会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (億円)	事業の 内容又は 職業	議決権 等の所有 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
その他の関係会社の子会社	大和証券株式会社	東京都千代田区	1,000	証券業	-	当社投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払 1	3,987,525	未払手数料	573,578
その他の関係会社の子会社	株式会社三井住友銀行	東京都千代田区	17,709	銀行業	-	当社投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払 1	1,969,101	未払手数料	273,241

取引条件及び取引条件の決定方針等

- 1 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性格等を勘案し総合的に決定しております。
- 2 上記金額の内、取引金額には消費税が含まれておらず、期末残高には消費税が含まれています。

第47期(自平成30年4月1日至平成31年3月31日)

兄弟会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (億円)	事業の 内容又は 職業	議決権 等の所有 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
その他の関係会社の子会社	大和証券株式会社	東京都千代田区	1,000	証券業	-	当社投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払 1	4,328,153	未払手数料	540,879

その他の関係会社の子会社	株式会社 三井住友銀行	東京都千代田区	17,709	銀行業	-	当社投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払 1	1,465,685	未払手数料	228,197
--------------	----------------	---------	--------	-----	---	-------------------	---------------------	-----------	-------	---------

取引条件及び取引条件の決定方針等

- 1 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性格等を勘案し総合的に決定しております。
- 2 上記金額の内、取引金額には消費税が含まれておらず、期末残高には消費税が含まれています。

(1株当たり情報)

	第46期 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)	第47期 (自平成30年4月1日 至平成31年3月31日)
1株当たり純資産額	8,322円66銭	8,072円12銭
1株当たり当期純利益金額	1,220円84銭	761円96銭

(注)潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

1株当たりの当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第46期 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)	第47期 (自平成30年4月1日 至平成31年3月31日)
当期純利益(千円)	4,700,218	2,933,531
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	4,700,218	2,933,531
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,850	3,850

(重要な後発事象)

当社は、平成30年9月28日付で締結した、S M A Mとの合併契約書に基づき、当社を消滅会社とし、S M A Mを存続会社とする吸収合併方式により、平成31年4月1日付で合併いたしました。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- イ 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- ロ 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- ハ 通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)または子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する

者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引または店頭デリバティブ取引を行うこと。

- 二 委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- ホ 上記八、二に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

イ 定款の変更、その他の重要事項

(イ) 定款の変更

2020年1月24日付で、総則の「目的」に関する事項の定款の変更を行いました。

(ロ) その他の重要事項

該当ありません。

ロ 訴訟事件その他会社に重要な影響を与えることが予想される事実

該当ありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1)受託会社

名称	資本金の額(百万円) 2020年3月末現在	事業の内容
三井住友信託銀行株式会社	342,037	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。

<参考：再信託受託会社(株式会社日本カストディ銀行)の概要>

- ・ 資本金：51,000百万円(2020年3月末現在)
- ・ 事業の内容：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。
- ・ 再信託の目的：原信託契約にかかる信託事務の一部(信託財産の管理)を原信託受託会社から再信託受託会社(株式会社日本カストディ銀行)へ委託するため、原信託財産の全てを再信託受託会社へ移管することを目的とします。

株式会社日本カストディ銀行は、2020年7月27日に日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社、資産管理サービス信託銀行株式会社およびJTCホールディングス株式会社が合併して発足しました。

(2)販売会社

名称	資本金の額(百万円) 2020年3月末現在	事業の内容
auカブコム証券株式会社	7,196	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
株式会社SBI証券	48,323	
楽天証券株式会社	7,495	
東海東京証券株式会社	6,000	
内藤証券株式会社	3,002	
SMB C日興証券株式会社	10,000	
FFG証券株式会社	3,000	

2【関係業務の概要】

(1)受託会社

ファンドの受託会社として、信託財産に属する有価証券の保管・管理・計算等およびその信託事務処理の一部の委託等を行います。

(2)販売会社

日本におけるファンドの募集・販売業務、解約金・償還金、収益分配金の支払い等に関する事務等を行います。

3【資本関係】

(持株比率5%以上を記載しています。)

該当事項はありません。

第3【参考情報】

当計算期間において、本ファンドに係る金融商品取引法第25条第1項各号に掲げる書類は、以下のとおり関東財務局長宛に提出しております。

書類名	提出年月日
臨時報告書	2019年11月1日
有価証券届出書	2020年1月24日
有価証券報告書	2020年1月24日
臨時報告書	2020年2月7日

独立監査人の監査報告書

2020年6月15日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 羽 太 典 明 印指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 菅 野 雅 子 印指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 佐 藤 栄 裕 印**監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三井住友DSアセットマネジメント株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第35期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友DSアセットマネジメント株式会社の2020年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。 2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

令和2年6月5日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 石井 勝也 印
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 佐藤 栄裕 印
業務執行社員**監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている日本株225・米ドルコースの令和1年10月26日から令和2年4月27日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本株225・米ドルコースの令和2年4月27日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注1) 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注2) XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

令和2年6月5日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 石井 勝也 印
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 佐藤 栄裕 印
業務執行社員**監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている日本株225・ブラジルリアルコースの令和1年10月26日から令和2年4月27日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本株225・ブラジルリアルコースの令和2年4月27日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注1) 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注2) XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

令和2年6月5日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 石井 勝也 印
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 佐藤 栄裕 印
業務執行社員**監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている日本株225・豪ドルコースの令和1年10月26日から令和2年4月27日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本株225・豪ドルコースの令和2年4月27日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注1) 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注2) XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

令和2年6月5日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石井 勝也 印指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 佐藤 栄裕 印**監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている日本株225・資源3通貨コースの令和1年10月26日から令和2年4月27日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本株225・資源3通貨コースの令和2年4月27日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注1) 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注2) XBRLデータは監査の対象には含まれていません。